

戦前期三井物産の支店金融

—明治36年～大正7年について—

麻島 昭一

目 次

1. はじめに	2
2. 支店金融の枠組み	3
1) 資金調達の手段	3
(1) 正金銀行の限界と他行利用	4
(2) 本支店貸借	7
(3) 当座借越	9
(4) 融通手形、手形割引	10
2) 支店別の金融事情	11
3. 明治36～37年の考察	19
1) 内地各店の金融	19
2) 外地各店の金融	23
4. 明治41年～大正3年上期の考察	26
1) 店部別営業活動の推移	26
2) 支店の金融	33
(1) 本支店貸借	33
(2) 当座預金	34
(3) 借入金	39
(4) 割引手形	40
(5) 外国為替手形支払承諾	41
(6) 外国荷為替取組高	43
5. 大正3年下期～7年上期の考察	49
1) 店部別営業活動の推移	49
2) 支店の金融	50
(1) 本支店貸借	50
(2) 当座預金	61
(3) 借入金	63
(4) 割引手形	65
(5) 外国為替手形支払承諾	69
(6) 外国荷為替取組高	75
6. むすび	83
編集後記	87

1. はじめに

戦前期の三井物産の金融的側面は、意外なほど明らかでない。営業活動の大きな発展、あるいは営業活動の変化を支えていた金融の重要性は言うまでもないはずであるが、その実情を解明できる資料がないために手が着けられなかったのである。もう少し言えば、物産の営業報告書をもても簡単すぎて、金融面は全く分からず、『三井事業史』や社史においても概要か部分的記述にとどまり、金融の実像は見えてこず、何らかの方法・努力によって金融面の解明が必要だったといえよう。

その中であって、資料不足の打開のために三井物産の元帳に着目し、金融に関する事実を発掘して組み立てたのが一連の拙稿であった。とくに物産の銀行取引に限定しての作業であるが、預金、借入、手形割引などの実情をかなり浮上させることが出来た。しかし使用できた元帳は物産本店のそれであるため、本支店を含めた物産の全体像の解明には及び得なかったわけである。支店での金融の解明が残された課題となっていたが、支店での元帳が得られぬ以上、本店元帳で果たした分析方法は採り得ず、別な方法を模索することになった。物産が残した「事業報告」には、営業報告書では知り得ない金融に関する諸表が含まれており、その中に本支店別の金融諸計数が存在する。本稿の分析は「事業報告」および「事業報告書」⁽¹⁾を基礎に展開されるが、限られた物産資料の中で、本支店別の金融諸計数が得られるのは、目下のところ「事業報告」等以外にはないからである。もちろん「事業報告」等の利用においてもいくつかの限界がある。

第1に、時系列に諸計数が得られるのは、物産が合名会社から株式会社に改組されてからのこと(営業報告書もそこから第1期が始まる)、金融諸計数の記載が廃止される大正7年上期までである。その間8年半に過ぎないが、その間でも項目の分類変更があり、一貫して時系列的分析が出来るわけでもない。

第2に、合名会社期では金融諸計数が「事業報告」に登場するのは、明治36(1903)年以降であって、しかも株式会社期より内容が簡単である。さらに「事業報告」自体が幾期か欠如して時系列的把握を妨げている。要するに、合名会社期、株式会社期を連結しての金融諸計数の考察は不可能である。ただ、明治36、7年に記載された金融諸計数は、半期毎ではなく、内地支店は週末毎、外地支店は月末毎であって、日常的な細かい動きを知りうるという点で得難い資料である。

以上の限界があるにせよ、「事業報告」等によって明治末期～大正中期の支店金融の実態に迫れるわけで、それ自身有意義な分析となり得よう。

本稿の課題の第1は、支店金融の実態を主として「事業報告」に依拠して掘り起こすことに

ある。すなわち、本支店間は「本支店貸借」というパイプで結ばれているが、支店独自の資金調達があったのか、具体的には当座借越、借入金、手形割引などがあったのかを考察することになる。

第2は、上記の把握を前提に、本支店を含めての物産の金融構造を解明することである。それは資金調達の視点からになるが、本店、各部、内地支店、外地支店がどのような枠組みで金融を行っていたのかを解明することを意味する。

なお、本稿では物産の海外支店名は原典のまま漢字表記を使用しているが、地名を当てはめれば以下の通り。

倫敦(ロンドン)、漢堡(ハンブルグ)、里昂(リヨン)、馬耳塞(マルセイユ)、紐育(ニューヨーク)、桑港(サンフランシスコ)、香港(ホンコン)、哈爾賓(ハルビン)、孟買(ボンベイ)、甲谷他(カルカタ)、唐地(カラチ)、盤谷(バンコック)、新嘉坡(シンガポール)、蘭貢(ラングーン)、瓜哇(ジャワ)、馬尼刺(マニラ)、斯士寧(シドニー)、露都(ペテロブルグ)、浦塩(ウラジオストック)

また、外国銀行で香港上海銀行は「香上」、チャータード銀行は「渣打」、インターナショナル・バンクは「インター」あるいは「宝通」と使用しておく。

- (1) 三井物産では、合名会社期に「明治〇〇年度事業報告」や「明治〇〇年〇半季事業報告」が作成され、株式会社期には「第〇回事業報告書」のごとく半期毎に作成され、内容はほぼ継続されている。

2. 支店金融の枠組み

1) 支店の資金調達の諸手段

支店に生ずる金融は、その営業活動の内容によって規定される。すなわち、純然たる委託売買で取扱手数料を取得する場合には、理念的には資金需要は発生しないはずであるが、現実には輸送期間を含めて取扱期間中、商品手持ちが発生するし、決済条件次第で立替負担も発生するであろう。もちろん自己売買で商品を手持ちする場合に資金需要が発生することは言うまでもない。総合商社である物産においては、世界各地で展開する支店の営業活動は多種類の商品を取扱い、それぞれの商品特性による取引態様を包含している。しかも外国貿易を手広く展開していれば外国為替問題も内包することになり、為替変動リスク回避の行動も加わってくる。支店の資金需要は、その店の取扱商品、取引条件、金融環境などによって規定されよう。

たとえば運転資金の需要について、石炭取扱の門司支店の場合、炭鉱への前貸資金、船積みまでの貯炭資金が必要で、かつ後者は時々々の事情で大きく変動するという。また、札幌出張所の木材輸出の場合、伐採、製材、乾燥、輸出の期間が長く、資金回収まで1年半ないし2年を要し、長期間資金を寝かせざるを得ないという。外国為替の決済にしても正金銀行が従来の90

日を 60 日に急遽変更したので、予定外に新たな資金手当を迫られたということもある。とにかく営業の実態は千差万別、支店の資金需要を個別具体的に把握することは容易ではない。

様々な資金需要に支店はどうか対応するのか。「物産会社ノ金融ヲ區別セハ 2 種アリ、第一ハ本店自身ノ有スル資金ヲ運用スルコト、第二ハ他ノ信用ヲ籍リテ金融ヲ計ルコト」⁽¹⁾と認識されている。すなわち、前者は「本支店貸借」の利用で、必要資金を本店からの資金援助(支店から云えば本店借入)に依存する方法である(もし支店に資金余剰が生ずれば本店への回金=貸付もあり得る)。後者は外部資金への依存で、本店自体および支店での調達である。すなわち、銀行等からの借入、当座借越、手形割引などである。以下、それらについて事情を整理してみよう。

(1) 大正 2 年「支店長諮問会議事録」380 頁、山本取締役の発言。

(1) 正金銀行の限界と他行利用

物産は横浜正金銀行発足以来、多額の貿易金融を依存し、親密な関係を保つことによって事業資金を調達してきた。しかし明治 36(1903)年の支店長諮問会議での渡邊専務理事の発言では正金依存の限界を意識して他行取引を呼び掛けている⁽¹⁾。

そして日露戦争時には正金銀行の金融ストップにより物産は対応に苦しみ、「当社創立以来本年ノ如ク金融ニ付テ苦心惨憺タルコトハ未タ嘗テ有ラサリシカ如シ」とまで表現している⁽²⁾。開戦を予想して業務縮小策を取ったものの、政府命令による正金の金融停止には大いに困窮し、打開に苦心したのである。そして『三井物産株式会社沿革史(稿本)』は「然ルニ、翌 38 年ニハ戦況ガ有利ニ進展シ、我国ノ対外信用ハ頓ニ増加シタ為メ、当社モ紐育、倫敦等ニ於テ従来取引関係ノ無カッタ外国銀行等カラ新タニクレジットヲ得ラレル様ニナリ、香上、チャータード、インターナショナル等各銀行ノ融通モ増加シテ非常ニ便宜ヲ得タ。当社ハ右 3 銀行ノ外、倫敦デハ金融資本家ヲモ利用シテ益々発展スル当社ノ商売ニ備ヘタ」と無事な展開ぶりを述べ、明治 40 年不況の後も「当社ノ対外商売ハ、コノ不況ニモ拘ラズ益々発達シテ為替信用限度モ追々窮屈ニナッタ為メ、新タニ英、仏、独、米ノ各国ニ於テ全面的ニ信用拡張ヲ断行シ、将来ノ為替操作ニ備ヘタ」と金融基盤の強化ぶりを評価している⁽³⁾。

しかし現実にはその後、正金自体の事情によって急に物産の資金対策を余儀なくされる事態も発生した。すなわち、明治 41 年の支店長会議での会長の発言に依れば「近来正金銀行ニ於テモ無限ノ要求ニ応シ切レス、一方我々ノ商売高ハ漸々増加シ来ル所ヨリ、正金銀行ニ於テモ従来 90 日目払ノ為換ヲ容シタルモ 60 日目払トシ、又棉ノ如キハ 30 日目払ニアラサレハ引受スト云フカ如キ種々面倒ノ起リタルノミナラス、倫敦、紐育ノ荷為替スラ本店ニ於テ『クレジット』ヲ送ラサルヘカラサルニ至レリ」と受け身の対応を迫られたことが述べられている。この

点に関しても外国銀行依存の必要に結びつけられる⁽⁴⁾。「為替銀行ニ於テハ正金銀行ハ案外資力足ラス……(期限短縮の措置は)是レ正金銀行トシテ資金ノ回轉上止ムヲ得サル事ナルヘク」と一定の理解を示しつつ、他行依存を計ったが、多額には得られぬ現実を漏らしている⁽⁵⁾。

物産にとって「従来正金銀行ノ金融自在ナリシ時代ニハ我々ハ荷為換ニ付テハ正金銀行ニ依頼セハ別ニ頭ヲ悩マスコトナク処理シ得タ」⁽⁶⁾と云う状況は終わって、物産の営業拡大に正金の資力では追いつけないと云う認識、正金が自己の体力を意識して金融制限を課すという現実を前に、正金以外の銀行への依存を積極化せざるをえなかったのである。むしろ営業拡大のためには外国銀行利用が不可欠という認識で、本店は支店に対して外銀取引を命じたわけである。本店は支店長会議で支店に対し次のように方針を説明している。

「金融ハ各支店カ其地ニ於テ可及的之ヲ為シ、即チ会社ノ信用ヲ以テ其土地ノ銀行ニ依リテ金融ヲ為シ成ルヘク本店ノ資金ニ依ラサルコトニシタキ方針ヲ採リシ次第ナリ、此事ハ重ニ銀貨国ニ必要ナル事ニテ金銀相場ノ変動ヨリ起ル危険ヲ防ク為ニハ其土地ノ銀行ニ就テ金融ヲ為スコト最モ安全ナルノミナラス、常ニ本店ノ資金ニ依リテ商売ヲ為シ行クトキハ或ハ金利及金融ノ趨勢ニ付テ冷淡トナルノ傾ナキニ非ス、夫等ノ点ヨリ見ルモ各支店自カラ金融ヲ為ス方宜カラントノ考ヨリ出テタル事ナリトス」⁽⁷⁾

ただし「店ニ依リテハ其土地ニ於テハ毫モ金融ノ途ナキモノアルヘク、是レハ止ムヲ得サル事ナレハ自然本店ヨリ資金ヲ供給スル外ナケレトモ先ツ多クノ店ニ於テハ其土地ニテ金融ヲ為シ得ルモノ、如シ」⁽⁸⁾とも付言している。

正金銀行は物産との金融取引がますます大規模となる不安から、明治 42(1909)年、信用供与の制限設定に踏み切った⁽⁹⁾。物産が合名会社から株式会社に改組する時点であるが、それまでの無限責任が有限責任となることにリスクを意識してのことと解されている。

極度額は 1,200 万円で、「此の金額は同社の都合次第内外各店に割当てること、右極度金額の内 700 万円迄は三井銀行の連帯保証を差入れしめること、但し本行で承諾する三井銀行以外の銀行の保証又は担保品付の取引、商業手形の割引、輸出荷為替の前貸及び政府筋の注文に係る為替荷物の貸渡等は、当分此極度以外として制限を定めないこと」⁽¹⁰⁾を内容とした。物産支店への信用取引限度は次のごとくであった。

300 万円 紐育ニ於テ為替荷物信用貸渡高極度

50 万円 竜動ニ於テ無担保ニテ為替手形引受ヲ為ス極度

150 万円 横浜ニ於テ為替荷物信用貸渡並ニ D/A 荷為替取組高極度

600 万円 大阪、神戸両地ニ於テ為替荷物貸渡並ニ荷為替取組高共通極度

80 万円 大連、牛莊両地ニ於テ信用為替手形買取及約束手形割引並ニ無担保当座貸越高共通極度

7 万円(天津 銀 5 万円) 天津ニ於テ信用為替手形買取及約束手形割引並ニ無担保当座貸越
高極度

13 万円(漢口 銀 10 万円) 漢口ニ於テ信用為替手形買取及約束手形割引並ニ無担保当座貸越
高極度

上記から 1,200 万円のうち大阪・神戸で半分の 600 万円、紐育が 1/4 の 300 万円と多額であること、信用取引の内容が具体的に示されていることが興味深い。すなわち、「内地における為替荷物信用貸渡、D/A 荷為替取組、荷為替取組、外国における為替荷物信用貸渡、無担保為替手形引受、信用為替手形買取、約束手形、無担保当座貸越」が具体例として挙げられている。この時点で正金は、1,200 万円のうち 700 万円を三井銀行保証でカバーしているから、500 万円こそ正金がリスクを負う信用供与枠ということになる。この信用枠設定後、物産各店の使用状況も知りたいが、検証の材料がない。因みに物産がこの 700 万円の保証の外に三井銀行からどれだけの借入枠を貰っていたのかも明らかでない。ともあれ、物産は正金から与えられた信用枠を前提とせざるを得ず、営業拡大のためには一層正金以外の銀行依存を強めることにならざるを得ない。

以上、正金依存から国内外の銀行の利用への流れをみたが、貿易金融を念頭に置いてのことであった。輸出入、外国売買において物産は外国為替銀行から外国為替取組の形で信用を与えられるが、他方で物産は国内商売も展開しているわけで、その面での資金需要も発生する。支店段階で貿易金融、国内金融を区別し、それぞれの資金調達ぶりを解明することは容易ではない。本稿のように「事業報告」の「金融表」に依存して考察する限りでは、区別は不可能であって、外国為替銀行との取引は区別なしで処理する外はない。

- (1) 「現今正金銀行ニ依頼シ随分多額ノ金融ヲ為シ居レドモ併シ漸次商売ヲ拡張スルニ従ヒ到底正金銀行ノミニテハ不足ナルベケレバ或ハ香港上海銀行ニモ大ニ信用程度ヲ増加セシムルコトニ努メ孟買ナドニテハ昨年ヨリ棉為替ハ香港上海銀行ニテ『クレジット』ヲ寄越スコトハナレリ而シテ折角話ノ進ミタル香港上海銀行ニ三井ニテハ幾ラ言フテモ我々ヲ利用スルノ考ナキヤトノ誤解ヲ生ズルハ大ニ不利益ナルベケレバ成ルベク一旦付ケタル関係ハ絶タザル様ニシ其機関ヲ利用スルコトヲ諸君モ記憶ニ止メ置カレタシ」(184-5 頁)
- (2) 明治 37 年「支店長会議議事録」3 頁。その時の模様を次のごとく説明している。「本年 2 月ニ至リ不幸ニシテ我々ノ觀察的中シ遂ニ開戦トナリシヲ以テ益々縮小主義ヲ執リタリ、此ノ時ニ方リテハ仮令縮小主義ヲ執ラストスルモ既ニ輸入為替ノ途ハ杜絶シ、正金銀行ハ其筋ノ命令ニ依リ総テ輸入品ニ対シテハ金融ヲ与ヘサリシ、……其後当局ニ運動シ遂ニ幾分カ金融ノ途ヲ与ヘラルハコトナリ、6 月迄ノ分ニ対シテ 300 万円余ヲ限度トシテ融通セラレタレハ一時ノ難ヲ凌キタレト、尚ホ大ニ不足ナルヲ以テ外国銀行ニテ是迄比較的冷淡ナル取引ヲ為シ居リシモノ、例ヘハ香港上銀行ノ如キヘモ種々依頼スル所アリシニ、同行ニ於テモ当時種々ノ方面ヨリ我社ト同様ノ依頼ヲ受ケ居リシ際トテ到底我社ノ依頼ニ応シ難シ、併シ当社ハ他ト異ナル所アレハ此機ヲ利用シ關係ヲ付ケ置キタレハ可及的都合ヲ付ケシテ結局 50 万円ハ倫敦ヨリノ輸入為替ヲ引受ケン、夫レニ付テハ別ニ我社ヲ信セサルニハアラ子ト一般ニ荷為替約定ヲ為ス得意先ニハ絶ヘス幾分カノ預金ヲ為スコトニ致シアレハ我社ヨリモ幾分カ預金シ呉レトノ申込ニ付、其信用高ノ 2 割 5 分即チ 12 万 5 千円ヲ定期預金トセリ、斯克ノ如ク苦心ノ末多少其途ヲ講シ得タリシモ尚ホ未タ我社ノ必要ヲ満足セシムル能

ハス、……」(同、2～3頁)

- (3) 『三井物産株式会社沿革史(稿本)』第4編第3部第4章第3期ノ業務發達概略。
- (4) 「之ニ付テハ豫テ各店ニ申送リアルカ如ク漸次外国銀行ニ近寄り置カサレハ差支ヲ生スルコトアルヘク、現ニ日露戰爭當時ノ如キ非常ニ差支ヲ生シタルヲ以テ益々外国銀行ニ依ル必要ヲ感シ来リタルカ、外国銀行モ我々ノ為メニ能ク引受ヲ為シ呉レ、又一時殆ト取引中止ノ姿ナリシ香上銀行ノ如キモ盛ニ取引ヲ為シ呉レ、為ニ大分便利ヲ得タルコトアリ」(明治41年、201頁、会長飯田専務理事の發言)
- (5) 「其他ノ銀行ニ於テモ香上銀行ノ如キハ誠ニ能ク引受ケ呉ルハモノナリシカ、夫レスラ多クノ金高ヲ取扱ハス、其ノ他渣打銀行、『インター、ナショナル』銀行ノ如キモ總テ少額ノ引受ニ止ムル有様ナリ」(41年、会長飯田専務理事、123頁)。
- (6) 同、会長飯田専務理事、201頁。
- (7) 同、123～4頁。
- (8) 同、124頁。
- (9) 『稿本三井物産株式会社100年史 上』393頁。原典は『横浜正金銀行史』。
- (10) 同上、394頁。

(2) 本支店貸借の利用

本支店間の資金貸借の制度は、支店にとって必要資金を本店から借りするという面(資金調達)、また余剰資金を本店に貸すという面(資金運用)、双方の面で有効に機能した。本店借は社内金利が適用されるものの、担保不用、為替相場の変動リスク無関係、期間も緩く、銀行借入より安全便利な調達手段に他ならない。本店は支店の営業に必要とあれば資金援助を惜しまず、自己資金のある限り支店の期待に応えようとした。

しかし通常時でも本店の資金ポジションが悪化すれば、支店からの多額な要求に応えきれないことは起こりうる。また、金融環境の激変で銀行借入が困難になると、本店へ資金援助要請が殺到し、本店は対応しきれないことにもなる。本店は余剰資金を持つ支店に本店への回金(本店貸)を求め、資金不足店への援助に当てることにする。実際に明治40年恐慌では本店への回金を求めた事情が渡邊専務理事から支店長会議で説明されている⁽¹⁾。その上で次のように支店での現地銀行との取引維持・改善の努力を求めているのである。

「今後ト雖モ金融ノ許ス限り各店ニ低利ノ資金ヲ与フヘシト雖モ各店ニ於テモ万一再ヒ本年ノ如キ境遇ニ逢ヒタル場合ニハ本店ノ資金利用ニ伸縮ヲ加ヘラル、様注意ヲ払ハレタシ、即チ例ヘハ平素ヨリ其地ノ銀行ト引合ヲ為シ、場合ニ依リテハ不用ノ資金ニテモ取引ヲ継続スル為メ多少借入ヲ為シ若シ必要ノ場合ニハ其銀行ヲ利用スルトカ、又資金ノ豊富ナル時ニハ各銀行ニ交渉シ当座借越約定ヲ為スカ如キモ一方法ナラン、要スルニ本店ヨリ回金ヲ請求シタル場合ニ是非共工風セサルヘカラストテ急ニ取引ヲ求メタレハトテ銀行ニ於テモ之ヲ承諾スルモノニアラス、故ニ平素ヨリ銀行家ト接近シ予メ万ニ備フルコト必要ナルヘシ」⁽²⁾

本店への回金は、支店の余剰資金によるのが一般的であるが、後に見る船舶部の多額の回金は第一次大戦中の海運好況による異常とも云える高利益の結果であって特別であろう。それ以

外にも支店サイドでわざわざ資金を工面して回金する場合もあった。すなわち、「倫敦、漢堡、里昂ノ本店ニ預金トナリシハ受取タル手形ヲ割引シテ本店ノ金融ヲ助クル次第ナリ」と。本店への協力例として山本取締役が会議で紹介したものである⁽³⁾。

しかし支店の回金(本店貸)には別な側面もある。支店は適用される社内金利と現地の銀行金利を比較して、現地が低ければ借入れ、本店に回金して高い社内金利との差を取得する。余剰資金の回金による社内金利の取得より、一段進んで金利差益取得の世知辛い行動である。第一次大戦中の支店長会議において、御酒本会計課長が金融緩慢の情勢下、支店からの回金によって本部に莫大な遊金が発生したことを述べているが、まさに上記の金利差益取得行動の結果といえよう⁽⁴⁾。

支店が必要資金を現地銀行で調達できないために本店に依存せざるを得ないというのはわかるが、支店が調達コストの低さから現地銀行より本店借を選択するのも物産ではあり得る。本店は手許資金の限界を意識して支店に現地銀行との取引拡大を求め、あるいは変事に備えて現地調達のを確保することを求めるが、支店によっては目先の調達コストの優劣で本店借か現地借入かきめるわけで、上記の金利差益取得行動と同じ意識といえよう。その意識や行動は一部の支店だけではなく、広く分布していたように思われる⁽⁵⁾。

- (1) 本店へ回金を依頼した事情の説明は次のようであった。

「殆ト経済界ハ恐慌ニ瀕セル有様ニテ、確實ナル銀行ニ於テハ現ニ遊金ヲ有スルニ拘ハラズ、何時預金ノ取付ニ遭遇スルヤ測ラレストノ懸念ヨリシテ、其相手カ如何ニ確實ナリトモ亦相当ノ担保アリトモ貸出ニ躊躇スル有様ニテ、……従来我社ニ対シテ喜ンテ資金ヲ供給シタル銀行迄、我社ノ資金ヲ得タシト申出ニ付テ辞ヲ卑フシテ辞退スル次第ニテ本店ニ於テモ資金運用ニ頗ル困難ヲ感シタリシカ、其際若シ不幸ニシテ何レノ支店カニ於テ其地ノ銀行ヨリ資金ヲ借入レ居リ其銀行ニ変調ヲ来シ返金ヲ請求セラレ、急ニ本店ニ融通ヲ仰カルハカ如キ事アランカー層苦痛ヲ嘗メタルナラン、故ニ諸支店ニ向ツテ成ルヘク本店へ回金セラレタキ旨再々促カシタル所以ナリ」(「明治40年支店長諮問会議事録」4頁、会長渡邊専務理事の発言)

- (2) 同上、5頁。

- (3) 同上、381頁、山本取締役の発言

- (4) 御酒本課長は「今日ノ如ク金融緩慢ノ際ニハ各店ニ於テ貸越限度ヲ利用スルコト少ナク反テ各地方銀行ヨリ融通ヲ受ケ続々本部ニ送金シ来リ本店ハ為メニ莫大ノ遊金ヲ擁スルニ至レリ」と報告しているが、「元来金融ノ緩慢トナルヘキ速度ハ極メテ遅緩ナリト雖モ逼迫ニ陥ル場合ハ頗ル急激ナルヲ以テ常ニ枢要ノ地ニハ相当ノ余力ヲ蘊蓄シ不時ノ事変ニ備フルノ必要アルヘシ」と続けているので、支店の虫の悪い回金を禁止するだけでなく、寧ろ安全確保のために許容している如くである(大正5年6月「第4回支店長打合せ会議事録」201頁)

- (5) 明治36年での支店長会議で、飯田理事が「日本ノ金利6分位ニテ本店ニテ自由ニ使ヘル時ハ正金銀行ニ依頼セズ総テ本店ヨリ出シ、若シ7、8分或ハ9分ニモナリ正金銀行ノ金ヲ使フ方宜キ時ニハ之ヲ使フコトハセバ余程好都合ナルベシ」(183頁)と云っている。ここからは、本支店貸借と正金利用と何れを執るかは調達コスト次第(日本と現地の金利水準)という発想があり、物産幹部が堂々と云ってわけで、物産内で広く持たれている意識と推測される。因みに同席した長谷川門司支店長は「都合ノ好キ時ニハ自ラ之ヲヤリ都合ノ悪キ時ニ正金銀行ニ依頼スルハ随分利益ナル方法ナルベキモ今日ノ正金銀行トノ関係ハ極メテ親密トナリ居ルヲ以テ絶ヘズ幾分カ依頼スル方宜カルベシ」(183頁)といい、そうドライに行動すべきではないと批判する立場もあったようである。

(3) 当座借越

支店の資金調達上、当座借越も結果的には一手段となっている。当座借越契約があつて、約定限度を意識して計画的、日常的に当座借越を利用する場合もあれば、予定外の資金需要のために臨時的に当座借越に依存する場合もあろう。のちに支店別に当座借越残高を見ることになるが、それほど多額な残高ではないことは知れるものの、発生事情までは材料不足で明らかにはならない。もともと当座借越契約が支店でも結ばれていたのか、どう利用されたかが問われなければならない。

大正 2(1913)年 7 月の第 2 回支店長諮問会で福井取締役が当座借越の枠について、「神戸ニテハ三井銀行ニ 2 万 5 千円、第一銀行ヨリ 7 千円、台湾銀行ヨリ 1 万円、住友銀行ヨリ 5 万円、鴻池銀行ヨリ 1 万円、其他合計 6 万 8 千円ノ約定アリ」「大阪ハ 8 万円アルノミ」⁽¹⁾ と具体的に述べていることからみて、支店において借越契約が結ばれていたのは確かである。反面、同じ会議で山本取締役が「門司ハ 39 万円ノ借入レニテ手形 13 万円ヲ有セリ、此ノ如クニテ本店ノ資金ヲ使用スル向ニテ銀行ト当座勘定ヲ開キ借越ヲ為シ居ラサルモノアリ」⁽²⁾ と非難がましく述べていることから、借越契約のない支店もあったことが知られよう。

大正 6(1917)年の支店長会において、田村調査課長の報告では「朝鮮銀行ト当座勘定ヲ開キ極度金 20 万円也ノ当社借越約定ヲ締結シ、更ニ各支店ニ於テ或ハ借越約定ノ形式ニ於テ或ハ信用状取得ノ形式ニ於テ当社金融力ノ拡大ニ努メラレ……」⁽³⁾ とあるので、本店でも支店でも当座借越契約の推進が図られていたことが分かる。

目下のところ、上記の神戸、大阪支店以外でどれだけ設定されていたかは明らかにし得ないが、後掲のごとく借越残高がいくつかの支店で見られることから、逆に借越契約の存在を推測するに止まる⁽⁴⁾。

本店は支店の当座借越の利用をどう思っていたか。福井取締役は金融担当の立場から「本店ニテ金融不如意ノ場合ニ其地ニテ借越約定アラハ非常ニ便利ナレハ、尚ホ其限度ヲ増加シ行クコトニシタシ」⁽⁵⁾ と支店での当座借越契約の締結、借越の利用を積極的に求めている。同席の山本取締役は「我社ノ支店トシテモ交渉セハ 5 万円位ハ何処ニテモ承諾スルナラン」と述べ、武村神戸支店長も「勿論承諾スヘシ」と同意しているから、銀行との交渉次第、努力次第では、ある程度の枠ならば借越契約の締結は可能という見方であった⁽⁶⁾。本店のこのような積極方針に支店がどれだけ応えたかは明らかでない⁽⁷⁾。

当座借越枠がどの程度であったかは大正 2 年の山本取締役の「合計スレハ 200 余万円」⁽⁸⁾ と云う説明、大正 5 年の「当座貸越契約高 230 万円」⁽⁹⁾ という数字からすれば、物産全体で 200 万円強とみてよからう。

(1) 大正 2 年 7 月「第 2 回支店長諮問会議事録」609 頁、福井取締役の説明。

- (2) 同上、609 頁、山本取締役の発言。
- (3) 大正 6 年「第 5 回支店長会議事録」33 頁。
- (4) 後掲の当座預金の考察において、支店に借越残高があれば借越契約の存在を推定できるが、契約していても借越が発生していなかった場合、期中に発生しても期末に解消した場合などが考えられ、借越残高の有無だけで借越契約の存否は断定できまい。
- (5) 前掲「第 2 回支店長諮問会議事録」609 頁、福井取締役の説明。
- (6) 同上、同頁、山本取締役、武村支店長の発言。
- (7) 児玉名古屋支店長は「平素ヨリ取引ヲ為サレハ意ノ如ク借越モ為シ能ハス、名古屋ニテハ 20 万円位ノ約定ヲ為シ得レトモ之ヲ使用シタルコトナシ」と批判的である(同上、609 頁)。
- (8) 同上、609 頁、山本取締役の発言。
- (9) 大正 5 年「第 4 回支店長打合会議事録」、197 頁、福井取締役の説明。

(4) 融通手形、手形割引

ところで本店は名古屋事件の教訓から支店での融通手形発行を禁止する方針を打ち出していた⁽¹⁾。それは支店にとって自店での資金調達的手段を束縛されるから、支店長会議で支店より発行禁止への疑問が出され、緩和希望が出されている。藤野大阪支店長の発言を見よう。

「成ルヘク三井銀行ヨリ金融セヨトノ命アリシカ、併シ得意先銀行ヲ多クシ置カサレハ、一朝異変アリタル場合ニ金融ノ範囲頗ル狭少ナルヘキニ付、平時ニ他ノ銀行ト関係ヲ結ヒ置クコト必要ナルヘシ、……近來融通手形ノ発行ヲ禁セラレタルハ如何ナル理由カ知ラ子ト、若シ之ヲ禁シ居リテ万一之ヲ発行スルノ必要生シタル場合アラハ銀行ニ於テ怪訝ノ感ヲ起スコトナキ(や)、故ニ他日ノ場合ヲ考ヘ或店ニ限リテ平素ヨリ融通手形ノ発行ヲ許可シ置ク方得策ナラスヤ、然ラサレハ自ラ自己ノ金融ヲ止ムルト同様ノ結果トナルヘケレハ、此点モ一考ヲ煩ハシタシ」⁽²⁾

これに対して山本取締役は「絶対ニ融通手形ノ発行ヲ禁シタルニ非ス、即チ 7 月 15 日ノ現在ニ依ルモ営業部ニ対シ貸越 390 万円アレトモ 215 万円ノ手形ヲ有シ、大阪ニテハ 550 余万円ノ本店貸越アレトモ 155 万円ノ手形ヲ有スル次第ナリ、勿論必要ニ迫リタル時ハ何トカ方法ヲ講シテ融通ヲ計ラサルヘカラサレトモ、成ルヘク融通手形ノ発行ヲ差控ヘタキ方針ナリ」⁽³⁾と説明している。

確かに後述の大正初期の三井銀行の手形割引をみると、営業部や大阪支店が登場しているから、山本の云う通り全店に発行絶対禁止というわけではなさそうである。三井銀行への発行はよく、それ以外の銀行宛を禁ずるという方針と思われ⁽⁴⁾、それでは藤野の〈変事に備えて三井以外の銀行との親密な関係を保つ手段としての融通手形発行〉の主張には応えていないわけである。三井銀行での手形割引は、同行での信用利用枠のため無制限とはいくまいから、他行への融通手形持ち込みが出来ないなら、資金調達的手段が狭まったのは確かである。

もう一つ資金調達手段としての手形割引であるが、営業上発生するいわゆる商業手形を支店

が割引するのは当然である。しかし山本取締役が本店資金運用の説明の中で「勿論本店ニ於テ資金ニ余リアル場合ニハ営業部、機械部其他大阪等ニテ取付クル得意先ノ約束手形ハ之ヲ割引セスニ所有シ居リ、資金ヲ要スル場合ニ之ヲ割引シテ資金ニ換ヘントスル主義ヲ抱持ス……、資金豊富ナル場合ニハ約束手形ヲ所持シ各店ヨリ請求シ来タル場合ニハ之ヲ割引シ其要求ニ応スル」⁽⁶⁾と述べているところから、2つの事態が知られる。第1は、店部で取得した手形が本店に移されていること、第2は、本店は集積した手形を維持しておき、資金が必要なときに割引することである。別言すれば、本支店貸借の財源として本店に手形を集積しておくわけで、いわば予備の役割を果たす。金融表では支店別に手形所有高が記載されているから、総ての手形が本店に引き揚げられるわけではなからう。とすればどの店部の手形が本店に移され、如何なる得意先の手形なのか、どのような基準で本店行き手形と支店残留手形がきまるのか、問題となり得よう。残念ながらその実情までは明らかにしえない。

- (1) 融通手形問題については、すでに拙著『戦前期三井物産の財務』の「大正2年の資金事情と融通手形論議」で若干触れている。
- (2) 「第2回支店長諮問会議事録」385頁。
- (3) 同上、385～6頁
- (4) 『稿本三井物産株式会社100年史 上』は「融通手形の発行そのものを廃止したというよりは、市中に流通するような融通手形の発行をやめた、つまり三井銀行が引受ける限りでしか融通手形を発行しないことにしたことを意味している」と理解すべきであろう(398頁の注2)といっているが、筆者も同感である。
- (5) 大正2年「支店長諮問会議事録」381頁、山本取締役の説明。

2) 支店別の金融事情

支店における資金需要は、その店の営業内容、営業行動により千差万別である。したがって支店金融を厳格に考察するには、前提となる営業内容、営業行動を押さえ、そこから発生する資金需要を如何なる方法で満たしていたかを明らかにすることが必要である。しかしながら個々の支店についてその営業内容、営業行動を仔細に把握することは材料が得られず極めて困難である。支店での取扱商品の種類、数量、金額はある程度「事業報告」等で知り得たとしても、その取扱の具体的姿(仕入先、販売先、決済条件など)は不明であり、どれだけの資金需要がどのように生じているかの把握は難しい。そして金融の手段として何が選択されているのか、現地の金融事情、調達コスト、本店の資金援助方針など諸要因が絡んでおり、選択理由も支店別には解明が困難である。「事業報告」等で知りうるのは調達結果にほかならず、その前提となる資金需要の把握には、及び得ないのが実情である。目下のところ支店での金融の具体的姿を知りうる材料としては、支店長会議録等での金融の論議、支店長からの自店金融についての説明がある。すなわち、現地の金融事情や資金調達ぶりが紹介されているから、支店金融の具体的姿を知りうるからである。ただ、営業状況の説明に加えて金融が触れられる程度であり、出

席の全店部に金融の説明が義務づけられているわけではなく、また、出席時点での状況説明である。支店長会議は本稿に関連する期間では、明治 37 年以降、40、44、大正 2、4、5、6、7 年に開催され、毎回、全支店から金融の報告があるわけではないが、いくつかの支店からの説明があつて、その店の金融の実態、特徴を知ることができる。「事業報告」による支店金融の計数的考察の前提として各店金融の個別的特性を押さえておくことに役立つであろう⁽¹⁾。

以下、支店長会議録で知り得た支店金融の実態を、内地支店、外地支店に分けて列挙しておこう(支店名の次の括弧内は、説明者、支店長会議の回号、開催年で、引用文の後の頁数は会議録での該当頁を示す)。

- (1) ただし支店の立地、性格、置かれた資金ポジションなどを反映した説明だけに、技術的な難解さを含んでおり、特に外国為替関係、資金操作の説明を消化するのは容易でなく、筆者の能力上、省略せざる得ないものもあった。

(A) 内地支店

①大阪支店(藤野支店長、第 2 回、大正 2 年、)

「大阪支店トシテハ目下殆ト融通手形ナケレト 6 月迄ハ最低 25 万円最高 150 万円ノ手形ヲ出シ居リ、從來最モ多ク出シタルハ 44 年ノ 590 万円ナリ、大阪支店ノ金融ハ漸次大ヲ加ヘ来ルヲ以テ大高ノ手形ヲ出スモ差支ナケレト、最近名古屋事件以来余リ手形ヲ出サハル方針ヲ取り、相手ノ好マサルトキハ強テ之ヲ渡サス、殊ニ鴻池銀行ハ常ニ資金ヲ我社ニ預入ルハ有様ナル為メ自然鴻池ノ資金ヲ使用シ居タレト、今日ハ全然之ヲ使用セス、台湾銀行ハ砂糖不作ノ為メ資金枯渴シ從來我社ヘ恰モ預金ニテモ為スカ如ク資金ヲ持来リシモ近來之ヲ為サス、正金銀行モ資金枯渴ヲ来シタル為メ輸入手形モ期日ニ現金ニテ支払フコト、セル為メ手形発行ハ減少シ居レリ、從來大阪ハ本店ヨリ資金ヲ借ラサリシモ目下 450 万円余ノ融通ヲ本店ヨリ受ケ、融通手形ヲ 25 万円発行セリ、而シテ正金銀行ト大阪、神戸ノ『クレジット』ハ 700 万円アリ、出来得ル限り之ヲ濫用セサルコトニ努メ居レトモ、機械ノ如キハ運転開始ノ上ニ非サレハ代金ヲ支払ハサル旨ノ契約モアル次第ニテ、是等ニ付テハ自然『クレジット』ヲ多ク使用スル結果ヲ生ス」(32～3 頁)

②神戸支店(武村支店長、第 2 回、大正 2 年)

「神戸ハ特種産物ナキ地ニシテ先ツ商工業地ト云フヲ得ス、大阪ノ玄關ニシテ一ノ船着港ヲ以テ見ル方適当ナルヘシ、故ニ神戸全体ノ状況ヲ知ラント欲セハ大阪ニ關聯シテ述ヘサルヘカラス、從テ神戸支店取扱業務モ神戸ノミニテ輸出入ヲ爲スコト困難ナレハ、去 42 年來成ルヘク其ノ方針ニ依リ輸出入其他ニ付テ所謂仲次ヲ専ラトスルコト、セリ、而シテ神戸支店ノ業務ハ大別シテ三トス、第一ハ神戸支店ノ売買営業、第二各店取扱ニ關スル神戸輸出入品通關並運送、第三輸入、移入米主店是レナリ、其他輸出入商品ニ關スル為替取

組及引受ノ事務アリ」(33~4頁)

「毎年上半季ハ米、棉ノ輸入多キ為メ(輸入為替)引受高モ割合多キニ居レリ、重ナル銀行ハ香上銀行ニシテ昨年下半年ニ同行 760 万円、正金銀行 300 万円、渣打銀行 260 万円、独亞銀行 115 万円、其他ハ殆ト 50 万円以下トス、……(輸出為替については)本年上半季正金銀行ヲ経タルモノ 770 万円、香上銀行 130 万円、独亞銀行 45 万円、『インターナショナル』90 万円、台湾銀行 40 万円(ナリ)」(同 40 頁)

③小樽支店(小田柿の説明、第 2 回、大正 2 年)

「北海道ニテハ資金借入ノ道ナク、拓殖銀行ヨリ借入レントセハ担保ナシニテハ之ニ応セス先方ニテハ如何ナルモノニテモ根抵当ノ担保ニ入ルレハ、之ニ対シ貸越ヲ為スヘシトノ事ナリ」(609 頁)

④-1 門司支店(長谷川支店長、明治 36 年支店長諮問会議事録)

「(益田専務理事の質問に対して)資金ハ本店カラ始終借越シニナツテ居リマシテ、各炭礦カラ掘ツテ来ル石炭代ノ前貸シヲスル為ニ始終前払ヒヲ致シテ居リマス、ソレガ門司へ着キマシテ 1 ヶ月内ニ積出スコトノ出来ルモノハ正金銀行ノ方デ輸出勘定デ、予テ日々 20 万円程ノ高ハ借受ケル約束ガアリマスカラ、夫レダケハ先ヅ絶ヘズ借受ケテ居リマスケレドモ、其外山カラ出テ来タ石炭ガ 1 ヶ月以内ニ積出サレナイモノガ残リマシタ、ソレガ昨年中ノ平均ガ大抵 8 万噸カラ多イ時ハ 9 万噸位デ、末ニ至ツテ 18 万噸ニ達シタコトガアリマス、此頃ハ 8 万 8 千噸ニナツタト云ツテ昨日知ラセガ参リマシタ、其貯炭高ノ多寡ニ依ツテ金ノ入用ニモ大変高低増減ガアツテ、凡ソ 10 万噸ノ貯炭ガゴザイマスト 1 噸 5 円トシテ 50 万円デ、大抵 50 万円位ノ資金ヲ絶ヘズ要シテ居リマス、其外ニ 20 万円デ凡ソ 70 万円ヲ要シテ居リマス」(29~30 頁)

④-2 門司支店(中丸門司支店長、明治 41 年支店長諮問会議事録)

「(門司で金融の可能性を聞かれて)種々試ミタレトモ都合付カス、三井銀行ノ如キハ現今ノ所ニテハ門司同行支店ニテハ何事モ為シ得スト云フ有様ニテ、又他ノ銀行ニテハ僅ニ 2, 3 万円ノ借越ニスラハケ間敷キナリ」(126 頁)

会長から「当座借越ニ非ストモ手形ヲ振出シ 30 日乃至 60 日目払ニテ借入ル、コト能ハサルヤ」と聞かれて「場合ニ依リ金融緩慢ナル時ニハ都合モ出来ヘキモ、近来ノ如ク銀行カ資金回収ニ忙シキ際ニハ殆ト融通シ能ハスト言ヘリ」(126 頁)

④-3 長谷川門司支店長の石炭商売についての説明も興味深い

「石炭商売ニ就テ最モ困難ナルハ相手ガ銀貨国ノ多キコトニシテ……自己ノ為替ヲ最モ安全ニ『カバー』スル方法ハ倫敦ナリトス、夫レハ日本ヨリ支那ニ対スル為替ノ先約定ハ銀行ト為シ悪クシテ殆ト出来ザリシ」(181 頁)

⑤三池支店(大熊支店長、第2回、大正2年)

「金融ハ近来三池ヨリ輸出スル石炭ニ付テハ荷為替ヲ附セリ、是レモ三池ハ只積出店トシテ手形ヲ引クノミニテ金融上ニハ何等關係ナク、上海、香港送りハ正金長崎支店ニ送り、新嘉坡行ノ分ハ神戸へ送りテ香上銀行ニテ『ネゴシエート』スルモノナリ、三池其者ノ金融ハ石炭、雑貨ノ販売代金ヲ取入ルル丈ケニテ、其代金ハ三池炭ノ入用金ノ支払ニ充テ剰余アラハ之ヲ門司ニ送金ス、銀行ハ大牟田ニ三池銀行アリ、又三井銀行福岡支店ト当座勘定ヲ開キツ、アリ」(54～5頁)

口ノ津について「金融ハ人夫賃、段平船其他ニ支払フモノヲ重モトス、幸ヒ雑貨得意先ノアル為メ、之ヨリ受入ル、代金ヲ之ニ充当スルコトアレト、土地ニ銀行アリテモ利用スルコト能ハサル為メ、時ニ三池ヨリ現送シ、又口ノ津ニ剰余アルトキハ三池ニ現送スル有様ナリ」と説明している(同、56頁)

⑥木材部(小田柿木材部長、第2回、大正2年)

「金融ニ付テハ各店ニ面倒ヲ煩ハシ品物ヲ積出スト同時ニ附替ヲ為シ若クハ荷為替ヲ取組ミシ為メ、販売店ニ於テモ彼是レ苦情モアリタルカ如クニテ誠ニ道理アル事ナランモ、今日北海道ニ於テ材木ノ為メニ投資セル金高450万円ニ上レリ、何ニセヨ例ヘハ挽材ヲ出スニセヨ昨年冬ヨリ本年春ニ掛ケテ伐出シ、工場へ送りテ製材シ、之ヲ輸出スル迄ニ6ヶ月間位ハ乾燥スル必要アリ、之ヲ製材シ欧州へ送り出シ愈々勘定書ノ来ル迄ニハ普通1年半乃至2ケ年ヲ要シ、其間資金ヲ寝カサ、ルヘカラサル次第ニテ、從テ本店ヨリ借入金ノ高モ巨額ニ達セリ、此借入金ニ対シテハ相当利息ヲ支払フモノナルニ付近来成ルヘク積出シト同時ニ附替又ハ荷為替取組ノ方法ニ依リ借入金ヲ減少セシメンコトニカヲ用ヒ居レトモ尚ホ370、80万円借越アル有様ナリ」(178頁)

以上、内地店部で判明したものだけであるが、木材部以外の各部、本店営業部、横浜支店、名古屋支店については説明が見当たらなかった。

(B) 外地支店

①倫敦支店(渡邊理事、明治36年支店長諮問会議事録)

「倫敦支店ノ従事セル単純ナル任務ハ金融機関トシテ他店ヨリ利用サル、事是レナリ、即チ『チャタードバンク』ノ如キハ倫敦ニ本店アリテ東洋各地ノ支店ニテ得意先キニ貸金ヲ為スニハ一々本店ヨリ指示スルコト、ナシ居レリ、從ツテ此銀行ヲ利用スルニハ我社倫敦支店ニ於テ同銀行ノ重役等ニ三井家ノ事情ヲ談シ金融ノ制限ヲ拡張セシムルコトニ注意ス、嘗ニ此銀行ノミナラズ和蘭ノ銀行ニテ新嘉坡ニ店ヲ有スルモノ、如キモ三井ノ信用ヲ探ルハ倫敦ニ於テ之ヲ為シ、又紐育ニテ出ス生糸ノ為替ニ付テモ皆其信用ハ倫敦ニ於テ調査スルヲ以テ常ニ倫敦支店ハ三井ノ記名シタル手形ノ倫敦ニ幾許アルヤヲ調べ置カザルベカラ

ズ」(67頁)

物産の外地支店が外銀の現地支店と金融取引する際、外銀が倫敦支店に三井の信用を照会するわけで、倫敦支店のサポートが役立つことを語っている。

② 漢堡出張所(石川出張所長、第2回、大正2年)

「漢堡店ニ於テハ石炭契約ヲ除キ大別シテ3種ノ業務アリ、第一ハ主トシテ欧州ヨリ日本ヘ向クヘキ輸出雜貨商売、第二支那及日本ヨリ欧州ヘ輸入スル雜貨商売、第三機械金物商売是レナリ」(227頁)

山本取締役の「資金過不足ノ場合ニ地方銀行ニテ手形ノ割引ヲ為スカ如キ融通ノ道アリヤ」の問いに対し「融通ハ自由ニ為シ得ヘシ、取引銀行ハ極リ居リテ、今日漢堡ニ於テ主トシテ取引スルハ『コンマース、ヂスコント』銀行ニテ、同行ハ我々ニ対シ百万馬克ノ信用ヲ与ヘ呉レツ、アリ、百万馬克ヲ超過スル際ニハ我々ノ握レル手形ヲ入レ置ケハ先ツ無限ニ信用ヲ得ラレヘキ次第ナリ、手形ヲ割引スレハ問題ハナケレトモ之ヲ割引スルヨリハ所持シ居ル方利益ナルコトアリ、其場合手形ヲ入レ置ケハ百万馬克以上幾許ノ高ニテモ信用ヲ与ヘ呉ルヘシ、……次ニ『ビル』ヲ売ル銀行ハ渣打銀行、香上銀行、獨亞銀行ナリ」と答えている(227頁)

③-1 京城出張所(浅野所長、第2回、大正2年)

「京城ノ如キハ『クレジット』ヲ貰ヒ居ルモノナク相手ノ店ニ皆ナ内地ヘ為替ヲ引キ貰フ次第ナレハ殆ト金融ノ方法ナシ、元来朝鮮地方ノ商売ハ他ノ地方ニ比スレハ殆ト20年前ノ如キ状態ニアルヲ以テ、之ヲ他ノ店ト同様ニ論スルコト能ハス、故ニ止ムヲ得サレハ本店ニ於テ第一銀行並朝鮮銀行ト当座借越契約ヲ結ビ貰ヒテ之ニ依ルノ外ナシ」(386頁)

③-2 京城支店(高野支店長、第5回、大正6年)

「朝鮮ニ於ケル金融ハ主トシテ朝鮮銀行ニ依リ、今日借入ヲナセル金高ハ150、60万円ニシテ、外ニ自分出立ノ際人蔘ノ為メニ160万円ノ入要アリ是亦同行ヨリ借入ル、コト、セリ、而シテ同行トノ契約ノ内容ハ普通ノ借入金ハ当座借越ノ形式ニ依リ、社内ニ引ク人蔘金ハ社内日歩ヨリ2厘高ノ日歩ニテ交渉纏マリ居レリ、朝鮮銀行ニテハ三井ニハ幾許ニテモ入用丈ケ使用セヨト云フ程ニシテ、之ニ付テハ木村理事カ非常ニ其間ニアツテ尽力セラレタル結果ニ外ナラス、人蔘資金2厘高ニ付テハ1ケ年若クハ1ケ年半ニ亙ル長期借入ナルヲ以テ、上海支店ヨリ売上代金ノ附替若クハ電送ノ場合ハ於テ其金額丈ケヲ返済スルコト、シ、詰リ長期ニ亙ル一時ノ借入金ニテ約手ノ形式ヲ取レリ」(263頁)

④-1 台南支店(高野支店長、第2回、大正2年)

「台南モ京城ト趣ヲ同ウシ資金ヲ得ルニ付支店所在地ニ於テ金融ヲ計ルノ便否並土地ニ於ケル商売ノ性質ヲ斟酌シ貰ハサレハ我々ハ非常ニ打撃ヲ受クル結果トナルヘシ、台南ニテ

ハ金融ヲ計ル銀行ハ只一ノ台湾銀行ノミニテ同行ハ時ニ依リ 150 万円許ノ融通ヲ与ヘ呉レト先ツ普通 100 万円ノ融通力ナリ、其他二十四銀行支店アレトモ、此分ハ 10 万乃至 15 万円ノ融通ニ過キシテ永遠ニ之ニ依ルコト困難ナレハ、他ニ金融ヲ計ルノ道ナシ、而シテ台南ノ商売ニ於テ最モ資金ノ固定スルハ肥料商売ニシテ、各製糖会社ノ買入方法ハ殆ト 1 ケ年ノ期限ニテ、追テ砂糖ノ収穫アリテ百姓ヨリ之ヲ取集メタル上支払フカ如キ有様ナレハ、勢ヒ資金ヲ寝カサハルヘカラス、其他米ノ肥料ノ如キモ収穫アリテ初メテ百姓ヨリ回収シテ支払ヲ為ス組織ナレハ、是等ニ向ヒテハ特別ニ金融ノ道ヲ計リ貰ハサレハ全然商売モ手ヲ引カサルヘカラス、……我々ノ店ニ対シテハ特別ノ金融限度ヲ与ヘ貰ヒタシ」(387 頁)

④-2 台南支店(羽島支店長、第 5 回、大正 6 年)

「台南支店ノ本店借越制限ハ 150 万円ニシテ、米糖出盛り時期ニ於テハ更ニ 100 万円ヲ増加シ得ルコトニ定メラレ(ているが)、……最近 1 ケ年間ニ於テハ本店ノ資金ヲ借越スヨリハ寧ロ本店ヘ貸越ノ状態ニシテ……是レ台湾銀行ヲ大ニ利用シタル結果ニシテ従来台湾銀行ノ日歩ハ内地ノ日歩ニ比シ高キヲ常トシタレトモ、昨今製糖会社ニ於テ非常ニ利益ヲ得タル為メ同行ヨリ借入金ヲ為サス、若クハ内地ニ於テ金融ヲ為ス為メ同行ヨリ借入ヲ為サハル結果、台湾銀行ハ我々ニ割安ニ資金ノ融通ヲ為シ呉ルハニ至リタリ」(254 頁)

⑤上海支店(藤瀬支店長、明治 41 年支店長諮問会議事録)

「現今上海ニハ外国銀行及支那銀行十余行ト関係アルヲ以テ、此地方ニテ百万両位ノ融通ハ容易ニ為シ得ヘキニ付、今日ノ如キ取扱高ナレハ別ニ本店ヨリ資金ヲ請ハス融通ヲ為シ得ヘシ、併シ上海ハ至ツテ金利ノ昇降甚シキ地方ナルヲ以テ時ニ依リ二三割ノ利子ヲ支払ハサレハ融通シ得サルコトアリ、夫等ノ場合ニハ割高ナル利子ヲ支払フコトヲ避クル為メニハ常ニ上海ニ於テ商売ノ資金ヲ有スルコト必要ナリ、……相当ノ高ヲ本店ニ融通ヲ仰キタキ考ナリ」(125 頁)

「外国銀行トハ当座借越約定ナキヲ以テ、形式上我々ノ『デリバリー、オーダー』ヲ入レ置カハ融通シ得ヘシ、支那銀行ニテハ二、三十万両ノ『ローン』ナレハ許スコトアレトモ一時ニ五十万百万ノ高ハ好マサルカ如シ」(125 頁)

間島より「本店ヨリ二百万円ノ融通ヲ仰カハ宜シト云フハ、支那銀行ノ金利高キトキモ亦金融ノ好都合ニ運フ際モ両者共通シテ其高ニテ宜キ次第ナリヤ」と聞かれ、藤瀬は「先ツ其位ノ高ヲ本店ヨリ仰キ其余ハ上海ニテ融通ヲ為シ得ヘキ見込ナリ」と答え、小室理事の「支那銀行ニテハ担保ナシニ当座借越シ得ルヤ」に対しては「然リ担保ナシニテ為シ得ヘシ」と答えている(126 頁)

⑤-2 上海支店について、山本理事の発言「上海ニ於テ最モ利益トスル所ハ上海ハ東洋ニ於

ケル銀行ノ中心点ニテ多クノ為換ハ皆上海ニテ出合ヲ求メ来リ之ヲ仲買カ触レ廻ハルヲ以テ全体ノ状況ヲ知り得ルコトナリ、加之銀行ノ競争烈シキ為メ余程便利ヲ得ツ、アリ」もある(202 頁)

⑤-3 上海支店(藤村支店長、第 5 回、大正 6 年)

「上海支店ノ金融モ……過去 1 ケ年間ハ資金運転上ニ非常ナル困難ヲ見、為替相場先強、先弱ノ傾向トナリテヨリハ、常ニ輸入為替ノ決済資金ニ迫ハレ勝チニテ、昨年 11 月ヨリ本年 2 月ニ至ル 4 ケ月間ハ最モ金融逼迫ヲ告ケ、上海支店ノ輸出品資金、紡績製品其他ニ対スル融通資金、或ハ支那各店ニ対スル銀ノ貸借融通若クハ銀貨固定貸金等大分銀資金トシテ融通スルモノ多ク、是等ハ皆ナ銀行其他ヨリ銀ニテ借入レ融通スルニ非ス、単ニ輸入品ノ売上代ヲ以テ此為替ヲ決済スルニ先チ一時之ヲ流用シ来リシモノナレハ、金融緩慢ノ際ニハ別段支障ナカリシト雖モ、今日ノ如ク金融逼迫シ先物弱気ナル場合ニハ、銀資金トシテ輸入資金トシテ融通スルノ期間ニ乏シク、資金運転上非常ニ困難ヲ来当社信用ノ欠乏若クハ提供スヘキ担保欠乏ノ為メニ非スシテ、唯上海ニ於ケル各銀行自身カ為替決済シタリ、併シ是レ資金ノ欠乏ニ依リ、自己ノ手許逼迫シ金融ヲ為シ能ハサルニ原因シタルモノナリ」(306 頁)

⑥天津支店(南支店長、明治 36 年支店長諮問会議事録)

南は綿糸の商売と石炭を組み合わせることを希望したが、その中で「正金銀行ハ他ノ銀行ニ比スルト為替ノ『レート』ハ絶ヘズ違ヒ居リ、半両、或ハ 4 分ノ 3 兩位ヅツ高シ而シテ又輸出為替ハ如何ト云フニ他ノ銀行ノ唱ヘヨリ半両或ハ 4 分ノ 1 兩位ヅ、安ク其間ノ差ヲ見ルコト実ニ甚シキナリ」(183 頁)と正金為替取引の割高を述べている。「非常ニ多クノ高ハ正金銀行ナドモ無論引受ケズ先ヅ特別ニ勉強スル銀行ヘ往キ漸ク引受サセルコト、為セドモ、若シ(為替の)組合セ充分ニ付ケラレンコトヲ希望ス」(183 頁)とも述べ、「此地ノ『マーケット』ハ銀行ノ融通力非常ニ弱シ」(184 頁)という。

⑦漢口支店(支店長、第 5 回、大正 6 年)

「金融ハ本店、上海棉花部ノ援助ト、地方銀行ノ当座借越並ニ Over draft arrangement ニ依リ大ナル困難ナク経過シ来レリ、……最近上海店ヨリノ大高ノ融通、紐育店ヨリノ『クレジット』 50 万円ノ譲受ハ漢口店ノ感謝スル処ナリ」(280 頁)

⑧香港支店(小林支店長、明治 41 年支店長諮問会議事録)

「香港ノ金融ハ極メテ自由ニテ『クリンビル』ヲ組ムコトヲ得ヘク、又為換ノ延期モ為スコトヲ得ヘキモ、唯其以外ニ勝手ニ金ヲ引出スコトニ付テハ多少制限アリ、此高モ今日ノ所ニテハ 110 万弗位ハ得ラルヘキニ付先ツ融通力ハ相当ニ之レアルモノト云フヲ得ヘシ」(203 頁)

⑧-2 香港支店(林支店長、第5回、大正6年)

香上銀行との関係を聞かれて「公私共極メテ円滑多大ノ便宜ヲ得居レリ、今日ハ輸出為替ヲ大ニ望ム際ニテ幾許ニテモ持来レト云フ有様ニテ、制限高ヲ超過シテ引受ヲ為セリ、昨今ハ多分200万弗位ハ香港支店ニテ使用シ居ルヘシ、是レハ生糸、米商売ヲ別ニシテノ勘定ニテ、生糸、米ハ皆信用状ノ下ニ為替ヲ組メリ」(326~7頁)

⑨新嘉坡支店(林支店長、明治41年支店長諮問会議事録)

「新嘉坡ニ於テハ正金銀行ノ支店ナク、和蘭銀行カ其代理店ヲ為シ居レト、利息高ク其他ニ4分1%ノ『コミッション』ヲ取ラルハナリ」

会長が「夫等ノ店ニ於テハ香上銀行ヲ利用シテハ如何」と聞いたのに対し、「香上銀行ハ他ノ海外商売ノ為ニ多ク利用スル必要アリ、故ニ金融上ヨリ見テ差支ヲ生スルコトアルヘキニ付、矢張り為替ヲ取組ム場合ニハ他ノ銀行ニ便ル方融通上便利ナリ」と答えている(127頁)

⑩紐育支店(瀬古支店長、第5回、大正6年)

「紐育支店ノ取扱高ハ漸次多キヲ加ヘ、殊ニ其中ニハ外国売買アリ、又遠距離ヘ輸送スル商品アリ、從テ金融並荷物引取ノ上ニ於ケル信用ニ於テ他店ト稍ヤ趣ヲ異ニシ、其金額頗ル巨額ニ上ル傾向アリ、戦争前ニ於テ1年間ノ取扱高1億2,3千万円トシ、之ニ対シ如何ナル種類ノ信用其他ヲ利用シ金融ヲ為シタリヤト云フニ、先ツ正金銀行2百万円、外国銀行並三井銀行百万円乃至2百万円、英貨信用状千6,7百万円、米商銀行ヲ利用スルモノ2,3百万円、生糸手形、倉入証ヲ利用スルモノ3,4百万円、合計2千5,6百万円ニシテ、…戦争開始ト同時ニ取扱高モ増加シ、大正4年1億5千万円、同5年2億2,3千万円ニ上リタルカ、戦争ノ進行ト共ニ英国ノ金利騰貴シ、東洋対英国、又ハ其他ノ方面対英国ノ為替不利トナリ、英国ノ信用状ヲ利用スルコト能ハス、為メニ紐育支店ハ非常ニ不利ノ地位ニ立チ一時大ニ困難ヲ感シタリシモ、其後米商ニ準備銀行設立セラレタルニ付、米商銀行ノ信用ヲ利用シ漸ク此困難ヲ切抜ケタル次第ナリ、而シテ現今ノ金融方法ヲ申セハ、正金銀行ハ従来ノ2百万円ヲ臨時ニ6百万円ニ増額シ本店ノ借越3百万円余、米商銀行ヨリ受クル信用状千7,8百万円乃至2千万円、英貨信用状ノ利用シ得ル機会アル毎ニ之ヲ使用シタルモノ5百万円、其他生糸代手形割引又ハ倉入証券利用ノ為メ、合計4千5,6百万円ノ金融カヲ得、漸ク2億5千万円近クノ商売ニ対スル金融ヲ為シ来リタル次第ナリ」(347頁)

⑪桑港支店(永島支店長、第5回、大正6年)

支店昇格直後なので、取引銀行を紹介——正金、住友、香上、インター、キャナデアン・バンク・オブ・コンマース、バンク・オブ・カリフォルニア(334~5頁)

以上、外地支店で判明したものだけであるが、孟買支店、満州営業部、をはじめ多数の支店、

出張所、出張員については説明が見当たらなかった。

3. 明治 36～37 年の考察

合名会社期の三井物産の「事業報告」では、金融について明治 36～37 年のみが判明する⁽¹⁾。そこでは内地金融と外地金融に分けられ、前者では毎週、後者では毎月、本支店間の貸借、銀行貸借、約束手形(振出高と所有高)が集計されている。内地金融は国内支店の合計、外地金融は海外支店の合計であって、まだ後の「事業報告書」のように各店別にはなっていない。ただ、のちの「事業報告書」が期末残高だけの記載であるのに対し、毎週あるいは毎月の残高が記載されているので、短期的な変化を読みとることができる。

- (1) 明治 35 年までの「事業報告」では金融の記載がなく、36 年ではじめて「第 9 章金融」が設けられ、以後続いているはずであるが、38～40 年の事業報告が欠如しているため、36～7 年のみしか判明しなかった。

1) 内地各店の金融

第 1 表は内地各店の金融項目を整理し、時系列で表示したものである⁽¹⁾。内地各店とは、明治 26 年時点で小樽、函館、横浜、大阪、神戸、馬関の 6 支店、高崎、口ノ津、三池の 3 出張店、兵庫、若松、三角の 3 出張所があったが、その後 37 年までに札幌、越前堀、深川、名古屋、唐津、呉、佐世保、杵島、門司、横須賀、舞鶴の支店・出張所が設置されたから、24 店を数える⁽²⁾。しかし 36、37 年の事業報告で店部別に営業状況が記載されているのは上記の通りではない。部制度が採られ、機械鉄道、棉花、肥料雑穀の 3 首部があって、取扱高が記載されているし、反面、上記の支店・出張所で取扱高が記載されていないのは母店に取扱高が含まれているためであろう。第 2 表は内地 15 店部の商品販売結了高を示している。ただ、台北支店が事業報告では内地各店に分類されていることに留意する必要がある⁽³⁾。営業規模が大きいのは本店営業部、大阪支店、棉花首部で(半期で 1000 万円超がある)、それに次ぐのが神戸、門司両店、機械鉄道首部であり、さらに横浜、名古屋、若松、長崎、台北の諸店と肥料雑穀首部、半期数十万円程度が唐津、三池、口ノ津という具合である。36、37 年の事業報告の金融概況では、各店別の計数が記載されていないので、内地各店とは上記の店部であることを念頭に置き、合計でみる外はない。

内容の考察に入る前に同表の構造について説明せねばなるまい。たとえば原資料では「本支店間」の「借」「貸」の残高が表示されているが、明治 35 年 12 月 25 日であれば、「借」欄 383 万円は本店から資金を借りているいくつかの支店の合計値であり、「貸」欄 125 万円は本店に資金を貸している別ないくつかの支店の合計値であり、「差引」259 万円は、内地各店を一括し

第1表 内地各店の金融概況（明36／上～37／下）

調査時点	本支店間										銀行										約束手形			(a+b+c)
	貸		借		差引		正金		その他		計		貸		借		差引		振出高		所有高			
	貸	借	貸	借	貸	借	貸	借	貸	借	貸	借	貸	借	貸	借	貸	借	貸	(c)	(a+b)			
35 12 25	3,831	1,245	△ 2,586	79	589	510	311	6	△ 305	694	88	△ 605	1,084	683	△ 401	572	3,776	△ 2,987	△ 3,559					
36 1 29	4,053	9	△ 4,044	80	96	16	311	38	△ 273	1,161	75	△ 1,086	1,552	209	△ 1,343	681	2,821	△ 5,387	△ 6,068					
2 26	2,690	474	△ 2,216	47	132	85	277	32	△ 245	1,923	21	△ 1,902	2,247	185	△ 2,062	464	2,751	△ 4,278	△ 4,742					
3 26	2,998	1,300	△ 1,698	354	317	△ 37	346	131	△ 215	1,464	65	△ 1,399	2,164	513	△ 1,651	332	2,583	△ 3,349	△ 3,681					
4 30	3,503	1,685	△ 1,818	345	627	282	142	29	△ 113	1,630	168	△ 1,462	2,117	824	△ 1,293	494	3,115	△ 3,111	△ 3,605					
5 28	4,458	5,182	724	66	664	598	198	624	426	1,200	170	△ 1,030	1,464	1,458	△ 6	277	4,113	718	441					
6 25	5,100	2,934	△ 2,166	82	477	395	26	169	143	659	1,001	342	767	1,647	880	176	3,660	△ 1,286	△ 1,462					
7 30	2,364	542	△ 1,822	1,050	202	△ 848	103	3	△ 100	301	17	△ 284	1,454	222	△ 1,232	501	1,257	△ 3,054	△ 3,555					
8 27	1,667	119	△ 1,548	108	106	△ 2	141	27	△ 114	1,049	28	△ 1,021	1,298	161	△ 1,137	679	1,886	△ 2,685	△ 3,364					
9 23	1,871	365	△ 1,506	13	108	95	94	96	2	1,664	128	△ 1,536	1,771	332	△ 1,439	666	2,412	△ 2,945	△ 3,611					
10 29	625	1,150	525	6	108	102	118	309	191	2,275	370	△ 1,905	2,399	787	△ 1,612	346	1,609	△ 1,087	△ 1,433					
11 26	1,488	423	△ 1,065	269	109	△ 160	281	183	△ 98	1,079	290	△ 789	1,629	582	△ 1,047	542	1,132	△ 2,112	△ 2,654					
12 31	2,004	434	△ 1,570	568	9	△ 559	17	393	376	69	△ 69	654	402	△ 252	1,272	2,513	△ 1,822	△ 3,094						
37 1 28	1,315	256	△ 1,059	123	101	△ 22	8	647	639	140	27	△ 113	271	775	504	2,454	1,569	△ 555	△ 3,009					
2 25	1,244	404	△ 840	435	74	△ 361	116	314	198	493	△ 493	1,044	388	△ 656	2,449	2,160	1,496	△ 3,945						
3 31	1,498	312	△ 1,186	368	37	△ 331	51	236	185	179	2	△ 177	598	275	△ 323	2,499	2,621	△ 1,509	△ 4,008					
4 28	2,406	972	△ 1,434	31	102	21	27	203	176	398	△ 398	456	305	△ 151	2,696	3,073	1,585	△ 4,281						
5 26	1,105	1,417	312	794	35	△ 759	47	211	164	260	△ 260	1,101	246	△ 855	2,835	1,659	△ 543	△ 3,378						
6 30	1,955	919	△ 1,036	268	18	△ 250	71	214	143	232	10	△ 222	571	242	△ 329	2,239	956	△ 1,365	△ 3,604					
7 28	2,190	529	△ 1,661	37	29	△ 8	19	273	254	189	△ 189	245	302	57	3,526	1,074	1,604	△ 5,130						
8 25	2,749	531	△ 2,218	291	14	△ 277	7	241	234	176	△ 176	474	255	△ 219	5,924	739	2,437	△ 8,361						
9 29	2,738	370	△ 2,368	46	195	149	11	420	409	293	1	△ 282	350	616	266	5,303	598	△ 2,102	△ 7,405					
10 27	2,546	839	△ 1,707	392	53	△ 339	7	188	181	233	1	△ 232	632	242	△ 390	5,129	810	△ 2,097	△ 7,226					
11 24	3,966	1,283	△ 2,683	331	119	△ 212	12	242	230	143	8	△ 135	486	369	△ 117	3,510	704	△ 2,800	△ 6,310					

〔備考〕1. 三井物産「明治36年度事業報告」33～6頁、「同37年度事業報告」48～51頁より計算の上作成。
 2. 「本支店貸借欄」の「借」は支店が本店から借、「貸」は支店が本店に貸を示す。「銀行」欄の「借」は物産が銀行から借入、「貸」は銀行に預金を示す。第3表も同様。

第2表 内地各店の商品販売結了高

(単位:千円)

店部名	36/上	下	37/上	下
本店営業部	10,560	8,923	10,314	13,122
機械鉄道首部		2,264	4,168	5,576
横浜支店	2,580	2,115	241	394
名古屋 "	975	1,179	1,699	2,418
大阪 "	8,889	9,355	11,081	14,253
綿花首部	9,166	8,320	10,751	6,883
神戸支店	3,090	4,298	3,311	7,118
肥料雑穀首部			3,751	1,830
門司支店	4,430	4,377	4,189	4,383
若松出張所	1,795	1,668	1,883	2,320
唐津 "	506	416	373	300
三池 "	318	339	290	442
長崎支店	1,472	1,298	1,440	4,229
口ノ津 "	239	230	293	512
台北支店	1,028	1,583	2,161	1,062
内地店部計	45,048	46,366	55,946	62,042

- [備考]1. 三井物産「明治36年度事業報告」12～4頁、
「明治37年度事業報告」21～3頁より計算の上作成。
2. この時点では台北支店は内地扱となっている。

た場合、最終的に本店から得ている資金額をあらわす。三井銀行との関係では、「貸」59万円はいくつかの支店からの預金、「借」8万円は別ないくつかの支店の当座借越を意味し、「差引」51万円は、内地支店全体として同行に預金超過であることを表す。正金銀行やその他銀行との関係も同様である。内地支店全体として銀行信用を40万円利用した形である。内地支店全体として本店からの援助259万円と銀行からの借入40万円の合計299万円の資金調達を行っていたことになる。約束手形の所有高は、支店が取引上得た受取手形の手持高と考えられ、銀行で割り引けば資金化が可能であろう。同じく振出高は取引上手形払いした残高と思われ、いわば資金調達の手段と見なされる⁽⁴⁾。したがって「本支店間」259万円、「銀行」40万円、「約手振出高」57万円の合計356万円が内地支店全体としての資金調達の規模とってよかろう。

以上のような枠組みを含意して、第1表から内地支店の資金調達振りを考察してみよう。同表では個々の支店にあるはずの異なった対応は埋没し、内地各店合計であることを念頭に置く必要がある。そして明治36年と日露戦争が勃発した37年では、様相を異にしているのので、分けてみることにしよう。まず36年。

第1に、「本支店間」をみると、ほぼ各月で本店の援助に依存している。本店に余裕金を回す支店がないわけではないが(貸欄)、多くの支店は資金を本店に仰いでいるわけである(借欄)。

内地支店合計で多い月で 400 万円、通常で 100~200 万円の借残である(差引欄)。5 月は支店の借残が 446 万円の多額であったが、それを超える支店の貸残が 518 万円にのぼり⁽⁵⁾、差引で珍しく 72 万円の貸残となっている。10 月も差引は 53 万円の貸残であるが、借りた支店が少なかったためである。月別の推移をみると、借残、貸残とも変化が激しく、本支店間のやりとりはきわめて流動的なことを示している。

第 2 に、「銀行」であるが、三井と正金は個別に、その他の銀行は一括され、その内訳は不明である。三井は差引預金超過となっている月が 8 カ月、借越超過が 4 カ月であり、月によって変動が激しい。7 月の 105 万円の借越残高(差引で 84 万円借)は、その前後に比し異常に大きい、これも理由不詳である⁽⁶⁾。月別には絶えず「借残」があり、どこかの支店で当座借越が発生していることを意味するが、変化が激しいので特定の支店で多額に長期間発生しているとも思えない。正金は差引借越超過となっている月が 8 カ月、預金超過が 4 カ月で、三井と逆である。また、発生の月が三井と異なる方が多い。

「その他」銀行は相手先も行数も不明であるが、差引欄でみる通り、6 月を除いて借入超過ばかりであり、しかも 100~200 万円の規模で、三井、正金よりかなり多額である。預金残は僅かで、借越の発生規模が大きいのが特徴である。そして年間を通じて、いわば固定的に借越残が続いている。以上、三井、正金、その他を合算してみると(「計」欄の差引)、内地支店にとって本支店間差引に匹敵する資金調達であることを示している。その他銀行への依存が相対的に大きいことも注目されよう。

第 3 に、約束手形であるが、振出高の推移をみると 18~68 万円の幅で増減があるもの、後の 37 年と比べるとまだ小規模である。それも支店にとっての資金調達の一環とみれば、(a+b+c) 欄が内地支店の資金調達の最終的な姿と言うことになる。36 年 5 月の「本支店間」の貸残に影響されて、その月だけが(a+b+c) 44 万円貸残であるが、支店合計は毎月 140~600 万円の幅で資金調達していたのである。

次に 37 年をみよう。日露戦争が 2 月に発生しているが、36 年とはいくつかの点で様相を異にしている。

第 1 に、「本支店間」をみると、5 月だけが差引貸残であるが、毎月本店依存が続き、前半より後半で依存が強まっている。

第 2 に、「銀行」をみると、三井では預金超過の月が 2 回あるが、10 カ月は借越超過で、36 年と様変わりである。そして借越の店が多いか、多額なのかは不明ながら、借越残は大きく変動し、三井への依存度が 36 年より高いといえよう。正金では 36 年とは一転し、借越超過の月はない。借越の発生が僅かで、毎月預金が安定して滞留している形である。その他銀行では毎月借越超過が続くが、36 年のような多額ではない。預金自体が少額で、借越残がそのまま差引

に反映している。したがって支店の資金調達上、正金への依存は減り、三井とその他銀行への依存が増してはいるが、銀行依存は「計」でみるように36年より低水準となっている。

第3に、約束手形であるが、振出高が36年よりも格段に多額である。36年が毎月数十万円であったのに、37年は127万円から始まって8～10月は500万円台になっている。「本支店間」「銀行」への依存より、支払手形の増発によってより多額の資金調達をしたことになる。そして、約束手形所有高も37年後半から急減しているのはより多く手形割引したためであろうか。その結果、最終的資金調達の姿である(a+b+c)は、前半は36年並みの300～400万円であるが、後半は700～800万円へと大きくなっている。

- (1) 原表は週毎であるが、外地金融と揃えるために月毎にした。各月の最後の週末を採り、月末の代わりとした。
- (2) 『稿本三井物産株式会社100年史上』205～7頁による。
- (3) のち台南出張所も内地各店に分類され、株式会社に改組された43年上期から外地支店扱いとなる。
- (4) 銀行に支払手形を振り出すのは借入であって、のち物産本店でみられる借入の処理である(拙稿「株式会社期の三井物産の銀行取引」参照)。しかし銀行の「借」残高に対し振出高はあまりにも多額であり、借入のための支手発行残高だけでは考えにくい。
- (5) 週別推移でみると、5月28日だけが異常に多額であって、一過性の現象と思われる。
- (6) 週別推移で検証すると、7月30日だけが多く、これも一過性の現象といえよう。

2) 外地各店の金融

次に第3表によって、外地各店の金融をみよう。外地各店とは、明治26年時点で上海、香港、新嘉坡、倫敦の4支店、天津出張店、孟買出張所があったが、その後37年までに營口、台北、紐育(再開)、桑港、仁川、廈門、芝罘、漢堡、漢口、京城、関東州、馬尼刺、瓜哇、斯士寧、北京、広東、台南の支店・出張所が設置され、25店を数える⁽¹⁾。内地各店と店数においてほぼ同じである。外地各店の商品販売結了高を第4表でみると、7店、8出張員であり、上記店所とは大きく異なっている⁽²⁾。営業規模では上海が最大で(半期1,000万円の時がある)、香港、倫敦、紐育、孟買、新嘉坡の各店がそれに次ぎ、出張員は概して少額である。外地各店合計の規模は、36年で内地各店合計の8割前後、37年では5～6割である。内地合計が36年から37年に拡大しているのに対し、外地合計は僅かながら縮小している。

第3表の枠組みも第1表と変わらないので、同様な考察をすることになる。まず、36年についてである。

第1に、「本支店間」をみると、前半で「借」「貸」が空白であるのは疑問で、支店からの報告がなくて集計されていないからではないか。4、5月は支店から本店への「貸」が多く、差引貸超過となっているが、6月以降、支店によっては少額の「貸」があるものの、恐らく多くの支店で本店の資金に依存することに変化した。毎月200万円程度の規模である。

第2に、「銀行」であるが、三井の海外支店への依存はないとみえ、正金、渣打(チャーター

第3表 外地各店の金融概況(明36/上~37/下)

調査時点	本支店間				銀行				約束手形				(a+b+c)		
	借	貸	差引(a) (貸-借)	正金	借	貸	差引	借	借	貸	差引(b)	借		貸	差引(c)
35 11 30	73	481	△ 378	13	13	2	2	463	461	483	581	98	△ 738	969	△ 567
12 31	154	△ 154	△ 453	287	287	31	31	280	577	990	1,152	162	△ 874	397	△ 866
36 1 31		1,004	△ 732	33	20	30	30	32	120	88	1,049	455	△ 594	1,266	△ 594
2 28	105	△ 105	△ 928	113	113	92	92	26	58	32	1,029	338	△ 691	477	△ 796
3 31	372	△ 372	△ 966	15	15	41	41	9	139	130	1,215	435	△ 780	1,119	△ 1,152
4 30	799	799	△ 631	53	51	5	5	7	105	98	732	255	△ 477	787	△ 495
5 31	298	826	△ 345	2	2	27	27	122	61	61	744	435	△ 309	939	△ 676
6 30	1,273	118	△ 1,155	36	36	66	66	28	15	53	745	178	△ 567	318	△ 1,722
7 31	1,996	29	△ 1,967	306	378	72	44	44	13	74	319	512	△ 193	423	△ 2,509
8 31	1,912	104	△ 1,808	340	219	△ 121	23	23	5	65	345	420	75	533	△ 1,733
9 30	2,078	87	△ 1,991	415	249	△ 166	5	5	14	108	415	376	△ 39	897	△ 2,520
10 31	1,999	307	△ 1,692	447	103	△ 344	5	5	11	37	447	156	△ 291	486	△ 2,030
11 30	2,806	338	△ 2,468	30	302	272	4	△ 4	79	65	178	370	192	673	△ 3,498
12 31	2,704	136	△ 2,568	637	136	△ 501	24	△ 24	76	8	856	267	△ 589	445	△ 4,043
37 1 31	4,146	61	△ 4,085	102	121	19	300	△ 593	123	123	2,282	244	△ 2,038	1,345	△ 7,468
2 29	3,635	△ 3,635	204	40	164	△ 164	377	△ 377	558	44	2,948	216	△ 2,732	1,569	△ 6,367
3 31	3,489	132	△ 3,357	201	36	△ 165	448	△ 448	1,006	177	2,598	213	△ 2,385	1,061	△ 6,803
4 30	3,846	299	△ 3,547	289	61	△ 228	46	△ 86	1,188	91	1,609	152	△ 1,457	1,269	△ 6,273
5 31	5,136	322	△ 4,814	75	157	82	129	65	18	47	82	56	△ 26	351	△ 8,844
6 30	4,197	543	△ 3,654	122	205	83	103	△ 103	45	29	363	256	△ 107	1,574	△ 3,761
7 31	4,199	342	△ 3,857	61	100	39	57	△ 57	22	266	406	103	△ 303	1,599	△ 5,759
8 31	3,790	968	△ 2,822	195	125	△ 70	55	△ 55	120	285	7	278	△ 22	1,338	△ 4,483
9 30	4,216	328	△ 3,888	234	42	△ 192	31	45	13	502	825	55	△ 70	1,449	△ 6,107
10 31	5,258	385	△ 4,873	106	37	△ 69	128	△ 128	13	4	1,325	42	△ 1,331	1,222	△ 6,404

〔備考〕「明治36年度事業報告」36~7頁、「明治37年度事業報告」51~3頁より計算の上作成。

(単位:千円)

第4表 外地各店の商品販売結了高

(単位:千円)

店部名	明36/上	下	37/上	下
京城出張員	111	1,000	55	1,150
仁川 "	143		55	67
関東州 "	319	497		
天津支店	752	830	1,175	2,743
上海 "	10,126	8,145	8,433	8,836
香港 "	4,719	3,724	4,235	6,094
廈門出張員	131	80		10
広東 "				1,013
馬尼刺 "	604	784	863	654
新嘉波支店	2,929	3,094	5,506	1,895
孟買 "	3,298	5,272	218	345
倫敦 "	7,609	4,911	5,194	3,178
漢堡出張員	621	856	750	528
紐育支店	7,585	4,342	4,868	5,027
桑港出張員	545	1,389	1,090	314
外地店部計	39,491	34,924	32,515	31,855

[備考]三井物産「明治36年度事業報告」14～6頁、「明治37年度事業報告」23～5頁より計算の上作成。

ド)、香上(香港上海)の3行が別記され、あとは「その他」で一括されているが、その内訳は不明である。正金では、7月を除き借越超過が続き、特に1～3月は借越残が100万円を超えている。渣打、香上両行では支店による借越はほとんどなく、少額ながら預金が常にある。その他銀行では、前半で借越が少額ながら発生し、反面、預金も常に若干あるため、差引で借越超は2カ月に過ぎず、預金超過の月が多い。前半の資金調達では本店依存が少なく、銀行依存であるが、その中心は正金であった。後半になると本店への依存が急増し、銀行依存は低下する。

第3に、約束手形では振出高が70～100万円の水準にあり、前半では銀行と共に、後半では「本支店間」と共に資金調達の一翼をなしている。

次に37年を第3表の下段でみよう。内地各店と同様に外地各店も36年とは様変わりである。

第1に、「本支店間」では本店に回金する支店分がないわけではないが、本店に依存する支店分が36年より格段に増加し、差引借入超過が毎月250～480万円となっている。

第2に、「銀行」であるが、渣打、香上、その他銀行で毎月借越超過が発生し、月によっては100万円を超える規模にもなっている。逆に正金は36年より借越超過が低水準であって、差引預金超過の月が4カ月ある。ということは37年では正金よりもそれ以外の銀行に大きく依存していることを示している。ただし37年でも1～3月に銀行依存が200万円台の高水準で、5～9月は低水準に変化している。

第3に、約束手形の振出高も36年とは大きく変化し、毎月100万円台が続き、5月には191万円を記録している。所有高も100万円台が続くのは営業拡大の反映であろうか。

資金調達合計と言うべき(a+b+c)は、36年の最多月350万円を大幅に超え、400～800万円で、同時期の内地各店より高水準である。

- (1) 『稿本三井物産株式会社100年史上』205～7頁による
- (2) 営口、芝罘、漢口、瓜哇、斯土寧、北京、広東、台南は第2表に登場しないが、開設日が浅く、計数に登場していないのか、廃止されたのか、母店に含まれているのか、事情は不明である。

4. 明治41年～大正3年上期の考察

1) 店部別営業活動の推移

物産の「事業報告」の明治41年以降では、金融概況が各店部別に判明する。しかも当座預金、借入金、割引手形、「本支店間」の残高が期末だけではあるが判明する。すなわち、店部別に資金調達の実態にアプローチ可能となる。ただ、「事業報告」で解明が可能なのは明治41年から大正7年に限られるが、物産の営業活動は第一次大戦期に大膨張するので、金融面も大きく変化する。したがって第一次大戦が勃発する大正3年7月で時期区分し、明治41年上期から大正3年上期までと3年下期から7年上期までに分けて考察しよう。

まず、支店金融の背景となる営業活動の推移を確認しておこう。「事業報告」によれば、店部別の総取扱高(輸出、輸入、内地売買、外国売買別)⁽⁴⁾が記載されているが、営業規模の推移はこれによって知ることができよう。もちろん支店によって営業分野ないし取扱商品の特性があり、それによって資金調達も異なると思われるが、そこまで細分化しての考察は技術的に困難であり、ここでは総取扱高の推移で代表させておく。

第5表は、内地各店の総取扱高の推移である。資金需要の発生如何は、各店の営業内容によって異なるのは当然で、支店別に営業内容を確認しておこう。内地支店では、総取扱高における比重で見ると、輸出入が中心であるのは大阪、棉花部、神戸、砂糖部、肥料雑穀部、長崎など、輸出中心が石炭部、横浜、札幌(のち小樽)など、輸入中心が本店営業部、機械部、名古屋など、内地売買中心が門司、若松、唐津、三池などと分類される。半期取扱高が常に1,000万円を超えるのは営業部、大阪、途中から超えるのは機械部、石炭部、砂糖部、棉花部で、特に棉花部は設置後半期1億円前後の巨額が続き別格な存在であった。明治45年以降、棉花部と同時に設置された石炭部は2,700万円から4,500万円へ、砂糖部は1,400～1,900万円、既存の機械部も2,500～2,800万円へ取扱高は激増している。神戸は増加して半期1,000万円を超えるが、反面、2,000万円前後だった横浜は激減し、名古屋、門司、長崎、札幌(小樽)も減少している。1,000万円の取扱高であった肥料雑穀部や、若松、唐津、口ノ津も途中から姿を消している。

第5表 内地店部の総取扱高種類別と金融関係（明41／下～大3／上）

		(単位:万円)										
店部名	科目	明41／下	42／下	43／上	43／下	44／上	44／下	45／上	45／下	大2／上	2／下	3／上
本店営業部	輸出	145	136		277	331	377	412	370	221	273	166
	輸入	934	731		742	1,103	1,390	1,294	1,204	1,571	1,344	1,559
	内地売買		507		575	437	1,041	180	284	273	246	334
	外地売買	357	0.2									
	計	1,436	1,374		1,594	1,870	2,808	1,886	1,859	2,065	1,863	2,059
	本店貸借	△ 101	93	△ 36	△ 63	△ 157	△ 211	55	△ 182	△ 298	△ 499	△ 580
	三井当座	13	80	65	4	32	75	52	59	49	11	48
	他行当座	17	4	15	21	12	19	61	74	22	131	30
	三井借入				△ 70			△ 100				
	他行借入			△ 80	△ 10	△ 75	△ 10		△ 3	△ 2		△ 1
	三井割引							△ 63	△ 21	△ 38	△ 52	△ 95
他行割引							△ 221	△ 184	△ 279	△ 126	△ 286	
外為保証							△ 223	△ 184	△ 424	△ 395	△ 353	
外為取組				90	134	286	188	236	221	240	245	
機械鉄道首部	輸出	6	6			1	2	2	65	35	30	45
	輸入	634	301		557	265	505	337	2,234	2,401	2,494	2,545
	内地売買	14	5		4	7	1	3	50	113	112	106
	外地売買	658	36						174	73	69	109
	計	1,312	349		561	273	508	342	2,523	2,622	2,704	2,806
	本店貸借	△ 275	△ 212		△ 71	△ 118	△ 171	△ 250	△ 228	△ 200	△ 304	△ 211
	三井割引							△ 17	△ 3		△ 12	△ 70
	他行割引							△ 79	△ 44	△ 71	△ 6	△ 41
	外為保証							△ 174	△ 94	△ 142	△ 205	△ 169
	外為取組											
	海軍掛	輸入	49	66		63	88	96	56	8	16	15
内地売買		83	62		92	95	63	59	69	63	51	42
計		132	128		155	183	159	115	78	79	67	69
本店貸借	△ 27	△ 31	△ 42	△ 19	△ 24	△ 29	△ 10		△ 14			
石炭部	輸出							1,258	1,251	1,907	2,214	2,115
	輸入							22	33	54	39	67
	内地売買							1,217	1,231	1,294	1,590	1,835
	外地売買							200	245	363	399	455
計							2,696	2,762	3,617	4,242	4,472	
砂糖部	輸出							256	371	385	384	298
	輸入							17	179	827	752	496
	内地売買							434	757	346	580	382
	外地売買							150	135	166	156	289
計							858	1,441	1,723	1,873	1,465	
木材部	輸出							390	395	555	443	
	内地売買							234	206	139	191	
計							625	601	694	635		
札幌出張所 43／上以降 小樽支店	輸出	281	300		187	173	200	209			4	8
	輸入	6	2		2	3	8	10	33	4	17	26
	内地売買	121	132		30	44	100	109	38	32	34	71
	計	408	434		219	220	307	328	71	37	54	106
	本店貸借	△ 560	△ 454	△ 249	△ 197	△ 272	△ 318	△ 468	△ 418	△ 376	△ 188	△ 362
	三井当座								1	1		1
	他行当座											
三井借入			△ 30	△ 3	△ 47	△ 25	△ 8	△ 9	△ 3			
他行借入									△ 4	△ 12	△ 10	
外為取組				2	6	13	23	187	191	411	207	
横浜支店	輸出	1,597	1,326		1,800	2,289	343	369	385	348	622	749
	輸入	4	11		18	36	14	18	14	11	12	19
	計	1,601	1,337		1,818	2,326	356	386	400	358	634	768
	本店貸借	△ 1	△ 25	△ 67	△ 71	△ 23	△ 38	6	△ 7	△ 1	△ 15	5
	三井当座		1	4		1						1
	他行当座	△ 62	△ 33									2
	三井借入					△ 50			△ 6	△ 10	△ 23	△ 14
他行借入			△ 119	△ 348	△ 88	△ 43	△ 62	△ 76	△ 82	△ 42	△ 58	
外為取組				1,722	2,074	1,876	2,993	2,708	2,281	3,311	3,313	

名古屋 "	輸出	60	24		40	51	74	17	16	17	13	17	
	輸入	228	142		309	564	285	252	245	242	200	192	
	内地売買	146	149		171	221	263	34	78	24	53	75	
	計	433	315		520	835	623	302	339	283	266	284	
	本店貸借 三井当座	31	△ 54	△ 50	△ 33		△ 39	△ 49			36	△ 21	△ 186
	他行当座	1	3	3	1	1						3	3
大阪 "	輸出	586	644		1,155	1,267	1,371	254	379	375	324	369	
	輸入	1,143	624		2,169	3,872	2,212	672	495	689	723	585	
	内地売買	429	487		982	792	950	175	153	159	144	191	
	計	2,159	1,756		4,305	5,931	4,533	1,101	1,028	1,234	1,191	1,145	
	本店貸借 三井当座	△ 151	24		194	33	△ 137	△ 12	△ 103	△ 292	△ 325	404	
	他行当座	1	14	32	2	36	28	54	34		28	30	
棉花首部	輸出							2,564	3,643	3,540	3,309	3,400	
	輸入	689	933					5,379	2,942	5,362	3,893	7,618	
	内地売買							693	697	405	520	579	
	外地売買							895	1,474	1,239	1,558	1,221	
	計	689	933					9,531	8,756	10,547	9,279	12,818	
	神戸支店	輸出	115	119		191	162	190	185	240	208	282	196
輸入		25	15		132	262	379	484	281	491	434	366	
内地売買		96	67		126	118	162	148	122	73	114	96	
外地売買					73	132	130	226	201	172	172	184	
計		236	201		522	676	861	1,043	843	943	1,002	842	
本店貸借 三井当座		10	36	4	51	236	71	14	133	23	△ 7	△ 45	
他行当座	3	4	3	15	14	4	10	△ 8	13		1		
肥料雑穀首部	輸出	36	19		41								
	輸入	108	314		240								
	内地売買	37	23										
	外地売買		689		723								
	計	181	1,045		1,003								
	本店貸借 三井借入	42	△ 30	△ 61									
門司支店	輸出	218	181		192	216	183	2	2	3	6	5	
	輸入	72	55		58	70	106	91	79	104	78	92	
	内地売買	555	623		591	597	554	67	113	83	103	97	
	計	845	859		841	883	842	160	194	190	188	193	
	本店貸借 三井当座	△ 137	△ 173	△ 16	△ 26	△ 13	△ 107	△ 132	△ 114	24	△ 5	△ 9	
	他行当座	△ 19	1	△ 7		1	4				2	2	
門司支店	輸出												
	輸入												
	内地売買												
	外地売買												
	計												
	本店貸借 三井借入												
他行借入													
三井割引													
他行割引													
外為保証													
外為取組													

第6表 外地各店の総取扱高種類別と金融関係（明41／下～大3／上）

（単位：万円）

店部名	科目	明41／下	42／下	43／上	43／下	44／上	44／下	45／上	45／下	大2／上	2／下	3／上
台北支店	輸出	1	239		243	303	254	286	232	326	225	268
	輸入	100			148	83	199	182	245	245	160	210
	内地売買	133	86		352	173	83	37	25	36	538	126
	外地売買		108									
	計	234	433		744	559	537	505	502	607	923	604
	本店貸借	4	79	210	261	237	71	56	53	148		△ 78
他行当座		4	7	4	5	4	2	11	22		10	
他行借入			△ 325	△ 330	△ 273	△ 170	△ 154	△ 110	△ 50		△ 125	
外為保証						△ 13	△ 9	△ 10	△ 34	△ 27	△ 16	
外為取組							125	52	1	52		
台南出張所	輸出								0.4			
	輸入	18	15		77	115	60	74	41	108		107
	内地売買	115	155		255	191	437	205	474	289		355
	外地売買	132	170		331	306	496	279	516	397		462
	計	△ 84	△ 78	△ 73	△ 90	△ 146	△ 26	△ 15	△ 86	△ 208	200	
	本店貸借	△ 1	1	△ 1	△ 1	△ 8	△ 72	△ 166	△ 58	△ 17	△ 323	
他行当座										6		
三井借入												
京城出張所	輸出	159	129		133	25	25	30	31	15	18	20
	輸入	7	11		4	79	99	117	74	101	116	60
	内地売買	238	47		57	282	175	66	52	87	100	119
	外地売買	405	186		194	386	299	213	156	204	234	199
	計	10	2	△ 19	△ 3	△ 19	△ 48	△ 61	△ 58	△ 142	△ 165	△ 181
	本店貸借	△ 1	38	16	1	2		4	3	△ 3	△ 3	△ 2
他行当座									△ 7	△ 18		
他行借入						△ 86	△ 46	△ 84	△ 47	△ 92	△ 33	
外為保証												
牛荘支店	輸出	229	354									
	輸入	133	562									
	内地売買	95	102									
	外地売買	457	1,017									
	計	△ 10	26	△ 6	△ 94							
	本店貸借	△ 2	△ 5		1							
他行当座										130	81	
外為取組												
満洲営業部	輸出				530	811	1,042	100				
	輸入				194	677	414	808				
	内地売買				111	524	755	2,224				
	外地売買				836	2,012	2,211	3,132				
	計					△ 234	△ 60	△ 92				
	本店貸借						△ 2	△ 10				
他行当座						△ 61	△ 176					
他行借入						△ 277	△ 341					
外為保証							△ 278					
外為取組												
天津支店	輸出	105	167		219	204	288	46	16	19	25	20
	輸入	3	7		5	34	61	5	12	7	16	17
	内地売買	1	5		13	11	16	33	39	12	4	7
	外地売買	110	179		236	248	366	84	67	38	45	44
	計	△ 60	△ 47	△ 80	△ 50	△ 41	△ 70	△ 80	△ 30	△ 24	△ 40	△ 30
	本店貸借	5	3	4	1	2	3	4	3	2	3	3
他行当座												
外為取組								32	51	41	17	
上海 "	輸出	708	653		786	850	816	312	55	58	57	73
	輸入	114	155		308	737	208	52	56	103	174	95
	内地売買	452	297		267	527	511	129	154	222	389	272
	外地売買	1,273	1,105		1,361	2,114	1,535	494	265	382	620	440
	計	△ 184	△ 305	△ 602	△ 645	△ 440	△ 275	△ 356	△ 542	△ 453	△ 278	△ 264
	本店貸借	35	△ 62	141	7	37	32	4	30	11	38	18
他行当座						△ 12	△ 79	△ 132	△ 65	△ 130	△ 263	
他行借入						△ 199	△ 244	△ 303	△ 485	△ 414	△ 359	
外為保証				83	562	55	351	249	324	408	388	
外為取組												
香港 "	輸出	196	222		386	306	433	53	28	33	31	31
	輸入	77	97		117	151	141	219	124	208	323	203
	内地売買	95	41		229	130	192	176	169	271	125	297
	外地売買	368	360		732	587	786	448	320	511	479	532
	計	24	△ 3	△ 12	△ 10	△ 12	△ 9	△ 9	62	20	△ 6	30
	本店貸借	△ 1	△ 1	△ 1		△ 2	△ 10	△ 3		△ 29	△ 15	△ 23
他行当座									△ 3	△ 31	△ 30	
他行借入			△ 13				△ 10	△ 20	△ 3	△ 108	△ 194	
外為保証				295	249		△ 7	△ 30	△ 121	△ 185	△ 612	
外為取組							222	420	416		652	

廈門出張員	輸出	12	11		15	14	15	11	12	11	11	8	
	輸入	14	19		25	48	21	63	38	38	14	43	
	外地売買	38	18		27	40	20	35	33	73	38	99	
	計	64	48		66	101	56	109	82	123	62	150	
本店貸借 他行当座 外為取組		△ 14											
		1						62	20	137	13	51	
広東出張所	輸出	33	35		21	23	21	44	2	12	7	5	
	輸入	1			1	1	1	0.4	0.1	10	3	1	
	外地売買	70	17		15	4	14	4	18	44	116	116	
	計	103	52		37	28	37	48	20	65	125	122	
本店貸借 他行当座 外為取組		△ 10											
		1											
馬尼刺出張所	輸出	47	53		91	94	153	55	7	19	13	16	
	輸入	5	6		10	18	9	11	15	18	23	45	
	外地売買		0.3			0.4	2		94	1		1	
	計	52	59		101	113	164	66	116	38	36	62	
本店貸借 他行当座 外為取組		△ 16	△ 10	△ 8	△ 6		△ 19		△ 24	△ 11	△ 19	△ 20	
		△ 9	△ 2		12					△ 7			
								11	15	1	27	16	
新嘉坡支店	輸出	146	153		169	170	186	61	62	60	63	52	
	輸入	108	24		26	40	57	123	261	212	90	100	
	外地売買	50	24		29	35	36	58	104	114	62	100	
	計	304	201		224	244	279	241	427	386	215	252	
本店貸借 他行当座 外為保証 外為取組		△ 7	△ 3	△ 9			△ 17			39	8	△ 4	
		△ 3		△ 1	3								
										△ 65			
					88	88	39	97	151	143	163	100	
孟買 "	輸出	30	40		52	76	87	67	71	56	70	65	
	輸入	1			690	1,411	646		0.3	11	11	135	
	外地売買	187	110		185	117	280	13	34	19	57	142	
	計	218	151		928	1,605	1,012	79	105	86	138	342	
本店貸借 他行当座 他行借入 外為保証 外為取組		△ 9	4	△ 50	17	△ 83	△ 67	△ 130	△ 55	△ 57	△ 46	△ 154	
		7	△ 19	2	3	4	43	4		2	2	8	
				△ 25		△ 17		△ 33	△ 12	△ 152	△ 92	△ 450	
					636	1,398	709	1,658	759	2,250	113	1,860	
倫敦 "	輸出	211	310		565	326	310	252	274	246	188	222	
	輸入	295	438		421	1,211	898	1,088	778	904	721	671	
	外地売買	4	810		794	277	625	405	291	317	146	498	
	計	510	1,558		1,780	1,814	1,832	1,745	1,343	1,467	1,056	1,391	
本店貸借 他行当座 外為保証 外為取組		△ 50	△ 148	225	△ 20	△ 79	3	△ 5	11	102	98	141	
		24	78	33		41	40	2	30	42	29	120	
								△ 1,638	△ 1,795	△ 1,386	△ 2,050	△ 2,912	△ 3,265
					867	867	1,012	1,037	1,403	1,315	1,226	120	
漢堡出張所	輸出	33	163		101	146	143	130	149	161	114	94	
	輸入	175	212		222	232	241	275	171	194	167	148	
	外地売買	73	142		205	63	143	75	182	98	108	132	
	計	280	518		528	442	527	480	502	453	389	373	
本店貸借 他行当座 他行借入 外為保証 外為取組		4	7	20	△ 3	1	4	△ 4	15	5	8	40	
		3	2	2	5	5	3	1		2		1	
					△ 6								
					77	213	104	284	△ 80	△ 12	△ 25	△ 21	△ 30
紐育支店	輸出	939	1,579		1,698	2,218	1,863	2,069	1,555	2,358	2,685	3,497	
	輸入	389	266		490	1,291	526	399	106	90	31	33	
	外地売買	301	92		37	36	93	80	54	127	246	308	
	計	1,629	1,937		2,225	3,545	2,482	2,547	1,715	2,575	2,962	3,838	
本店貸借 他行当座 他行借入 外為保証 外為取組		35	△ 109	148	7	△ 95	△ 124	△ 32	△ 63	△ 2	△ 74	△ 10	
		16	22	4		5	3	1		5	2	22	
									△ 107		△ 10		
					489	1,296	487	1,941	△ 92	△ 525	△ 308	△ 232	△ 895

桑港出張員	輸出	37	37		60	68	93	88	99	63	81	50
	輸入	67	20		44	179	143	201	173	307	267	329
	外地売買	69	16		7	23	36	78	102	56	76	82
	計	172	73		111	270	272	367	374	426	424	461
	他行当座 外為保証	1	1			1	△ 16	3 △ 31	1 △ 36	6 △ 36	4 △ 12	9 △ 30
瓜哇出張所	輸出	14	25		9							
	輸入	169	104		99							
	外地売買	100	73		126							
	計	283	202		233							
	本店貸借 他行当座 外為取組	3 △ 1	△ 3 △ 2	△ 4	△ 70 18							
安東県出張員	輸出	7	15		18	9	15	6	2	1	2	
	輸入	15	18		27	28	34	26	11	3	3	
	外地売買	18	4		26	34	28	18	47	62	69	
	計	40	38		71	71	77	50	59	66	73	
	本店貸借 他行当座 外為取組	△ 24 10	△ 13 2	△ 10 2	△ 10		△ 9 1		11	△ 10	△ 11	△ 14
福州 "	輸出	6	4		5	1	2	10	2	2	4	2
	輸入	1			8	7	5	10	17	14	4	9
	外地売買	25	13		27	19	19	30	27	22	22	22
	計	32	17		39	26	27	50	47	37	30	33
	本店貸借	△ 9										
仙頭 "	輸出	9										
	外地売買 計	32 41										
甲谷他 "	輸出	27										
	輸入	4										
	外地売買 計	86 117										
	本店貸借	△ 5										
盤谷 "	輸出	4	8									
	輸入	2	3									
	外地売買	3	0.2									
	計	9	11									
	本店貸借	△ 5	△ 2									
漢口出張所	輸出	179	186		217	239	209	75	138	149	245	198
	輸入	117	103		185	165	182	32	99	26	208	29
	外地売買	28	166		212	140	198	98	222	154	198	171
	計	323	455		614	544	588	204	458	329	650	398
	本店貸借 他行当座 他行借入 外為保証 外為取組	△ 87 7	△ 79	△ 74 3 △ 15	△ 126 △ 8	△ 135 △ 23		△ 207 △ 71 △ 28	△ 143 1 △ 171	△ 171 △ 50 △ 60	△ 285 △ 51 △ 63	△ 205 △ 64 △ 49
大連 "	輸出	40	71		61	68	36	25	61	62	98	90
	輸入								234	960	339	728
	外地売買	38	44		379	347	326	258	1,055	1,432	653	1,554
	計	78	115		439	415	361	283	1,349	2,454	1,090	2,372
	本店貸借 他行当座 他行借入 外為保証 外為取組		△ 28 24	△ 7 △ 3	△ 61 3	△ 3 2	26 1	16 1	52 2 △ 164 △ 197	△ 74 14 △ 62 △ 292	△ 16 4 △ 82 △ 305	△ 149 8 △ 131 △ 448
里昂	輸出				255	192	288	323	336	348	647	
	本店貸借 他行当座 外為保証								54 6 △ 227	57 4 △ 187	60 4 △ 312	9 26 △ 381
斯土寧	輸出				6		34	50	32	7	60	51
	輸入				11		3	43	36	59	45	93
	外地売買							0.4	0.1			7
	計				17		37	94	68	66	105	151
	外為取組				13	6		45				

外地店部計	輸出	3,172	4,454		5,385	6,206	6,217	4,058	3,151	3,994	4,345	5,409
	輸入	1,815	2,060		3,112	6,507	3,948	3,728	2,491	3,626	2,715	3,056
	内地売買	486	288		664	646	695	308	551	412	638	600
	外地売買	1,765	2,083		2,689	2,327	3,294	3,714	2,625	3,009	2,309	3,808
	計	7,234	8,885		11,847	15,685	14,153	11,806	8,814	11,046	10,004	12,873
	本店貸借	△ 498	△ 715	△ 481	△ 904	△ 1,050	△ 624	△ 935	△ 754	△ 782	△ 568	△ 921
	他行当座	91	84	202	50	99	110	23	87	71	66	200
	他行借入			△ 378	△ 336	△ 321	△ 315	△ 618	△ 674	△ 406	△ 737	△ 1,063
	外為保証						△ 2,490	△ 2,621	△ 2,966	△ 3,810	△ 4,560	△ 5,781
	外為取組				3,147	4,908	2,869	6,484	4,338	7,062	4,548	4,800
内外地合計	輸出	6,435	7,407		9,497	10,923	9,183	9,588	10,265	11,430	12,364	13,226
	輸入	5,738	5,334		7,510	12,887	9,057	12,416	10,373	15,509	12,864	16,771
	内地売買	2,081	2,411		3,381	3,056	3,966	3,482	4,414	3,519	4,355	4,616
	外地売買	2,780	2,808		3,485	2,459	3,424	5,185	4,854	5,037	4,663	6,066
	計	17,028	17,958		23,868	29,355	25,630	30,666	29,936	35,502	34,243	40,686
	本店貸借	△ 1,626	△ 1,505	△ 935	△ 1,116	△ 1,552	△ 1,807	△ 1,991	△ 1,785	△ 2,093	△ 2,176	△ 2,122
	三井当座	4	20	37	18	53	36	64	27	18	32	34
	他行当座	△ 10	64	204	56	103	133	26	86	74	78	199
	三井借入			△ 110	△ 89	△ 199	△ 34	△ 130	△ 23	△ 73	△ 37	△ 78
	他行借入			△ 916	△ 425	△ 520	△ 547	△ 994	△ 935	△ 564	△ 844	△ 1,224
三井割引						△ 71	△ 201	△ 143	△ 152	△ 158	△ 308	
他行割引						△ 455	△ 281	△ 480	△ 287	△ 585	△ 562	
外為保証						△ 3,213	△ 5,188	△ 4,013	△ 6,363	△ 5,826	△ 7,930	
外為取組				6,477	8,976	6,965	11,732	9,810	12,386	11,177	11,487	

〔備考〕第5表と同様。

いがある。外地売買もかなりの比重となっているのは、上記の中で満州営業部、上海、香港、孟買、漢口、大連、瓜哇などである。

取扱規模が半期 1,000 万円を超えるのは、倫敦、紐育がほぼ全期間、牛莊(1 期のみ)、満州営業部(3 期)、上海(5 期)、孟買(2 期)、大連(4 期)で、内地店部よりもかなり少ない。多額だったのは紐育の 3,838 万円(3 年上期)、3,545 万円(44/上)、満州営業部の 3,132 万円(45/上)、2,000 万台に達した上海(44/上)、大連(大 2/上、3/上)がそれに次ぐ。

外地支店全体の取扱高は 41 年上期の 7,233 万円から 44 年上期 1.6 億円へと増加するが、以後減少して 45 年下期には 8,814 万円となり、大正 3 年上期に 1.3 億円まで回復するという経過である。外地支店全体は増加して、44 年上下では内地支店全体より多額となったが、以後内地支店全体の増加とは対照的に低迷し、大きな格差が生じている。支店別には、紐育、桑港、里昂、大連、台北の膨張に対して、横這い程度の支店が多く、43、44 年の活況の後、落ち込む支店(上海、天津、孟買、倫敦など)のように推移はまちまちである。

- (1) 「事業報告」では店部別に営業規模を示す資料は限られており、総取扱高が適当と判断される。全期間にわたって記載が継続されているわけではない。時期によって「販売結了高」や「決済高」の表示であったりするが、内容的には同一と判断されるものを、本稿では連結して使用している。

2) 支店の金融

(1) 本支店貸借

明治 40 年代から第一次大戦前までの時期、本部は各期末 2,000 万円前後の資金を擁し、内地、外地多くの店部に資金を与えている。第 7 表は内地店部の本支店貸借の推移であるが、毎期本店借となっているのは機械部、札幌(のち小樽)、海軍掛、一時期の石炭支部であり、ほと

んどの期で「借」となっているのは営業部、横浜、名古屋、門司、長崎である。しかも営業部、機械部、札幌は特に多額である。札幌には他店と異なる事情が含まれていた⁽¹⁾。常に本店貸は船舶部、ほとんどの期で「貸」は神戸のみで、概して少額である。大阪は貸借が期によって変化している。この時期だけ店部に並んで三井鉱山にも貸付があったことが知られる。

第 8 表は外地支店の本支店貸借の推移であるが、每期本店借は天津、上海、漢口、馬尼刺、桑港、一時期の満州営業部、ほとんどの期が台南、京城、安東県、孟買であり、多額の本店借は上海、漢口ぐらいで、多くの支店は比較的少額である。逆にほとんどの期で本店貸は台北、一時期の里昂のみで、台北はやや多額の時もあるが、里昂は少額である。香港、大連、新嘉坡、漢堡、倫敦、紐育は期によって貸借が変化している。

第 7 表、第 8 表を比較して本店への依存は明治 43 / 上 ~ 44 上 / だけ外地支店の方が多いが、他の期では内地店部の方が大きい。因みにのちに見る大 3 / 下 ~ 7 / 上における外地支店へ多額の援助とは様相を異にしている。

店部の本店資金への依存は、現地銀行等への依存の能否ばかりでなく、本店の決める貸借金利水準によっても規定される。本店が金融情勢を予測し、手許資金に不安がある時は、店部の現地調達を勧め、店部に余裕金があれば本店への回金を求めるが、通常時は店部の希望次第で多額の援助に応じている。もちろん営業推進への金融支援である。他方、店部は、現地銀行からの調達金利と本店からの借入金利を勧告し、低利の方を選ぶし、余剰資金があれば現地銀行へ預金するよりも本店に回金してより多くの金利を得ようとする。本店は金融情勢をみてこまめに本支店貸借での適用金利を動かしていたのである⁽²⁾。したがって本支店資金貸借は、その時々々の金融環境、店部の調達努力、本店現地間の金利水準の差などによって揺れ動いているのが実態である。

- (1) 明治 40 年の支店長諮問会における会長渡邊専務理事の資金融通高の説明の中で、1,800 万円ないし 2,000 万円という巨額の融通高の約半額は上海支店と札幌出張所が占めているという。札幌は 400 ~ 500 万円の多額にのぼり、すべて木材仕入資金であり、「毎年秋ノ末ヨリ翌年 3、4 月ノ頃迄ハ単ニ買入一方ニテ、買入レタルモノハ之ヲ積ミ置クノ外ナキ有様ナレハ、木材商売ヲ継続シ行ク以上ハ常ニ融通ヲ与ヘサルヘカラサルナリ」ト説明されている。この事情が 41 年以降も不変のため本店借が高水準で続いているわけである(「明治 40 年支店長諮問会議事録」4 頁)。
- (2) その改定振りは、拙著『戦前期三井物産の財務』308 頁以下を参照。

(2) 当座預金

店部での営業資金調達の一つとして当座借越がある。もともと支店が銀行に当座預金を開設していなければ当座借越も起こり得ないが、営業上の資金出入りが期末に当座預金残高となることも、借越残高となることもあり得よう。第 9 表は内地支店における当座預金の期末残高の推移であるが、三井銀行分と三井銀行以外(他行)分に分けて表示している。判明するのは明 41

第7表 内地支店の本店貸借(明41/下~大3/上)

(単位:万円)

店部名	明41/下	42/下	43/上	43/下	44/上	44/下	45/上	45/下	大2/上	2/下	3/上
本部	1,907	1,847	1,412	1,652	1,436	1,929	2,166	2,041	2,059	2,216	2,337
営業部	△ 101	93	△ 36	△ 63	△ 157	△ 211	55	△ 182	△ 298	△ 499	△ 580
機械部	△ 275	△ 212	△ 111	△ 71	△ 118	△ 171	△ 250	△ 228	△ 200	△ 304	△ 211
海軍掛	△ 27	△ 31	△ 42	△ 19	△ 24	△ 29	△ 10		△ 14		
石炭支部										△ 120	△ 101
札幌出	△ 560	△ 454									
小樽			△ 249	△ 197	△ 272	△ 318	△ 468	△ 418	△ 376	△ 188	△ 362
横浜船積所	7										
横浜	△ 1	△ 25	△ 67	△ 71	△ 23	△ 38	6	△ 7	△ 1	△ 15	5
名古屋	31	△ 54	△ 50	△ 33		△ 39	△ 49		36	△ 21	△ 186
大阪	△ 151	24	145	194	33	△ 137	△ 12	△ 103	△ 292	△ 325	404
神戸	10	36	4	51	236	71	14	133	23	△ 7	△ 45
米穀肥料部	42	△ 30	△ 61								
船舶部	29	29	35	34	26	30	41	49	31	91	74
門司	△ 137	△ 173	△ 16	△ 26	△ 13	△ 107	△ 132	△ 114	24	△ 5	△ 9
口ノ津	2										
長崎	3	5	△ 6	△ 11	△ 28	△ 12			△ 4	△ 6	△ 15
三池		2									
鉱山会社					△ 162	△ 222	△ 251	△ 161	△ 240	△ 209	△ 175
内地各店小計	△ 1,128	△ 790	△ 454	△ 212	△ 502	△ 1,183	△ 1,056	△ 1,031	△ 1,311	△ 1,608	△ 1,201

〔備考〕三井物産の各期「事業報告」(43/上期から「事業報告書」)の金融表から計算の上作成。以下、第8~15表も同様。
店部名での「出」は出張所を示す。△印は本店借。

第8表 外地支店の本店貸借(明41/下~大3/上)

(単位:万円)

支店名	明41/下	42/下	43/上	43/下	44/上	44/下	45/上	45/下	大2/上	2/下	3/上
台北	4	79	210	261	237	71	56	53	148		△ 78
台南出	△ 84	△ 78	△ 73	△ 90	△ 146	△ 26	△ 15	△ 86	△ 208	200	
京城出	10	2	△ 19	△ 3	△ 19	△ 48	△ 61	△ 58	△ 142	△ 165	△ 181
安東県出張員	△ 24	△ 13	△ 10	△ 10		△ 9		11	△ 10	△ 11	△ 14
大連出		△ 28	△ 7	△ 61	△ 3	26	16	52	△ 74	△ 16	△ 149
牛莊出	△ 10	26		△ 94							
滿州營業部					△ 234	△ 60	△ 92				
天津	△ 60	△ 47	△ 80	△ 50	△ 41	△ 70	△ 80	△ 30	△ 24	△ 40	△ 30
上海	△ 184	△ 305	△ 602	△ 645	△ 440	△ 275	△ 356	△ 542	△ 453	△ 278	△ 264
漢口出	△ 87	△ 79	△ 74	△ 126	△ 135		△ 207	△ 143	△ 171	△ 285	△ 205
福州出張員	△ 9										
廈門出張員	△ 14										
香港	24	△ 3	△ 12	△ 10	△ 12	△ 9	△ 9	62	20	△ 6	30
広東出	△ 10										
馬尼刺出	△ 16	△ 10	△ 8	△ 6		△ 19		△ 24	△ 11	△ 19	△ 20
盤谷出張員	△ 5	△ 2									
新嘉坡	△ 7	△ 3	△ 9			△ 17			39	8	△ 4
瓜哇出	3	△ 3	△ 4	△ 70							
孟買	△ 9	4	△ 50	17	△ 83	△ 67	△ 130	△ 55	△ 57	△ 46	△ 154
甲谷他	△ 5										
漢堡出	4	7	20	△ 3	1	4	△ 4	15	5	8	40
倫敦	△ 50	△ 148	225	△ 20	△ 79	3	△ 5	11	102	98	141
里昂								54	57	60	9
紐育	35	△ 109	148	7	△ 95	△ 124	△ 32	△ 63	△ 2	△ 74	△ 10
桑港出	△ 4	△ 5	△ 2	△ 1	△ 1	△ 4	△ 16	△ 11	△ 1	△ 2	△ 32
海外各店小計	△ 498	△ 715	△ 481	△ 904	△ 1,050	△ 624	△ 935	△ 754	△ 782	△ 568	△ 921
本店合計	281	342	477	536	△ 116	122	175	244	△ 37	40	215

第9表 内地支店の当座預金（明41/下～大3/上）

（単位：万円）

店部名(銀行)	明41/下	42/下	43/上	43/下	44/上	44/下	45/上	45/下	大2/上	2/下	3/上
本部(三井)	13	80	65	4	32	75	52	59	49	11	48
(他行)	17	4	15	21	12	19	61	74	22	131	30
札幌(他行)	2										
小樽(三井)								1			
(他行)							1				1
横浜(三井)		1	4		1						1
(他行)	△ 62	△ 33									2
横浜船積所	2										
(他行)	1										
名古屋(三井)		1	3	1	1						
(他行)	1	3		1	4		1		3	3	3
大阪(三井)	1	14	32	2	36	28	54	34		28	30
(他行)	△ 7					16					
神戸(三井)	3	4	3	15	14	4	10	△ 8	13		1
(他行)	△ 13	6		5		7				6	△ 8
門司(三井)			△ 7		1	4					2
(他行)	△ 19	1								2	1
長崎(三井)			2						5	4	
(他行)		1	2				1	△ 1		1	
若松(他行)	1										
唐津(〃)	△ 4										
三池(〃)		2									
内地各店小計	△ 94	0	39	24	57	59	67	26	21	44	33

／上から大3/上までの5年半であるが、内地支店のすべてが当座預金を開設しているわけではないようである。たとえば明治44年下期で、営業がありながら機械部、海軍掛は当座がなかったようであり、大正2年下期でも棉花部、機械部、石炭部、砂糖部、木材部、海軍掛にはなかったようである。多くの部と海軍掛に当座がないのは、本部の当座が代行しているためであろう(棉花部は大阪支店が代行)。第9表に登場する各店でも、全期間当座があるのは本部、大阪、神戸、名古屋だけで^①、多くの支店で当座が現れていないのは、期末残高が万円以下のため計上されていないためではなからうか。ただし組織上の改廃で、札幌は小樽に引き継がれ、横浜船積所、若松、唐津は消滅しているので当座もなくなっているはずである。

三井銀行に当座があるのは、本部、小樽、横浜、横浜船積所、名古屋、大阪、神戸、門司、長崎で、他行にも当座を持っている。他行だけに当座があるのは札幌、若松、唐津、三池であった。当座残高は本店、大阪が数十万円規模であるが、他店は数万円程度が多い。肝腎の当座借越の発生は横浜(他行で41/下62万円、42/下33万円)、大阪(他行で41/下7万円)、神戸(三井で45/下8万円、他行で41/下13万円、大3/上8万円)、門司(三井で43/上7万円、他行で41/下19万円)、長崎(他行で45/下1万円)、唐津(他行で41/下4万円)だけであって、何れも散発的であり、横浜以外は少額であった。総て期末の残高であり、期中にどれだけ借越が発生しているか窺い知ることは出来ない。いずれにせよ当座借越が資金調達上、重要な役割

を果たしていたとは云いがたい。

外地支店について同様に第10表でみると、三井銀行現地支店には当座を開設してはならず、すべて現地銀行である。たとえば明治44年下期では営業がありながら当座開設がないのは斯土寧、福州両店だけで、ほとんどの支店が当座を持っている。大正2年下期で見ても、ないのは同じく斯土寧、福州で変わらない。同表でも空欄が多数見られるが、当座が解約されたのではなく、残高が1万円未満のために表示されていないのであろう。ただし牛荘を継承した満州営業部、瓜哇は組織上の消滅である。

外地支店のうち当座残高が多いのは上海、倫敦で、100万円を超えるときもあり、時に100万円超は台北、京城、大連、馬尼刺、瓜哇、孟買、里昂、紐育であった。全期間当座があるのは天津、上海、ほとんどの期であるのは台北、京城、大連、香港、孟買、漢堡、倫敦、紐育の多きを数え、外地支店の大部分が当座を有していたことを示している。

当座借越が発生したのは22店のうち13店あり、每期借越の香港を別とすれば、多くは散発的に発生し、金額も上海で発生した62万円以外は概して少額の借越である。外地支店でも資金調達の観点からは内地支店と同様大きな役割を果たしてはいない。

- (1) 大阪、神戸、名古屋に空欄があるのは、その時当座預金が解約されたわけではなく、万円以下の残高のため表示されていないからであろう。実態は全期間当座預金が続いていると推測される。

第10表 外地支店の当座預金（明41／下～大3／上）

(単位:万円)

(他行のみ)	明41/下	42/下	43/上	43/下	44/上	44/下	45/上	45/下	大2/上	2/下	3/上
台北		4	7	4	5	4	2	11	22		10
台南出	△ 1	1	△ 1		△ 1					6	
京城出	△ 1	38	16	1	2		4	3	△ 3	△ 3	△ 2
安東県出	10	2	2			1					
大連出		24	△ 3	3	2	1	1	2	14	4	8
牛荘出	△ 2	△ 5	△ 6	1							
満州営業部					△ 2	△ 10					
天津	5	3	4	1	2	3	4	3	2	3	3
上海	35	△ 62	141	7	37	32	4	30	11	38	18
漢口出	7		3	△ 8				1			
廈門	1										
香港	△ 1	△ 1	△ 1		△ 2	△ 10	△ 3		△ 29	△ 15	△ 23
広東	1										
馬尼刺出	△ 9	△ 2		12					△ 7		
新嘉坡	△ 3		△ 1	3							
瓜哇出	△ 1	△ 2		18							
孟買	7	△ 19	2	3	4	43	4		2	2	8
漢堡出	3	2	2	5	5	3	1		2		1
倫敦	24	78	33		41	40	2	30	42	29	120
里昂								6	4		26
紐育	16	22	4		5	3	1		5	△ 2	22
桑港出	1	1			1		3	1	6	4	9
海外各店小計	91	84	202	50	99	110	23	87	71	66	200
本支店合計	8	68	219	77	115	152	87	160	93	206	226

(3) 借入金

支店での借入金では、株式会社に改組した明治 43 年上期以降について、三井銀行分と他行分とが判明する。第 11 表では三井銀行からの借入が 7 店部でみられ、大阪で每期借入残高があり、小樽で 7 期、横浜で 5 期、名古屋で 4 期に借入残高がみられる。50 万円以上の残高は、営業部の 45/上 100 万円、43/下 70 万円をはじめ、大阪の大 2/上 60 万円、3/上 64 万円、神戸の 44/上 61 万円、横浜の 44/上 50 万円であって、時期はまちまちである。内地各店の三井銀行からの借入合計は、44/上 199 万円が最多であり、45/上 130 万円、43/上 110 万円など明治 43~45 年がやや多いものの、以後は 20~80 万円と変化している。上期に多く、下期に少ないという特徴もある。なお外地支店では三井銀行からの借入は皆無であった。

第 11 表 三井銀行からの借入金 (明 43/上~大 3/上)

(単位・万円)

店部名	明43/上	43/下	44/上	44/下	45/上	45/下	大2/上	2/下	3/上
本部	180	20	60		100	50			
営業部		70			100				
小樽	30	3	47	25	8	9	3		
横浜			50			6	10	23	14
名古屋	32	6	11	3					
大阪	8	10	30	6	22	8	60	14	64
神戸			61						
米穀肥料部	40								
内地各店小計	110	89	199	34	130	23	73	37	78
本部・内地計	290	109	259	34	230	73	73	37	78

次に、三井銀行以外からの借入は第 12 表のごとくである。内地では 8 店部に他行借入があり、横浜、大阪で全期間、営業部と神戸で 7 期、名古屋で 5 期借入残高があった。期末で 50 万円以上の借入残高は数多く見られ、100 万円超は大阪で 6 期、横浜で 2 期、神戸で 1 期あり、三井銀行より他行借入が多額である。ただ残念ながら借入先は不詳のままである。

外地支店では 11 店部に他行からの借入残高があり、台北がほぼ全期間、孟買が 7 期、台南、上海、香港、漢口が 6 期に借入残高が発生している。期末で 50 万円以上の借入残高はここでも数多く見出され、100 万円超は台北で 7 期、上海で 3 期、台南、大連、孟買で 2 期、満州営業部、紐育で 1 期という具合で、外地支店でも三井銀行以上に多く依存していたのである。そして三井銀行とは逆に他行依存は 45 年以降大正 3 年に向かって高まっていった。すなわち、43~44 年は海外支店合計で 300 万円台の借入残高であったが、以後 600 万円台から 3/上期には 1,000 万円に膨張している。個別には、台北だけは 43~44 年に多額の借入があり、以後減少したが、台南、上海、孟買など 45 年以降他行依存を強めたのである。

第12表 三井銀行以外からの借入金（明43/上～大3/上）

（単位：万円）

店部名	明43/上	下	44/上	下	45/上	下	大2/上	下	3/上
本部	175	65	20	105	145	20	20		
営業部	80	10	75	10		3	2		1
小樽							4	12	10
横浜	119	348	88	43	62	76	82	42	58
名古屋	9	27	38	6	22				
大阪	206	408	220	110	246	108	50	39	82
神戸	31	86	194	63	46	64	7		
米穀肥料部	93								
長崎						10	13	14	10
内地各店小計	538	879	615	232	376	261	158	107	161
台北	325	330	273	170	154	110	50		125
台南出			8	72	166	58	17	323	
京城出							7	18	
大連出						164	62	82	131
満州営業部				61	176				
上海				12	79	132	65	130	263
漢口出	15		23			71	50	51	64
香港	13				10	20	3	31	30
孟買	25		17		33	12	152	92	450
漢堡出		6							
紐育						107		10	
海外各店小計	378	336	321	315	618	674	406	737	1,063
合計	1,091	1,280	956	652	1,139	955	584	844	1,224

（4）割引手形

支店での手形割引は、外地支店では一切なく、内地支店に限られている。三井銀行での手形割引残高は第13表のごとくであるが、8店部に限られ、しかも44/下期から大3/上期についてである。44/下では大阪支店だけであるが、45/上期以降営業部、機械部、神戸、門司が加わり、さらに大2/下以降石炭支部、長崎、名古屋が少額ながら登場する。大阪は一貫して割引が続き、数十万円程度、最多106万円におよび8店部中利用度が高い。営業部も45/上以降割引が続き、最多95万円であり、大阪と並んで割引が多い。両店部で三井銀行での割引の6～7割を占めるほどである。何れの店部も割引残高は期によってかなり変動し、8店部合計の三井銀行依存は143～308万円の間で変動している。

他行での手形割引も、第14表のごとく同じ8店部であり、44/下期以降、営業部、機械部、大阪が一貫して割引をしており、しかも各期の割引残高は三井銀行よりも遙かに多額である。営業部・大阪はほぼ毎期100万円以上の割引残高であり、営業部は最多286万円、大阪は265万円という具合である。8店部合計の他行依存は281～585万円の間で変動しているが、三井

第 13 表 三井銀行の手形割引（明 44／下～大 3／上）

（単位：万円）

店部名	明44/下	45/上	45/下	大2/上	2/下	3/上
本部		40	15			
営業部		63	21	38	52	95
機械部		17	3		12	70
石炭支部					2	2
名古屋						24
大阪	71	55	83	85	22	106
神戸		66		17	49	
門司			36	12	14	10
長崎					7	1
内地各店計	71	201	143	152	158	308

第 14 表 三井銀行以外の手形割引（明 44／下～大 3／上）

（単位：万円）

店部名	明44/下	45/上	45/下	大2/上	2/下	3/上
本部			3		5	
営業部	221	184	279	126	286	187
機械部	79	44	71	6	44	41
石炭支部					11	17
名古屋		2		3	88	52
大阪	142	51	109	147	150	265
神戸						
門司	13		18	5	1	
長崎			3			
内地各店計	455	281	480	287	585	562

銀行依存の2倍である。8店部の多くが三井銀行割引と他行割引を併用していることもわかる。ただ、ここでも他行がどこであるか不明のままである。

（5）外国為替手形支払承諾

「事業報告」の「金融表」では、明治 44 下期から当座貸借、諸借入金、本支店貸借、割引手形と並んで外国為替手形保証高(支払承諾高)が掲載されるようになる。各店部別に保証高は掲載されるものの、保証した銀行等は明らかにされていない。それが分かるのは後述の大正 3 年下期以降のことである。外国為替手形支払承諾も店部の貿易取引における銀行等の信用供与に他ならないから、どれだけ店部が利用しているかは考察の対象としなければなるまい。第 15 表は内地支店、外地支店に分けて支払承諾高の推移を整理したものである。

第15表 外国為替手形支払承諾（明44/下～大3/上）

（単位：万円）

店部名	明44/下	45/上	下	大2/上	下	3/上
営業部	223	184	424	395	353	297
機械部	174	94	142	205	143	169
名古屋	1					
大阪	144	1,170	240	1,380	463	880
神戸	173	1,105	233	571	298	594
門司	1	2				
長崎	7	12	8	7	9	9
内地各店計	723	2,567	1,047	2,553	1,266	1,949
台北	13	9	10	34	27	16
京城出	86	46	84	47	92	33
満州営業部	277	341				
大連出			197	292	305	448
上海	199	244	303	485	414	359
漢口出			28	60	63	49
香港	7	30	121	186	108	194
新嘉坡	18			65		
孟買	10	21	24	39	53	53
漢堡出	80	12	25	21	30	58
倫敦	1,638	1,795	1,386	2,050	2,912	3,265
里昂			227	187	312	381
紐育	156	92	525	308	232	895
桑港出	16	31	36	36	12	30
海外各店計	2,490	2,621	2,966	3,810	4,560	5,781
合計	3,213	5,188	4,013	6,363	5,826	7,730

内地では6店部が登場するが、大阪を筆頭に、神戸、営業部、機械部の順に支払承諾高が大きく、大阪、神戸両店が内地店部合計の大部分を占め、かつ上期に多く下期に少ないという季節変動があったようである。名古屋、長崎、門司はわずかである。門司以外の5店部は每期残高があり、かつ期によって残高は大きく変動している。内地店部合計でも723万円から2,567万円の間で大きく上下している。

外地支店では14店を数えるが、そのうち9店は每期残高があり、外地支店の合計額は每期増加し、44/下期2,490万円は大3/上期には5,781万円へと2.3倍になり、内地店部とは異なった傾向である。倫敦が外地店合計の過半を占めて際立つており(1,638→3,265万円)、紐育、上海、満州営業部・大連、里昂が多額で、香港がそれに次ぐが、台北、京城、漢口、新嘉坡、孟買、漢堡、桑港は少額である。倫敦をはじめ多くの支店が増加の趨勢にある。

(6) 外国荷為替取組高

「事業報告」では、明治 43 年下期から外国荷為替取組高が店部別、銀行別に記載されるようになる。ただ、明 43/下～44/下の 3 期間では重要商品に限定されており、全体像ではないため、時系列で考察するには対象が異なることを念頭に置く必要がある。

まず、外国荷為替をいかなる銀行に依存したか概要をみよう(第 16 表参照)。

第 1 に、正金への依存が断然大きく、每期、取組高全体の過半を超えるほどである(2,900 万円～7,600 万円の幅で増減)。物産にとって常に大きな味方であった。香上がそれに次いで大きく(每期 1,000 万円台)、每期全体の 1～2 割の比重である。渣打、インターも香上と並んで明治期でも長い付き合いであるが、取組でもある程度の比重を見せている。

第 2 に、独亞、台湾、和蘭、露亞、韓国、最後に三井のように新規の銀行への依存がある。特に台湾の増加が著しく、三井も多額で登場した。クレジットハウスへも依存しており、45 年上、下期では 1,000 万円前後であった。

第 3 に、社内為替にも注目しなければならない⁽¹⁾。43/下～45/下では 1,000 万円を超えるほどで、銀行での取組不足を補完していたようである。また、本部の資金が余剰の場合に、支店の社内為替利用を促した時もある。

第 16 表 外国荷為替取組高銀行別 (明 43/下～大 3/上)

(単位:万円)

銀行名	明43/下	44/上	下	45/上	下	大2/上	下	3/上
正金	2,902	4,966	4,191	5,996	4,931	7,648	6,436	6,818
香上	1,316	1,299	1,180	2,000	1,337	1,594	1,674	1,574
渣打	217	405	337	308	376	304	341	617
独亞	100	361	200	272	211	312	146	195
宝通	270	309	215	101	19	291	263	356
台湾		79	149	411	352	742	614	399
和蘭		72	21	4	15	18	15	4
露亞		46	12	47	70	25	1	26
韓国		130	103	175	135	110	112	139
三井								651
クレジット		72	77	1,254	922	311	457	55
その他	586	25	20	78	380	393	573	378
社内	1,080	1,212	460	1,086	1,062	638	545	275
計	6,472	8,976	6,965	11,732	9,810	12,386	11,177	11,487

- 〔備考〕 1. 三井物産の各期「事業報告書」の「外国荷為替取組高表」より計算の上作成。
 2. 43/下～44/下は重要店のみ、それ以降は全店なので、連続していないことに要注意。「社内」は社内為替を指す。
 3. 第 17, 18 表も同様。

それでは、内地支店での外国荷為替取組状況を店部別、銀行別に整理すれば第 17 表のようである。取組高の多いのは横浜を筆頭に大阪、神戸で、1,000 万円の残高を超える期も多くみられる。営業部、小樽、長崎、三池は少額で、名古屋、門司、口之津は一時的で取るに足りないほどである。横浜を筆頭に営業部、小樽、神戸、長崎は増加を辿るが、大阪は横這いで傾向を異にしている。

依存した銀行では、正金が横浜、大阪、神戸、営業部、長崎で多く、それ以外の支店を含めて総てで利用されている。古くからの香上、渣打、インターも横浜を主に、営業部、神戸で利用され、少額を含めると香上の利用も広い。台湾は大阪で若干、営業部、神戸で僅かという程度、三井は横浜で若干、営業部と神戸で僅かという程度で、多額になるのはこの後第一次大戦期になってからである。独亜は神戸で一貫してあり、営業部や横浜にもあるが、神戸以外は僅かである。横浜と神戸の露亜も僅かであり、韓国利用が大阪だけにある。社内為替の利用は大阪が大部分を占め、小樽、横浜が若干、営業部、名古屋、門司、長崎、三池は僅かであった。クレジットハウスに依存したのは横浜だけである。

他方、外地支店では第 18 表にみるように、倫敦、紐育、孟買での取組が多く、3 店で外地支店全体の取組高の 5~7 割を占めるほどであった。それに次ぐのが香港、大連、上海、漢口、里昂、さらに満州営業部と瓜哇(両支店は 1 期だけ)、新嘉坡などが若干あり、台北、牛莊、安東県、天津、廈門、広東、馬尼刺、斯士寧はすくない。内地売買主体の台南や京城は登場しない。

銀行依存をみると、前掲の倫敦、紐育、孟買は正金に大きく依存し、次いで上海、香港、漢口、大連、天津、少ないが安東県、天津、広東、新嘉坡など多くの支店が利用している。香上も倫敦、紐育、孟買をはじめ、漢堡、新嘉坡、上海、香港、漢口、瓜哇などに若干あり、少ないが台北、満州営業部、大連、天津、廈門、広東、馬尼刺にもあって、広く利用されている。渣打は孟買と漢堡がほとんど、独亜は倫敦、漢堡、漢口、香港、新嘉坡など、クレジットハウスは倫敦だけといってよい。社内為替の利用はいくつかの支店で見られるが、期末に 100 万円を超えたのは大連、上海、漢口、香港、倫敦、紐育だけで、多くの場合散発的、少額に止まっている。

- (1) 物産における社内為替の利用については藤田幸敏氏の研究があるので、詳しくはそれを参照されたい。『戦前期総合商社の補助業務の実証的研究』(平成 17 年度~平成 18 年度科学研究費補助金(基盤研究(c))研究成果報告書、研究代表者麻島昭一)、「第 2 章第 4 節明治後期から大正までの為替業務」(藤田幸敏担当)

第17表 内地支店の外国荷為替取組高銀行別（明43/下～大3/上）

（単位：万円）

店部名	銀行名	明43/下	44/上	下	45/上	下	大2/上	下	3/上
営業部	正金	22	60	127	188	208	183	118	161
	香上	29	25	20		19	12	7	19
	渣打			81		8	2	22	
	独亞	1	40	44		1	1	5	10
	宝通	26	9						
	台湾			14				36	
	三井								55
	その他	11						52	
	社内						23		
	計	90	134	286	188	236	221	240	245
小樽	正金	2	6	13	5	123	128	184	100
	その他						7	87	107
	社内				18	64	56	140	
	計	2	6	13	23	187	191	411	207
横浜	正金	900	932	945	1,023	1,300	1,650	2,308	2,298
	香上	410	634	579	598	500	296	503	131
	渣打	15	174	145	42	154		43	30
	独亞				81	16	29	40	12
	宝通	169	254	197	73		151	194	248
	露亞		28		30				
	三井								582
	クレジット				1,126	651			
	その他	28				87	155	223	
	社内	201	52	10	20				12
計	1,722	2,074	1,876	2,993	2,708	2,281	3,311	3,313	
名古屋	正金				36	12	23	13	
	その他						6	6	
	社内				12	22			
	計				48	34	28	19	
大阪	正金	124	261	590	373	599	604	610	690
	台湾		6	47	154	249	461	313	78
	韓国		130	103	167	135	110	112	139
	その他	114							
	社内	784	748	352	172	225			
	計	1,022	1,145	1,092	866	1,208	1,175	1,035	907
神戸	正金	145	375	508	798	564	773	608	85
	香上	110	99	118	141	158	134	376	860
	渣打	104	107	37	25	37	3	54	201
	独亞	30	18	52	99	147	44	47	154
	宝通	13	14				89	45	108
	台湾		3			32	42	10	81
	露亞								14
	三井								14
	その他	10						17	
	計	412	616	715	1,063	938	1,085	1,157	1,517

門司	正金	23			1	1	6	3	53
	香上	4							5
	渣打								2
	其の他								8
	社内計	27			2	2	2	4	8
口ノ津	正金	9							
	香上	6							
	計	15							
長崎	正金	19	87	95	26	115	319	303	300
	香上	18	6	19	14	16	16	15	17
	社内				22	18			
	計	37	93	114	62	149	335	318	317
三池	正金					8		56	53
	香上							73	52
	社内							2	
	計							131	105
内地各店計	正金	1,244	1,721	2,278	2,450	2,930	3,686	4,203	3,740
	香上	577	764	736	753	693	458	974	1,084
	渣打	119	281	263	67	199	5	119	233
	独亞	31	58	96	180	164	74	92	176
	宝通	208	277	197	73		240	239	356
	台湾		9	61	154	281	503	359	159
	露亞		28		30				14
	韓国		130	103	167	135	110	112	139
	三井								651
	クレジット				1,126	651			
	其の他	163				87	167	385	115
	社内計	985	800	362	248	332	81	146	20
	計	3,327	4,068	4,096	5,248	5,472	5,324	6,629	6,687

第 18 表 外地支店の外国荷為替取組高銀行別（明 43／下～大 3／上）

（単位：万円）

店部名	銀行名	明43/下	44/上	下	45/上	下	大2/上	下	3/上
台北	香上				33				
	台湾				67	52	1	52	
	社内				25				
	計				125	52	1	52	
安東県	正金				14				
	朝鮮				8				
	其他				2				
	社内						5	9	
計				24		5	9		
満州営業部	正金				205				
	香上				33				
	露亞				4				
	社内				36				
計				278					
牛荘	其他							4	
	社内							126	81
	計							130	81
大連出	正金				27	50	53	357	692
	香上						57		
	露亞					10	19		
	社内				39		186		
	計				66	60	315	357	692
天津	正金				15	39	30	15	8
	香上						7		2
	渣打						1		
	独亞						1	1	1
	露亞						1	1	2
	其他						1		
	社内				17	12			
計				32	51	41	17	13	
上海	正金	55	562	55	154	90	171	316	257
	香上	17			7		35	29	80
	独亞	10							
	台湾							63	51
	其他	1							
	社内				190	159	118		
	計	83	562	55	351	249	324	408	388
漢口出	正金	140	103	98	6	46	103	122	12
	香上	16	36	44	18	27	38	18	5
	渣打	6	5	15	5	18	16	2	4
	独亞	19	40	49	6		12		8
	宝通	17		5					
	露亞		9	12	8	52			3
	其他	31		10	8	70	5	39	
	社内					101	90	74	
計	229	193	233	51	314	264	255	32	

香港	正金	126	74	58	126	95	162	324	221
	香上	4	23	41	16	85	114	40	217
	渣打	4	5	1	1	7	4		2
	独亞	20	34	15		9	31		
	宝通	41	27	12	3	15			
	台湾		70	88	151		174	117	169
	和蘭		7	7				6	
	露亞		9		5	8	5		7
	其他	99			15	93	41		36
	社内				102	104	102	125	
計	295	249	222	420	416	633	612	652	
廈門	香上						6		
	台湾				39	9	26	7	15
	其他					11	79		36
	社内				23		26	6	
	計				62	20	137	13	652
広東	正金				2	9	33	104	101
	香上						3		1
	台湾						7	2	
	其他						4		
	社内						3		
計						50	106	102	
馬尼刺出	社内				11	15			10
	香上						1		6
	宝通							20	
	其他							7	
計				11	15	1	27	16	
新嘉坡	正金				73				
	香上	50	35	17		108	37	96	77
	渣打	1				2	5	8	4
	独亞	5	4	5	13	1	13	18	
	宝通		1	1		4	2		
	台湾					10	31	14	5
	和蘭		29	6	4	15	18	9	4
	其他	32	19	10	7	11	37	18	10
	計	88	88	39	97	151	143	163	100
孟買	正金	408	1,191	603	1,285	631	1,955		1,342
	香上	145	119	20	239	6	157	49	47
	渣打		27		105	63	111	47	231
	其他							17	199
	社内	83	61	86	29	59	27		41
計	636	1,398	709	1,658	759	2,250	113	1,860	
瓜哇	香上	192							
	渣打	55							
	和蘭		36	8					
	其他	123							
計	370	36	8						
斯土寧	其他	13	6						
	社内				45				

漢堡出	香上	43	64	26	62	64	63	44	31
	渣打	32	87	58	130	87	162	165	143
	独亞	2	62	20	5	1	69	3	
	クレジット							5	7
	其他								9
	社内				87			59	84
	計	77	213	104	284	152	294	276	274
倫敦	正金	457	408	643	346	428	548	420	29
	香上	273	224	277	216	296	318	219	24
	独亞	13	163	15	68	36	112	32	10
	クレジット		72	77	128	271	311	452	48
	其他	125				92	26	103	9
	社内				279	280			
	計	867	867	1,012	1,037	1,403	1,315	1,226	120
紐育	正金	472	907	456	1,293	613	907	575	416
	香上		34	19	623	58	300	205	
	宝通	4	4		25		49	4	
	其他					16	33		
	社内	12	351	12					
	計	489	1,296	487	1,941	687	1,289	784	416
	海外各店計	正金	1,658	3,245	1,913	3,546	2,001	3,962	2,233
香上		740	535	444	1,247	644	1,136	700	490
渣打		98	124	74	241	177	299	222	384
独亞		69	303	104	92	47	238	54	19
宝通		62	32	18	28	19	51	24	
台湾			70	88	257	71	239	255	240
和蘭			72	21	4	15	18	15	4
露亞			18	12	17	70	25	1	12
朝鮮					8				
クレジット			72	77	128	271	311	457	55
其他		422	25	20	77	293	226	188	263
社内		95	412	98	838	730	557	399	255
計		3,147	4,908	2,869	6,484	4,338	7,062	4,548	4,800

5. 大正3年下期～7年上期の考察

1) 店部別営業活動の推移

支店金融の背景となる営業活動は、第一次大戦期には大きく変貌する。「事業報告」によれば店部別の総取扱高は次のような推移である。

第19表は、内地店部についてである。合計で見ると大正3年下期の22億円は4年には14億円まで縮小するが、5年下期までに22億円まで回復し、以後6年下期には37億円と激増、7年上期には63億円へと大膨張である。その激しい増減は主として棉花本部によるもので、4年の落ち込みは棉花本部に加えて機械部、石炭本部、砂糖部の激減によるもので、6、7年の急

増は棉花本部に加えて、本店営業部、機械部、石炭門司支部、穀肥本部、横浜、名古屋、大阪、神戸、三池、長崎、小樽の各店部でみられ、横這いに止まったのは石炭本部、砂糖部、木材部だけであった。別言すれば大きく増減したのは各部であり、各支店は一貫して増加傾向であったといえる。内地店部合計で見て、落ち込みそして急拡大を遂げたのは輸出、輸入、外地売買であって、内地売買は一貫して増加している。上記の各支店の一貫しての増加傾向は、内地売買の増加を含みつつ、輸出入でも一貫した増加だったのである。

店部によって種類別構成は大きく異なり、必要とする資金調達も当然異なるであろう。内地売買の比重が大きいのは石炭本部、同東京支部、同門司支部、それに近いのが6、7年における名古屋、神戸、門司、三池、長崎である。

他方、外地支店を第20表でみると、合計では大正3年下期の9億円から5年下期まで漸増して約38億円となり、6、7年に一気に55億円前後に膨張している。内地店部のような4年頃の落ち込みはなく、一貫して増加が続いてようである。外地支店は4年下期から続々と出張所を開設、また出張員を派遣し、海外拠点数は3/下期の19から7/上期には43に増えている。増加したのは主として朝鮮、中国、東南アジアである。

巨額の増加は紐育7億円を筆頭に、上海、孟買、香港が4~5億円、甲谷他、大連、倫敦、新嘉坡、天津、桑港、斯土寧が1~2億円という具合で、それ以外の支店など総てが増加しているものの、金額的には小規模である。

輸出入の他に内地売買があるのは、台北、台南、京城、仁川、釜山、群山など朝鮮、台湾所在の店が主であるが、余り多額ではなく、漢口、天津、大連、香港にも僅かある。他の多くの支店等は輸出入および外地売買に限定される。輸出入の規模が大きいのは紐育を筆頭に、孟買、上海、香港、倫敦、大連などであるが、外地売買が大きいのは、紐育を筆頭に、甲谷他、大連、上海、香港、孟買、シアトルなどであって、規模は小さいが新嘉坡、天津、広東、青島、仁川、釜山、群山、唐地も外地売買に比重を置いている。

2) 店部の金融

(1) 本支店貸借

この時期の内地店部、外地支店とも多くが本店からの資金に依存している。総取扱高の推移で見たような営業の急膨張が、多額な本店借を引き起こしているわけである。本店は3/下~5/上では2,000万円前後の資金を擁し、5/下~6/上期には3,000万円台を擁して、支店の資金需要に応えたが、6/下、7/上では本店自体が多額の資金不足となり、船舶部からの回金で助けられたものの、なおも外部借入を余儀なくされている(後述)。

まず内地店部を第21表でみよう。本店借が増加したのは5/下期からの小樽と門司で、6、7

第 19 表 内地店部の総取扱高種類別都金融関係（大 3 / 下 ~ 7 / 上）

（単位：万円）

店部名	科目	大3/下	4/上	4/下	5/上	5/下	6/上	6/下	7/上
本店営業部	輸出	213	162	283	359	561		596	974
	輸入	1,350	825	1,124	1,315	1,971		1,933	1,803
	内地売買	273	316	367	492	645	不明	919	1,205
	外地売買		8	42	5	32			9
	計	1,836	1,309	1,815	2,170	3,209		3,448	3,992
	本支店貸借 三井割引 他行割引 外為取組	△ 145 △ 3 △ 491 231							
機械部	輸出	25	34	50	24	48		103	237
	輸入	1,936	960	157	248	326		740	1,109
	内地売買	72	184	42	45	201	不明	463	406
	外地売買	115	109						
	計	2,148	1,286	249	317	574		1,307	1,752
	本支店貸借 他行割引 外為保証 外為取組	△ 117 △ 21 △ 47				3		2	5
石炭本部	輸出	1,959	1,364	282	375	308		52	48
	輸入	101	99	23	57	46		46	72
	内地売買	1,672	1,703	660	735	802	不明	1,130	1,580
	外地売買	503	369			2		7	25
	計	4,234	3,535	965	1,167	1,157		1,234	1,726
	外為取組							16	
石炭部 東京支部	輸出			113	110	166			
	輸入			5	7	8			
	内地売買			432	512	638	不明		
	外地売買			5	3	4			
	計			555	631	815			
	本支店貸借 外為取組	△ 79			△ 102	35	134	9	
石炭部 門司支部	輸出							476	438
	輸入							44	26
	内地売買 計							1,488 2,008	1,993 2,457
砂糖部	輸出	335	395	307	389	536		583	308
	輸入	573	515	220	398	24		115	233
	内地売買	679	554	269	296	468	不明	429	480
	外地売買	549	966						
	計	2,135	2,429	796	1,082	1,027		1,126	1,021
	外為取組				215	195	410	25	122
木材部	輸出	454	292	194	168	201		85	82
	輸入		41						30
	内地売買	116	104	82	62	122	不明	248	146
	外地売買		2		27	9			
	計	570	438	276	256	332		333	258
穀肥本部	輸出							55	642
	輸入							991	1,923
	内地売買						不明		850
	外地売買							449	2,969
	計							1,496	6,384
	本支店貸借 三井当座 他行当座 外為取組							△ 96	△ 575 △ 43 1 409
穀肥部	輸入								303

東京支部	内地売買計								204
									507
船舶部	本支店貸借	71	105	120				858	1,844
	三井当座							32	7
	他行当座								13
小樽支店	輸出	23	117	76	137	208	不明	425	651
	輸入	24	11	3	0.3	0.4		2	9
	内地売買	59	24	46	56	111		236	329
	計	106	151	126	193	320		662	990
	本支店貸借	△ 181	△ 338	△ 284	△ 202	△ 367	△ 590	△ 607	△ 627
	三井当座					0.5	10	0.2	0.3
	他行当座		1	2		1	8	△ 1	10
	三井借入			△ 25	△ 33	△ 58	△ 21		△ 20
	他行借入		△ 67	△ 69	△ 136	△ 131	△ 170	△ 256	△ 408
	三井割引			△ 3					
他行割引	△ 1		△ 2						
外為保証	△ 5								
外為取組	289	116	73				74	282	
横浜支店	輸出	430	465	596	510	842	不明	1,037	1,600
	輸入	9	31	20	36	13		48	46
	計	438	496	616	547	854		1,085	1,647
	本支店貸借		7	6	△ 43	66		9	80
	三井当座	3	3	2	19	9	2	△ 2	9
	他行当座	2	3	2		3	2	△ 98	△ 200
	三井借入	△ 8	△ 22				△ 17		
	他行借入	△ 52	△ 12			△ 33	△ 37		
	三井割引				△ 100				
	他行割引								
外為保証				△ 5			△ 12	△ 4	
外為取組	2,663	2,006	2,635	502	424	472	6,968	5,966	
名古屋支店	輸出	15	19	93	145	170	不明	319	351
	輸入	163	159	341	416	275		357	359
	内地売買	28	43	331	424	422		745	921
	外地売買				13	4		2	
	計	206	222	765	997	870	1,422	1,631	
	本支店貸借	△ 42	△ 33	△ 55	△ 33	△ 29	△ 51	△ 123	△ 78
	三井当座	2	6	1	2	0.2	2	1	3
	他行当座		8	8		13	20	22	18
	三井借入			△ 5	△ 5	△ 5			△ 15
	他行借入		△ 30	△ 25	△ 10	△ 5	△ 10	△ 25	△ 45
三井割引		△ 31	△ 20	△ 17	△ 9	△ 5	△ 4	△ 1	
他行割引	△ 42	△ 9	△ 3	△ 14	△ 2	△ 3	△ 1	△ 11	
外為保証		△ 19	△ 8	△ 16	△ 2	△ 17	△ 26	△ 130	
外為取組				33		36	141	262	
大阪支店	輸出	383	400	786	712	715	不明	1,255	1,142
	輸入	517	542	799	1,166	1,945		2,140	2,778
	内地売買	293	280	910	1,297	1,344		2,089	2,701
	外地売買			4				12	26
	計	1,193	1,222	2,500	3,175	4,004	5,496	6,647	
	本支店貸借	△ 69	△ 73	△ 142	57	7	58	83	△ 5
	三井当座	44	37	23	11	10	3	16	40
	他行当座	17	4	15	2	4	6	44	34
	三井借入	△ 170	△ 15	△ 7	△ 7			△ 20	
	他行借入	△ 30	△ 90	△ 60	△ 50		△ 30	△ 200	△ 330
三井割引	△ 30	△ 2	△ 27	△ 11	△ 15	△ 6	△ 9	△ 14	
他行割引	△ 332		△ 5	△ 117	△ 100	△ 182	△ 27	△ 114	
外為保証	△ 455	△ 102	△ 134	△ 254	△ 91	△ 165	△ 455	△ 176	
外為取組	863	167	399	399	418	886	976	983	

棉花本部	輸出	2,916	2,885	837	942	1,159		1,705	2,326
	輸入	4,391	3,822	1,770	3,246	3,076		3,619	7,126
	内地売買	478	499	427	699	1,101	不明	5,528	5,709
	外地売買	891	981	0.2	14	20		95	163
	計	8,676	8,186	3,035	4,901	5,356		10,947	15,323
	本支店貸借		△ 128	79	393	△ 167	△ 49	△ 618	△ 900
	三井当座		19	12		12		28	9
	他行当座		3			17	5	89	22
	三井借入			△ 100	△ 125	△ 120	△ 33	△ 30	△ 300
	他行借入		△ 160	△ 330	△ 230	△ 130	△ 284	△ 944	△ 773
三井割引		△ 208	△ 109	△ 3			△ 51	△ 62	
他行割引		△ 233	△ 584	△ 409	△ 286	△ 526	△ 441	△ 602	
外為保証				△ 1,583	△ 526	△ 1,290	△ 1,708	△ 2,608	
外為取組				351	801	1,259	1,929	1,805	
棉花部 東京支部	輸出			164	248	234		281	472
	輸入			1			不明		1
	内地売買			51	75	93		229	250
計			215	324	327		510	723	
棉花部 ダラス支部	輸入								3,653
	外地売買								6,161
計								9,814	
神戸支店	輸出	256	280	486	746	1,058		1,549	1,875
	輸入	340	317	426	652	585		569	838
	内地売買	58	69	235	549	523	不明	2,131	2,939
	外地売買	72	212	150	173	150		62	161
	計	725	879	1,297	2,120	2,316		4,310	5,813
	本支店貸借	43	△ 8	△ 23		461	△ 147	△ 86	24
	三井当座				1	18	21	△ 3	△ 28
	他行当座	3				4	1	0.5	△ 42
	三井借入		△ 2	△ 8	△ 70				
	他行借入			△ 92	△ 205	△ 70	△ 175	△ 440	△ 715
三井割引							△ 15	△ 32	
他行割引	△ 77	△ 3					△ 28		
外為保証	△ 195	△ 501	△ 429	△ 31	△ 210	△ 122	△ 315	△ 256	
外為取組	1,042	1,252	1,395	884	1,689	2,321	3,049	2,708	
門司支店	輸出	5	12	18	31	35		16	1
	輸入	68	55	67	91	122	不明	346	291
	内地売買	92	155	314	278	329		547	814
	計	165	222	399	400	486		909	1,105
	本支店貸借	△ 131	△ 321	△ 369	△ 243	△ 260	△ 397	△ 424	△ 145
	三井当座	1		10				3	11
	他行当座	2	1	7		2	7	22	69
	三井借入			△ 25	△ 2	0	△ 2		
	他行借入		△ 1	△ 34	△ 50				
	三井割引	△ 17	△ 14		△ 14	△ 14	△ 7		
他行割引	△ 25	△ 10	△ 4	△ 3	△ 1	△ 3	△ 6		
外為保証		△ 69	△ 3	△ 5	△ 130	△ 21	△ 5	△ 78	
外為取組	5	11	12		122	185	119	23	
三池支店	輸出	1	1	119	88	101		75	117
	輸入	57	22	42	56	53	不明	115	182
	内地売買	18	31	132	142	114		214	368
	計	76	53	293	286	267		403	667
	本支店貸借		△ 53	△ 44	△ 55	△ 44	△ 26	△ 27	△ 12
	三井当座			1	1	0.3			0.1
他行当座		3	3		3	2	2	1	
三井割引			△ 3	△ 5					
他行割引		△ 7		△ 5	△ 1	△ 1	△ 1	△ 3	
外為取組	52					7	18		

長崎支店	輸出	2	0.1	105	122	120		24	33
	輸入	39	33	35	49	71		112	282
	内地売買	4	21	115	94	140	不明	421	522
	外地売買								1
	計	45	54	255	265	331		556	838
	本支店貸借	△ 196	22	12	△ 4	10	18	25	2
	三井当座	3			1		2	0	
	他行当座		1	1			1	△ 13	△ 4
	三井借入					△ 1			
	他行借入	△ 6	△ 11	△ 5	△ 10	△ 4	△ 3		
三井割引	△ 3								
外為保証	△ 2	△ 8	△ 6		△ 2	△ 3	△ 5	△ 7	
外為取組	239	120	107	128	162	265	214	236	
内地店部計	輸出	7,017	6,426	4,509	5,106	6,462		8,636	11,297
	輸入	9,568	7,432	5,033	7,737	8,515		11,177	21,064
	内地売買	3,842	3,983	4,413	5,756	7,053	不明	16,817	21,417
	外地売買	2,130	2,647	201	235	221		627	9,515
	計	22,557	20,488	14,156	18,834	22,251		37,257	63,293
	本支店貸借	△ 943	△ 820	△ 700	△ 232	△ 325	△ 1,175	△ 936	△ 414
	三井当座	53	65	49	35	49	30	75	7
	他行当座	24	24	38	10	46	53	81	△ 92
	三井借入	△ 183	△ 39	△ 170	△ 242	△ 184	△ 73	△ 50	△ 335
	他行借入	△ 88	△ 371	△ 615	△ 691	△ 373	△ 718	△ 1,885	△ 2,321
	三井割引	△ 53	△ 245	△ 162	△ 150	△ 38	△ 18	△ 79	△ 109
	他行割引	△ 1,202	△ 262	△ 598	△ 548	△ 390	△ 715	△ 543	△ 730
	外為保証	△ 950	△ 1,213	△ 1,071	△ 2,391	△ 1,301	△ 2,088	△ 3,516	△ 4,608
	外為取組	5,284	4,004	5,225	3,043	4,287	6,418	12,284	14,278

〔備考〕1. 三井物産の各期「事業報告書」の「各店総取扱高表」および「金融表」から計算の上作成。

2. 「各店総取引高表」は44/上までであるが、44/下から「社内取引社外取引販売結了高商売別並店別表」大2/下から「商品社内及社外販売結了高商品別店別表」、大4/下から「商品社内及社外販売決算済商売別店別表」が表名は変わっても同一内容を含んでいるので連結してある。

第 20 表 外地支店の総取扱高種類別と金融関係（大 3 / 下 ~ 7 / 上）

（単位：万円）

店部名	科目	大3/下	4/上	4/下	5/上	5/下	6/上	6/下	7/上
台北支店	輸出	267	135	160	304	256		366	344
	輸入	129	154	144	120	224	不明	241	330
	内地売買	43	9	35	41	103		180	244
	計	439	299	339	465	582		787	918
	本支店貸借	197	244	352	294	325	400	564	315
	他行借入	△ 120	△ 170	△ 275	△ 271	△ 248	△ 510	△ 640	△ 445
	他行割引 外為保証 外為取組		△ 3 △ 4	△ 11 △ 13	△ 14 △ 9	△ 14 △ 9	△ 115 △ 44	△ 27 △ 3	△ 5 △ 6
台南支店	輸出			3	4	27		9	16
	輸入	26	139	104	167	29	不明	181	396
	内地売買	119	184	278	333	205		524	575
	計	145	323	384	503	260		714	986
	本支店貸借	△ 161	△ 171	△ 79	△ 33	49	84	21	217
	他行借入				△ 49	△ 85	△ 125	△ 118	△ 119
	他行割引 外為保証 外為取組	△ 3 △ 9	△ 38	△ 41	△ 89 △ 1 109	△ 65 △ 1 87	△ 65 △ 1 240	△ 20 △ 20 227	△ 136 △ 34 158
京城支店	輸出	25	17	3	6	273		123	123
	輸入	119	60	44	33	54	不明	57	80
	内地売買	52	166	168	171	283		381	486
	計	196	243	215	209	609		560	689
	本支店貸借	△ 203	△ 225	△ 231	△ 82	△ 118	△ 86	△ 171	△ 107
	他行借入		△ 2	△ 2	△ 66	△ 103	△ 163		
	他行割引 外為保証	△ 9 △ 68	△ 1 △ 8	△ 19	△ 3 △ 11	△ 17	△ 133	△ 38	
大連支店	輸出	66	410	447	525	761		1,195	1,145
	輸入	399	798	179	499	155	不明	482	716
	内地売買							5	53
	外地売買	787	1,426	729	1,150	1,089		1,779	3,017
	計	1,252	2,634	1,355	2,173	2,005		3,462	4,930
	本支店貸借	△ 278	△ 232	△ 191	△ 192	△ 152	△ 122	262	123
	三井借入 他行借入 外為保証 外為取組	△ 109 △ 306 573	△ 117 △ 270 161	△ 35 △ 400 67	△ 78 △ 300 408	△ 384 △ 361 531	△ 528 △ 309 1,256	△ 763 △ 459 749	△ 849 △ 479 1,536
天津支店	輸出	23	24	377	399	447		675	568
	輸入	15	30	113	110	60	不明	118	68
	内地売買				28	35		113	41
	外地売買	12	59	53	207	189		608	589
	計	50	112	544	743	731		1,513	1,265
	本支店貸借	△ 31	△ 2	△ 32	△ 34	△ 125	△ 19	△ 225	△ 236
	他行借入 外為保証 外為取組	△ 46 21	△ 22 61	△ 39 21	△ 21 50	△ 24 31	△ 4 260	△ 94 150	△ 119 181
上海支店	輸出	134	157	832	1,139	1,270		1,246	1,894
	輸入	123	126	193	388	269	不明	497	876
	内地売買	332	497	1,026	1,767	1,773		2,292	2,838
	計	590	779	2,051	3,294	3,311		4,034	5,608
	本支店貸借	△ 396	△ 338	△ 285	△ 403	△ 434	△ 463	△ 713	△ 767
	三井借入 他行借入 外為保証 外為取組	△ 359 1,649	△ 227 242	△ 5 773	△ 14 747	△ 133 200	△ 135 164	△ 205 436	△ 451 719

漢口支店	輸出	223	42	182	310	378		421	504
	輸入	120	105	424	359	161		391	178
	內地売買						不明	119	49
	外地売買	135	157	195	453	276		566	525
	計	477	304	801	1,122	815		1,497	1,257
	本支店貸借	△ 217	△ 94	△ 116	△ 91	△ 70	△ 48	△ 128	△ 42
香港支店	他行借入		△ 52	△ 91	△ 57	△ 42	△ 67		
	外為保証	△ 45	△ 34	△ 36	△ 18	△ 53	△ 11	△ 63	△ 19
	外為取組	184	189	448	380		268	550	406
	輸出	22	35	471	694	733		1,382	1,717
	輸入	123	117	114	378	253		396	584
	內地売買			7		463	不明	37	8
廈門出張所	外地売買	121	259	402	457			1,387	2,292
	計	266	411	993	1,528	1,448		3,202	4,601
	本支店貸借	△ 39	△ 22	16	47	△ 31	57	△ 89	△ 78
	他行借入	△ 28	△ 41	△ 60	△ 46	△ 51	△ 61	△ 32	△ 32
	他行割引	△ 1	△ 210						
	外為保証	△ 80	△ 65	△ 53	△ 105	△ 15	△ 28	△ 195	△ 464
外為取組	1,128	663	503	815	535	1,386	1,448	2,264	
広東出張所	輸出	10	12	33	46	42		73	98
	輸入	17	42	29	29	17		3	52
	外地売買	23	76	62	81	70	不明	52	70
	計	49	129	124	156	129		128	220
	外為取組	13	42	29	16	10			
馬尼刺出張所	輸出	4	11	23	55	45		134	117
	輸入	1	1	0.3	2	0.1		30	2
	外地売買	65	186	148	236	168	不明	318	224
	計	70	198	171	293	213		482	343
	外為取組	76	178						
新嘉坡支店	輸出	24	14	110	132	113		260	328
	輸入	72	71	109	44	95		229	131
	外地売買	1	2	16	27	36	不明	50	58
	計	97	87	235	203	244		538	516
	本支店貸借	△ 54	△ 42	△ 46	△ 11	△ 42	△ 67	△ 62	△ 61
	他行借入	△ 2		△ 2	△ 2	△ 9	△ 1		
外為保証	△ 2				△ 2				
外為取組	24	44	43	7	44	56	47		
孟買支店	輸出	71	95	230	327	397		612	681
	輸入	63	53	50	94	99		112	186
	外地売買	177	520	276	192	304	不明	430	1,026
	計	311	667	556	613	800		1,154	1,892
	本支店貸借	△ 39	△ 33	△ 64	35	△ 38	△ 8	39	△ 135
	他行借入	△ 17	△ 6					△ 17	
他行割引	△ 2	△ 2		△ 8					
外為保証	△ 32	△ 73	△ 33	△ 55	△ 75	△ 110	△ 76	△ 106	
外為取組	136	175	99	431	395	745	782	792	
倫敦支店	輸出	105	112	301	322	341		564	551
	輸入	82	216	1,225	1,995	1,931		2,612	2,627
	外地売買	73	376	1,007	1,381	1,525	不明	1,846	2,277
	計	261	704	2,533	3,698	3,796		5,023	5,456
	本支店貸借	△ 146	△ 154	△ 112	△ 215	△ 140	△ 456	△ 591	123
	三井借入			△ 22	△ 353	△ 5	△ 504		
他行借入	△ 47	△ 98	△ 67		△ 52	△ 57		△ 207	
外為保証	△ 44	△ 122	△ 317	△ 114	△ 66	△ 262	△ 23	△ 357	
外為取組	16	1,536	1,560		2,375	3,201	3,044	2,728	
倫敦支店	輸出	228	283	588	1,079	1,056		1,304	1,274
	輸入	547	319	873	841	812		609	611
	外地売買	453	564	1,020	734	1,115	不明	1,275	992
	計	1,228	1,166	2,481	2,654	2,983		3,188	2,876
	本支店貸借	△ 12	△ 67	△ 250	△ 369	△ 666	△ 396	△ 222	△ 215
	他行割引	△ 1							
外為保証	△ 2,309	△ 1,830	△ 2,321	△ 1,858	△ 1,601	△ 1,856	△ 2,032	△ 2,790	
外為取組	932	620	970	387	429	420	492	398	

漢堡	本支店貸借	23	14	27	27	27	27	4	4
	他行割引	△ 25							
	外為保証	△ 39							
紐育支店	輸出	3,136	2,502	3,110	4,320	5,396		5,693	6,172
	輸入	44	63	1,140	2,448	1,524	不明	3,029	1,148
	外地売買	316	475	731	4,668	5,148		7,634	2,955
	計	3,496	3,039	4,981	11,437	12,068		16,356	10,275
	本支店貸借	△ 25	91	71	△ 102	△ 498	△ 293	△ 54	△ 1,261
	三井借入					△ 200			△ 701
他行借入	△ 191	△ 209	△ 282	△ 95	△ 810	△ 744	△ 812	△ 1,767	
他行割引		△ 14	△ 109	△ 52	△ 279	△ 217	△ 90	△ 88	
外為保証	△ 592	△ 317	△ 188	△ 1,876	△ 2,024	△ 2,032	△ 3,434	△ 1,040	
外為取組	222	368	654	1,582	1,494	2,164	3,175	2,935	
桑港出張所	輸出	93	112	151	165	259		1,605	152
	輸入	138	22	36	253	130	不明	1,053	883
	外地売買	78	120	167	176	350		1,383	635
	計	309	254	353	594	739		4,041	1,670
	本支店貸借	△ 34	△ 21	△ 15	40	38	7	△ 55	△ 807
	他行借入							△ 340	△ 922
三井割引				△ 2					
他行割引		△ 1				△ 2			
外為保証	△ 23	△ 59	△ 29	△ 133	△ 29	△ 130	△ 307	△ 3,029	
外為取組				298	218	344	778	1,228	
福州出張所	輸出	2	5	12	49	36		46	58
	輸入	1	4	0.3	3	1	不明	2	2
	外地売買	14	31	10	45	37		45	47
	計	17	39	22	98	74		93	107
里昂出張員	輸出	389	260	331	472	586		481	525
	輸入		5	9	44	41	不明		
	外地売買		26	43	82	97		106	181
	計	389	291	384	598	723		586	707
	本支店貸借	169	△ 23	△ 35	4	22	76	△ 26	10
	三井借入			△ 35	△ 34				
他行借入	△ 13	△ 13	△ 7	△ 7	△ 7	△ 7	△ 10	△ 10	
外為保証	△ 370	△ 178	△ 140	△ 136	△ 369	△ 147	△ 67	△ 140	
斯士寧出張所	輸出	61	27	107	73	69		130	206
	輸入	34	214	157	462	355	不明	236	617
	外地売買			4	1	34		450	274
	計	94	241	268	536	458		816	1,097
牛莊出張所	輸出			69	105	130		194	248
	輸入			120	115	134	不明	134	174
	外地売買			27	28	59		122	76
	計			216	248	322		449	498
	外為取組	161	136	99					
安東県出張所	輸出			6	8	13		40	29
	輸入			9	15	16	不明	25	65
	外地売買			33	38	37		69	75
	計			48	61	66		134	169
	外為取組				3				
仙頭出張員	輸出			14	44	80		73	78
	輸入			0.3	3	1	不明	0.1	4
	外地売買			6	12	9		64	35
	計			20	59	90		137	117
甲谷他 //	輸出			88	143	256		504	407
	輸入			189	157	269	不明	353	383
	外地売買			1,764	1,676	2,099		2,295	3,251
	計			2,041	1,976	2,624		3,152	4,041
	本支店貸借				△ 69	△ 164	△ 471	△ 378	△ 48
他行借入				△ 128	△ 240	△ 105	△ 20	△ 20	
外為取組						261	1,423	1,699	

盤谷出張員	輸出			16	18	51		88	131
	輸入			6	2	1		0.1	0.3
	外地売買			97	29	91	不明	95	53
	計			119	47	144		184	185
	外為取組				3				
泗水出張員	輸出			53	42	75		152	192
	輸入			111	85	9		81	237
	内地売買						不明		
	外地売買			800	733	738		601	872
	計			964	860	822		835	1,301
	外為取組				497		44	163	498
哈爾濱出張所	輸出			81	132	160		67	112
	輸入			167	173	165		91	60
	外地売買			126	75	167	不明	77	257
	計			374	379	491		234	429
鉄嶺出張所	輸出			84	97	124		198	160
	輸入			8	55	9			12
	外地売買			53	96	133	不明	106	357
	計			144	248	266		304	529
露都出張所	輸出			107	141	167		15	2
	輸入			4	7	38		1	
	外地売買			31	146	147	不明	54	
	計			141	294	352		70	2
長春出張所	輸出			98	75	156		158	195
	輸入			8	84	12		1	194
	外地売買			28	47	45	不明	35	56
	計			134	206	213		194	444
奉天出張所	輸出			58	73	96		136	172
	輸入			9	14	15		21	0.3
	外地売買			43	60	108	不明	57	141
	計			110	147	218		213	314
仁川出張所	輸出			16	19	14		15	22
	輸入			10	7	8		45	33
	内地売買			80	117	79	不明	116	155
	計			106	143	101		177	210
青島出張所	輸出			76	147	280		475	578
	輸入			4	19	30		168	60
	外地売買			8	21	245	不明	390	879
	計			87	187	555		1,032	1,517
	外為取組				15	123			
蘭貢出張員	輸出			35	43	38		97	84
	輸入					8		52	154
	外地売買			39	52	42	不明	186	42
	計			74	95	88		335	280
釜山出張員	輸出			0.3	6	0.2		23	3
	輸入			14	12	25		23	35
	内地売買			54	88	79	不明	205	270
	計			68	106	104		251	308
芝罘出張所	輸出			17	38	48		63	37
	輸入			4	15	7		9	5
	外地売買			5	16	16	不明	29	48
	計			25	69	70		100	90
浦塩出張員	輸出			7	20	47		58	17
	輸入			1		5		4	1
	外地売買			5	7	38	不明	13	
	計			13	26	89		74	18
群山	輸出				3	8		6	5
	輸入				1	1		6	10
	内地売買				32	21	不明	34	130
	計				35	30		45	145
台北出張員	輸出				3				
	輸入				76				
	内地売買				79				
	計				155				

瓜哇	外為取組					566			
馬耳塞	輸出							375	296
	輸入							17	32
	外地売買							35	51
	計							427	378
把城	輸出							59	
	輸入							11	
	外地売買							17	
	計							87	
スマラン	輸出							31	128
	輸入							0.1	18
	外地売買							44	15
	計							75	161
シヤトル	輸出								226
	輸入								367
	外地売買								1,834
	計								2,427
唐地	輸出								126
	輸入								12
	外地売買								430
	計								567
ハタビヤ	輸出								184
	輸入								17
	外地売買								197
	計								398
フエノスアイレス	輸出								5
	外地売買								41
	計								46
外地店部計	輸出	4,883	4,253	8,296	11,578	14,228		19,146	19,910
	輸入	2,053	2,539	5,608	9,109	6,963		11,320	11,361
	内地売買	214	359	622	889	1,268	不明	1,714	2,011
	外地売買	2,587	4,774	8,954	14,693	16,185		24,510	26,710
	計	9,736	11,920	23,474	36,258	38,633		56,683	59,987
	本支店貸借	△ 1,246	△ 1,075	△ 990	△ 1,154	△ 2,017	△ 1,777	△ 1,822	△ 2,965
	三井借入			△ 57	△ 387	△ 205	△ 512		△ 721
	他行借入	△ 514	△ 695	△ 819	△ 807	△ 2,180	△ 2,494	△ 2,947	△ 4,938
	三井割引				△ 2				
	他行割引	△ 54	△ 282	△ 172	△ 173	△ 355	△ 341	△ 127	△ 246
	外為保証	△ 4,324	△ 3,209	△ 3,838	△ 5,053	△ 5,314	△ 5,657	△ 7,436	△ 9,749
	外為取組	5,181	4,527	5,475	5,825	7,846	11,510	14,324	
	内外地支店合計	輸出	11,900	10,679	12,805	16,684	20,690		27,782
輸入		11,621	9,971	10,641	16,846	15,479		22,497	32,425
内地売買		4,056	4,342	5,035	6,645	8,321	不明	18,531	23,428
外地売買		4,717	7,421	9,155	14,928	16,406		25,137	36,225
計		32,293	32,408	37,630	55,092	60,884		93,940	123,280
本支店貸借		△ 2,189	△ 1,895	△ 1,690	△ 1,386	△ 2,342	△ 2,952	△ 2,758	△ 3,379
三井当座		53	65	49	35	49	30	75	7
他行当座		24	24	38	10	46	53	81	△ 92
三井借入		△ 183	△ 39	△ 227	△ 629	△ 389	△ 585	△ 50	△ 1,056
他行借入		△ 602	△ 1,066	△ 1,434	△ 1,498	△ 2,553	△ 3,212	△ 4,832	△ 7,259
三井割引		△ 53	△ 245	△ 162	△ 152	△ 38	△ 18	△ 79	△ 109
他行割引		△ 1,256	△ 544	△ 770	△ 721	△ 745	△ 1,056	△ 670	△ 976
外為保証		△ 5,274	△ 4,422	△ 4,909	△ 7,444	△ 6,615	△ 7,745	△ 10,952	△ 14,357
外為取組	10,465	8,531	10,700	8,868	12,133	17,928	26,608	32,144	

〔備考〕第19表と同様。

第 21 表 内地支店の本支店貸借（大 3 / 下 ~ 7 / 上）

（単位：万円）

店部名	大3/下	4/上	4/下	5/上	5/下	6/上	6/下	7/上
本部	2,554	2,319	2,024	1,952	3,007	3,784	△ 978	△ 1,242
営業部	△ 145							
機械部	△ 117							
石炭支部	△ 79			△ 102				
小樽	△ 181	△ 338	△ 284	△ 202	△ 367	△ 590	△ 607	△ 627
横浜	0	7	6	△ 43	66	9	80	57
名古屋	△ 42	△ 33	△ 55	△ 33	△ 29	△ 51	△ 123	△ 78
大阪	△ 69	△ 73	△ 142	57	7	58	83	△ 5
棉花部		△ 128	79	393	△ 167	△ 49	△ 618	△ 900
神戸	43	△ 8	△ 23		461	△ 147	△ 86	24
米穀肥料部							△ 96	△ 575
船舶部	71	105	120				858	1,844
門司	△ 131	△ 321	△ 369	△ 243	△ 260	△ 397	△ 424	△ 145
長崎	△ 16	22	12	△ 4	10	18	25	2
三池		△ 53	△ 44	△ 55	△ 44	△ 26	△ 27	△ 12
鉱山会社	△ 264							
北海道炭鉱	△ 13							
内地各店小計	△ 943	△ 820	△ 700	△ 232	△ 325	△ 1,175	△ 936	△ 414

〔備考〕三井物産の各期「事業報告書」の「金融表」より計算の上作成。「金融表」大5 / 下から金額単位が千円となるが、それ以前と連結のために万円で統一した（単位未満は四捨五入）。
以下、第22～32表まで同様。

年に棉花部も多額な依存となっている。小樽、名古屋、門司、三池は一貫して本店借であり、反面、一貫して本店貸なのは船舶部であった。大戦勃発で海運好況を享受した船舶部は多額の資金余剰を生じ、本店の要望に応じて多額の資金を供給したのである。横浜、大阪、長崎はむしろ本店貸が多く、神戸も多額の本店貸を生じた期もある。

各店部個別には本店依存に差があるが、内地支店全体では一貫して本店依存が続いており、依存額は期によって大きく変動している。3 / 下 ~ 4 / 下は 700 ~ 900 万円と多額であり、5 年上下で一旦 200 ~ 300 万円に減るものの、6 / 上には再び 1,200 万円弱へ激増、6 / 下、7 / 上は減少しているように見えるが、船舶部の多額の本店貸がなければ、1,800 万円、2,300 万円と計算されるから、船舶部以外の内地店部は 6 年以降本店依存が著しく強まったことを意味する。

他方、外地支店を第 22 表でみると、台北、漢堡だけが常に本店貸であり、5 / 下以降の台南もそうであるが、ほとんどの支店が本店借である。しかも一貫して本店借に依存する支店が多い。すなわち、京城、天津、上海、漢口、馬尼刺、倫敦、甲谷他がそれであり、それに準ずるのが孟買、紐育である。3 / 下 ~ 5 / 上では外地支店全体で本店借は 1,000 万円前後であったが（多い支店でも 400 万円以下）、5 / 下期から 2,000 万円前後に増加、7 / 上には約 3,000 万円に達している。支店別に見ても 1,260 万円の紐育は別格としても、500 万円を超えたことがある支店

第 22 表 外地支店の本支店貸借（大 3 / 下 ~ 7 / 上）

(単位:万円)

支店名	大3/下	4/上	4/下	5/上	5/下	6/上	6/下	7/上
台北	197	244	352	294	325	400	564	315
台南	△ 161	△ 171	△ 79	△ 33	49	84	21	217
京城	△ 203	△ 225	△ 231	△ 82	△ 118	△ 86	△ 171	△ 107
大連	△ 278	△ 232	△ 191	△ 192	△ 152	△ 122	262	123
天津	△ 31	△ 2	△ 32	△ 34	△ 125	△ 19	△ 225	△ 236
上海	△ 396	△ 338	△ 285	△ 403	△ 434	△ 463	△ 713	△ 767
漢口出	△ 217	△ 94	△ 116	△ 91	△ 70	△ 48	△ 128	△ 42
香港	△ 39	△ 22	16	47	△ 31	57	△ 89	△ 78
馬尼刺	△ 54	△ 42	△ 46	△ 11	△ 42	△ 67	△ 62	△ 61
新嘉坡	△ 39	△ 33	△ 64	35	△ 38	△ 8	39	△ 135
孟買	△ 146	△ 154	△ 112	△ 215	△ 140	△ 456	△ 591	123
甲谷他出				△ 69	△ 164	△ 471	△ 378	△ 48
漢堡出	23	14	27	27	27	27	4	4
倫敦	△ 12	△ 67	△ 250	△ 369	△ 666	△ 396	△ 222	△ 215
里昂	169	△ 23	△ 35	4	22	76	△ 26	10
紐育	△ 25	91	71	△ 102	△ 498	△ 293	△ 54	△ 1,261
桑港	△ 34	△ 21	△ 15	40	38	7	△ 55	△ 807
海外各店小計	△ 1,246	△ 1,075	△ 990	△ 1,154	△ 2,017	△ 1,777	△ 1,822	△ 2,965
本支店合計	365	424	334	566	667	831	△ 3,754	△ 4,621

は上海、孟買、倫敦、桑港の 4 店、100 万円以上では京城、大連、天津、漢口、新嘉坡、甲谷他と、軒並みである。要するに、多くの外地支店は大战後の営業膨張で必要となった資金を主として本店から調達したのである。

(2) 当座預金

この時期の最後の頃、すなわち、6 / 下期、7 / 上期では当座借越が僅かながら発生した。「事業報告書」では外地支店での当座預金記載が見当たらず、未報告の可能性も考えられるが、一応なかったと解しておこう⁽¹⁾。

内地店部の当座預金あるいは当座借越の期末残高は第 23 表のようである。3 / 下 ~ 5 / 上ではほとんどの支店と棉花部に当座預金残高が見られるが、大阪が数十万円の残高であるほかはみな僅かな額である。当座は日常の入出金があつておかしくないが、期末残高だけでは期中の利用程度は知る由もない。期中に当座借越が発生し、期末までに解消していても同様である。それでも 5 / 下期以降多くの店部で、当座残高がやや大きくなっているのは、当座の入出金が活発に利用されたことを想像せしめる。6 / 下からはさらに残高が大きくなると同時に当座借越残高が発生している。すなわち横浜、神戸、長崎と米穀肥料部である。横浜が正金と台銀に多額の借越残高があり(6 / 下で 100 万円、7 / 上で 191 万円)、神戸も三井、正金、鮮銀に 7 / 上期 70 万円の借越があり、米穀肥料部は 7 / 上期に三井に 42 万円の借越、長崎は正金、香上

第 23 表 内地店部の当座預金（3 / 下 ~ 7 / 上）

（単位：万円）

店部名	銀行名	3/下	4/上	4/下	5/上	5/下	6/上	6/下	7/上
本部	三井	46	132	72	31	95	93	54	151
	正金	94	10	17	86	7	70	30	193
	香上					64	84	15	34
	台湾					79	96	146	52
	朝鮮							3	24
其他	368	290	259		78	166	283	136	
計	508	432	348	117	323	509	531	590	
小樽	三井					0.5	10	0.2	0.3
	其他		1	2		1	8	△ 1	10
計		1	2	0		1	18	△ 1	10
横浜	三井	3	3	2	19	9	2	△ 2	9
	正金				8			△ 57	△ 138
	香上					0.1		0.3	
	台湾							△ 43	△ 64
	其他	2	3	2		3	2	4	2
計	5	6	4	27	12	4	△ 100	△ 191	
名古屋	三井	2	6	1	2	0.2	2	1	3
	其他		8	8		13	20	22	18
	計	2	14	9	2	13	22	23	21
大阪	三井	44	37	23	11	10	3	16	40
	正金	13	1	2	2	0.2	3	7	1
	台湾					0.1	1	28	9
	朝鮮								1
	其他	4	3	13		4	2	19	23
計	61	41	38	13	14	9	70	74	
棉花部	三井		19	12		12		28	9
	正金		2			7	1	0.4	1
	台湾					1	1	9	4
	朝鮮							25	3
	其他		1			9	3	55	14
計		22	12		29	5	117	31	
神戸	三井				1	18	21	△ 3	△ 28
	正金					2	0.4		△ 15
	香上								0.2
	台湾					1	1	0.1	△ 28
	其他	3				1	0.1	0.2	1
計	3				22	22	△ 3	△ 70	
米穀肥料部	三井								△ 43
	其他								1
計								△ 42	
船舶部	三井							32	7
	其他								13
計								32	20
門司	三井	1		10				3	11
	正金								10
	其他	2	1	7		2	7	22	59
計	3	1	17		2	7	25	80	
長崎	三井	3			1		2	0.3	3
	正金						0.3	△ 9	
	香上						0.1	△ 4	△ 6
	其他		1	1		0.1	1	0.1	△ 1
計	3	1	1	1	0.1	3	△ 13	△ 4	
三池	三井			1	1	0.3			0.1
	其他		3	3		3	2	2	1
	計		3	4	1	3	2	2	1
内地各店計	三井	53	65	49	35	49	30	75	7
	正金	13	3	2	10	9	5	△ 58	△ 148
	香上					0.1	0.1	△ 4	△ 6
	台湾					2	4	△ 6	△ 52
	朝鮮							26	△ 25
	其他	11	21	36		35	44	123	139
計	77	89	87	45	95	83	156	△ 85	

に6/下期 13 万円という具合である。これらの当座借越は、いうまでもなく資金調達の一環となっていることは確かであるが、ほかの調達手段とのかねあいも考慮せずばなるまい。

因みに、本店は三井、正金だけでなく、いくつかの銀行に当座預金を置いており、合計すると3/上期で 508 万円、以後減少し、6/上期以降 500 万円台となる。5/下期以降、三井、正金以外に香上、台銀、鮮銀の残高がみられるが、それ以前から「其の他」に含まれていたのかもしれない。香上、台銀の残高が三井、正金と並ぶほどであったことが注目される。

- (1) 外地支店が現地銀行に当座を開設していないというのは疑問である。なぜなら本店は支店に現地での当座借越利用を勧めているからである。
- (2) 当座借越契約の締結の有無も問題であるが、そこまで検証できる材料がない。

(3) 借入金

次に借入金であるが、三井銀行とそれ以外の銀行に分けて考察しよう。

第 24 表は三井銀行からの借入状況である。支店を見る前に、本部の三井銀行借入に触れておこう。すなわち、3/下期での 600 万円借入残高は、物産が大戦勃発後に得た 750 万円の特別援助⁽¹⁾の残り、4 年下期には返済されているが、5/下以降の 100 万円は事情不明、6/下期 780 万円、7/上期 1,080 万円の多額の借入残高があるのは支店への資金供給のためであろう。

第 24 表 三井銀行からの借入金 (大3/下～7/上)

(単位:万円)

店部名	大3/下	4/上	4/下	5/上	5/下	6/上	6/下	7/上
本部	600	700			100	100	780	1,080
小樽			25	33	58	21		20
横浜	8	22				17		
名古屋			5	5	5			15
大阪	170	15	7	7			20	
棉花部			100	125	120	33	30	300
神戸		2	8	70				
門司			25	2	0	2		
長崎	5				1			
内地各店計	183	39	170	242	184	73	50	335
上海						8		20
孟買			22	353	5	504		
里昂			35	34				
紐育					200			701
海外各店計			57	387	205	512		721
本支店合計	783	739	227	629	489	685	830	2,136

内地店部のすべてに三井銀行からの借入があるわけではない。支店ではほとんどに借入があるが、部では棉花部のみで、計8店部に借入実績が見られる。しかし借入が每期継続的にあるわけではなく、むしろ断続的、臨時的でさえある。棉花部は4~7年継続して借入実績があるが、残高の変動から見ると長期に借りっぱなしではない。大正4、5年は100万円超が3期、6年は30万円台が2期、7年上期300万円という具合である。大阪では3/上の170万円だけが目立ち、その後は僅か、名古屋、横浜、長崎も僅かで散発的、小樽と門司の借入は2年間継続するが、残高は少ない。総じて余りはっきりした傾向はない。

外地支店で三井銀行借入実績は上海、孟買、里昂、紐育だけであるが、孟買の353万円と504万円、紐育の200万円と701万円が目立つ。

7/上期を別とすれば、三井銀行からの借入は本部が多い時は支店は少なく、本部が少ない時は支店が多いという関係が読みとれる。内地支店だけでは残高が揺れ動くが、本部、外地支店も含めた本支店合計では7~800万円で抑えられているようである。要するに、総額が意識されているのではないか。ただ、7/上だけは本部、棉花部、紐育の借入が重なって2,136万円に達し、異常な状況となっている。

実は、内、外地支店は三井銀行以外からも三井に匹敵する借入がある。

内地店部の場合は第25表のごとくである。正金、台銀、香上、住友の名前が登場するもの

第25表 内地店部の三井銀行以外の借入金（銀行別）（大3/下~7/上）

(単位:万円)

店部名	銀行名	大3/下	4/上	4/下	5/上	5/下	6/上	6/下	7/上
本部	その他				30	10		100	200
小樽	その他		67	69	136	131	170	256	408
横浜	正金	52	12			33	31		
	その他						6		
名古屋	その他		30	25	10	5	10	25	45
大阪	台湾						10	20	
	その他	30	90	60	50		30	200	330
棉花部	台湾								50
	その他		160	330	230	130	284	944	773
神戸	正金						25	20	
	住友								70
	その他			92	205	70	150	420	645
門司	その他		1	34	50				
長崎	正金				10	3	3		
	香上					1			
	その他	6	11	5					
内地各店計	正金	52	12	5	10	36	59	20	
	香上					1			
	台湾						10	20	50
	住友								70
	その他	36	359	610	681	336	649	1,845	2,201
	計	88	371	615	691	373	718	1,885	2,321

の、それらは僅かな残高で、「其の他」と一括されている相手先不明の借入が大部分を占める。残高が大きいだけにその内訳が知りたいところである。三井銀行以外から借り入れている内地支店は前掲第 24 表と全く同一で、それらが三井とそれ以外を併用していたわけである。むしろ三井よりも「其の他」への借入依存の方がはるかに大きく、4/下、5/上の 600 万円超の借入残高は主として棉花部、神戸であり、6/上からの借入激増(718 万円→2,321 万円)は棉花部、神戸に加えて小樽、大阪の多額な借入が原因である。「其の他」銀行からの借入は小樽、名古屋、大阪、棉花部、神戸いずれも長期間継続しており、散発的であった三井借入とは傾向を異にしている。ただし「其の他」の内訳が不明のため、依存銀行が入れ替わっているのかも知れない。因みに、本部も「其の他」銀行から借りているが、三井ほど多くはない。

外地支店はどうであろうか。第 26 表によれば、外地支店全体での借入残高は毎期、内地支店よりも多く、且つ 5/下期から激増している。すなわち、2,000 万円台が続き、7/上には内地支店の 2 倍以上、4,938 万円の巨額に達している。たしかに第 19 表、第 20 表でみたように、総取扱高の増加ぶりは、6/上→7/上で内地支店 2.2→3.7→6.3 億円、外地支店 3.8→5.5→5.8 億円であって、むしろ内地支店の方が激増であるから、単純にみて外地支店の「其の他」銀行への借入依存激増は取引内容の違い、現地事情によるものであろうか。

支店別にみると、5/上までは紐育、台北、大連の借入残高が多い方であったが、それ以降は紐育の激増を筆頭に、桑港、大連、台北、上海の借入増が大きく、孟買、台南、京城、甲谷他も 100 万円を超える残高である。とりわけ総取扱高が激増した紐育、桑港に多額の借入が発生し、両店で 6/下期 1,152 万円が 7/上期には 2,689 万円と倍増以上であった。

借入先では、正金が大连、上海、漢口、孟買、甲谷他、紐育、桑港など多くの支店で利用され、台銀、鮮銀、住友などが新規に登場するのが注目される。すなわち、台銀は地元の台北、台南だけでなく、上海、漢口、香港、孟買にも貸し、鮮銀は地元の京城のほか、大連、上海、紐育まで貸し、住友は上海、孟買、桑港に貸すなど、外地支店の借入範囲は拡大している。ただここでも「其の他」がまだ大きな比重を占めており、その内訳を知り得ないのは残念である。

(1) このことについては次のような事情説明がある。

「大正 3(1914)年 9 月に、三井銀行から供与された 750 万円の特別融資や、大戦勃発後に同行から与えられた外国為替面での援助も、またこれに大きく寄与していた。……三井銀行以外の銀行が貸付金を割引手形や当座貸越に振替えたなかにあつて、三井銀行のみが貸付金を……増加させた……。……しかも三井銀行は融資に必要な資金を、三井物産以外に対する貸付けを急速に引揚げることによって調達していた」(『稿本三井物産株式会社 100 年史 上』400 頁)

(4) 割引手形

この時期、すなわち大 3/下期以降には、内地、外地とも支店で手形割引が若干行われた。まず、三井銀行での手形割引は第 27 表のごとくである。外地支店では桑港でごく僅かな割引

第 26 表 外地支店の三井銀行以外の借入金（銀行別）（大 3 / 下 ~ 7 / 上）

(単位:万円)

支店名	銀行名	大3/下	4/上	4/下	5/上	5/下	6/上	6/下	7/上
台北	台湾				265	230	510	640	420
	其他	120	170	275	6	18			25
	計	120	170	275	271	248	510	640	445
台南	台湾				29	65	82	70	81
	其他				20	20	43	48	38
	計				49	85	125	118	119
京城	朝鮮								126
	其他		2	2	66	103	163		
大連	正金	62	6		1	49	59	322	354
	香上						42	26	43
	朝鮮							305	350
	其他	47	111	35	77	335	427	110	102
	計	109	117	35	78	384	528	763	849
天津	正金			5		8	27		
上海	正金				14	78	27	70	76
	台湾					47	56	71	58
	朝鮮								165
	住友							46	120
	其他							18	32
	計			5	14	133	135	205	451
漢口	正金		22	38	21	18	26		
	香上					13	10		
	台湾				14	2	6		
	其他		30	53	22	9	25		
	計		52	91	57	42	67		
香港	正金					2			
	香上				2	5	13		
	台湾				44	44	48	32	32
	其他	28	41	60			0		
	計	28	41	60	46	51	61	32	32
馬尼刺出	香上					1	1		
	其他	2		2	2	8			
	計	2	0	2	2	9	1		
新嘉坡	台湾				1	23			
	其他	17	6					17	
孟買	正金		77	63		52			100
	香上								32
	台湾								75
	住友	47	21	4		0	57		
	其他	47	98	67	0	52	57		207
甲谷他出	正金				68	165	79		
	其他				60	75	26	20	20
	計				128	240	105	20	20
紐育	正金					100			
	朝鮮								40
	其他	191	209	282	95	710	744	812	1,727
	計	191	209	282	95	810	744	812	1,767
桑港出	正金							60	602
	住友							60	260
	其他							220	60
	計							340	922
海外各店計	正金	62	105	106	104	472	218	452	1,032
	香上				2	19	66	26	143
	台湾				353	411	701	813	623
	朝鮮							305	681
	住友							106	455
	其他	452	590	713	348	1,278	1,509	1,245	2,004
	計	514	695	819	807	2,180	2,494	2,947	4,938

第 27 表 三井銀行の手形割引（大 3 / 下 ~ 7 / 上）

（単位：万円）

店部名	大3/下	4/上	4/下	5/上	5/下	6/上	6/下	7/上
本部		41	9			122	84	108
営業部	3							
小樽			3					
横浜				100				
名古屋		31	20	17	9	5	4	1
大阪	30	2	27	11	15	6	9	14
棉花部		208	109	3			51	62
神戸							15	32
門司	17	14		14	14	7		
長崎	3							
三池			3	5	0	0	0	0
内地各店計	53	245	162	150	38	18	79	109
桑港出				2				
合計	53	286	171	152	38	140	163	216

手形残(2万円)があるだけで、内地の10店部に若干の割引がある。毎期のように割引残があるのは大阪、名古屋、三池だけで、他店では散発的である。割引残が多いのは棉花部(4/上 208万円、4/下 109万円)、横浜(5/上 100万円)ぐらいで、他支店は少額である。10店合計で100万円を超えているのは4/上~5/上と、7/上の4期だけで、109~245万円であり、本部を加えてもそれほど大きな残高ではない。要するに、手形割引における三井銀行への依存は大したことはなかったのである。

他方、三井銀行以外への手形割引は、三井銀行よりはるかに多額であった。内地店部では第28表にみるとおり、3/下が異常に多額で、営業部、大阪、機械部が「其の他」銀行で多額の割引をしている。4年以降では、500~700万円の期が多く、その大部分は棉花部が占め、大阪がそれに加わる。小樽、名古屋、神戸、門司、三池にも割引残高はあるものの、何れも少額である。名古屋、門司、三池は僅かではあるが、ほぼ全期間に割引残がある。棉花部は4/上以降毎期数百万円の割引残があつて、大阪もやや類似している。正金、台銀、住友での割引がないわけではないが、「其の他」が圧倒的である。外地支店では第29表にみるとおり、10支店に割引残があるものの、内地支店ほど多くはない。毎期残高があるのは里昂だけで、紐育、台北、台南もそれに近い。香港、新嘉坡、漢堡、倫敦、桑港は一時的であり、残高も概して少ない。100万円を超える残高は、6/上の台北(115万円)、7/上の台南(136)、4/上の香港(210)、4/下、5/下、6/上の紐育(109, 279, 217)であり、ほぼ総てが「其の他」での割引であった。里昂で正金、台北、台南、新嘉坡で台銀、京城で鮮銀での割引があるものの、概して少額である。

第 28 表 内地店部の三井銀行以外の手形割引（銀行別）（大 3 / 下 ~ 7 / 上）

（単位：万円）

店部名	銀行名	大3/下	4/上	4/下	5/上	5/下	6/上	6/下	7/上
本部	台湾				15	95	102	24	
	朝鮮							39	
	その他		102	128	79	56	132	183	292
	計		102	128	94	151	234	246	292
営業部	正金	17							
	その他	474							
	計	491							
機械部	正金	2							
	その他	208							
	計	210							
海軍掛	その他	24							
小樽	その他	1		2					
名古屋	その他	42	9	3	14	2	3	1	11
大阪	正金	31							
	台湾				4	10	32		
	住友								40
	その他	301		5	113	90	150	27	74
計	332		5	117	100	182	27	114	
棉花部	台湾					20			
	住友								25
	その他		233	584	409	266	526	441	577
	計		233	584	409	286	526	441	602
神戸	その他	77	3					28	
門司	その他	25	10	4	3	1	3	6	
三池	その他		7		5	1	1	1	3
内地各店計	正金	50							
	台湾				4	30	32		
	朝鮮							39	
	住友								65
その他	1,152	262	598	544	360	683	504	665	
計	1,202	262	598	548	390	715	543	730	

第 29 表 外地支店の三井銀行以外の手形割引（銀行別）（大 3 / 下 ~ 7 / 上）

（単位：万円）

支店名	銀行名	大3/下	4/上	4/下	5/上	5/下	6/上	6/下	7/上
台北	台湾						114	8	0
	その他		3	11	14	0	1	19	5
	計		3	11	14	0	115	27	5
台南	台湾				89	65			92
	その他	3	38	41					44
	計	3	38	41	89	65			136
京城	朝鮮								7
	その他	9	1						
香港	その他	1	210						
新嘉坡	台湾				8				
	その他	2	2						
漢堡出	その他	25							
倫敦	その他	1							
里昂	正金			4	3	3	3		
	その他	13	13	7	7	7	7	10	10
紐育	その他		14	109	52	279	217	90	88
桑港出	その他		1			2			
海外各店計	正金			4	3	3	3		
	台湾				97	65	114	8	93
	朝鮮								7
	その他	54	282	168	73	287	224	119	147
	計	54	282	172	173	355	341	127	246
本支店合計	正金	50		4	3	3	3		
	台湾				101	95	146	8	93
	朝鮮							39	7
	住友								65
	その他	1,206	544	766	617	647	907	623	812
計	1,256	544	770	721	745	1,056	670	976	

割引手形全体で云えば、三井銀行での割引がある程度あり、正金、台銀、鮮銀、住友が少額あるものの、「その他」が圧倒的に多額であるから、内外地とも地元の多くの銀行で割引していたと推測されよう。それにしても一括された「その他」の比重が大きいだけに、その銀行別内訳が知り得ないのは残念である。

（5）外国為替手形支払承諾

この時期になると外国為替手形支払承諾（以下、外為手保証と略す）は銀行別に判明する。すなわち、本部、内外地店全体で、第 30 表のような内訳である。大 3 / 下期残高 5,274 万円から増減を含みつつ 7 / 上には 1 億 4357 万円へと 2.7 倍の増加である。この分野で圧倒的比重で支援してきた正金が、3 / 上期 1,533 万円から 6 / 下 5,552 万円へと保証額を拡大しているのがま

第30表 外国為替手形支払承諾概要（大3／下～7／上）

（単位：万円）

銀行名	大3／下	4／上	下	5／上	下	6／上	下	7／上
正金	1,533	1,198	1,282	3,162	3,243	3,704	5,552	5,217
香上				384	516	537	507	437
渣打				18	223	102	99	91
インター				88	54	52	71	102
三井				1,349	534	1,223	798	1,337
台湾				723	490	481	1,622	2,343
住友							366	1,036
その他	3,741	3,224	3,627	1,720	1,557	1,545	1,937	3,794
計	5,274	4,422	4,909	7,444	6,615	7,745	10,952	14,357

ず注目される。3／下～4／下は正金以外が一括されているため「その他」が7割となっているが、5／上から内訳が判明すると「その他」は2割程度となり、三井、台銀がこの業務に参入しかなりの金額となっていることが知られる。香上、渣打、インターも5／上までは「その他」に含まれていたと想像されるが、5／上の時点で三井、台銀に大きく引き離されている。したがって5／上以降は4～5割を占める正金、2～3割の三井・台銀、さらに従来からの香上、渣打、インター3行という様相となり、7／上は三井・台銀の増加に住友が加わり、「その他」も増加して、正金は3割台に後退したのである。

次に、内地店部について外為手保証を店部別に詳しくみたのが第31表である。内地店部全体では3／下期950万円の残高から増減を繰り返しつつ、7／上期には4,608万円まで拡大している。店部別には棉花部が5／上以降抜群に多く、全体の6割を占めるほどである。次いで多いのは大阪と神戸で、時には400万円を超えているが、他の店部は少額であった。大阪、神戸は毎期、名古屋、門司、長崎もほとんど毎期保証残があるが、大阪、神戸以外はいずれも僅かな金額である。機械部、小樽、横浜、船舶部は一時的に保証残がみられる程度である。保証銀行は全体でみた傾向とほぼ同様であり、正金には大阪、棉花部、神戸が多く依存し、機械部、小樽、横浜、船舶部、門司、長崎も少額ながら依存している。三井には棉花部が多く、横浜、名古屋、大阪、神戸、門司、長崎など少額ながらあり、台銀には棉花部、大阪を主に、横浜、名古屋、神戸、門司、長崎と多くがある。香上、渣打、インターへの依存はすくない。

次に外地支店であるが、第32表にみるように内地店部よりも保証高は格段に多い。すなわち、3／上で4,324万円の残高は内地店部の5倍弱であり、以後も2～3倍で推移、7／上では9,749万円が2倍であった。内地店部のような増減の繰り返しでなく、ほぼ一貫して残高は拡大している。店部別では紐育、倫敦が最大手であって、4／下期までは倫敦(2,000万円前後)、それ以降は紐育(2,000万円前後から3,400万円へ)が最大で、7／上だけは桑港が激増し(3,029

第 31 表 内地店部の外国為替手形支払承諾（大 3 / 下 ~ 7 / 上）

（単位：万円）

店部名	銀行名	大3/下	4/上	下	5/上	下	6/上	下	7/上
本部	正金	136	126	76	213	31	173	285	288
	香上					32	23	43	11
	渣打					27			
	インター					0.2		3	0.3
	三井				33	155	211	35	123
	台湾				112	108	33	486	434
	住友							106	177
	其他	110	210	317	138	104	30	33	318
計	246	336	393	496	456	470	990	1,350	
機械部	正金	45							
	其他	2							
	計	47							
小樽	正金	4							
	其他	1							
	計	5							
横浜	正金							1	1
	インター				2				
	三井							2	0.2
	台湾				3			2	0.2
	住友							5	2
	其他							2	
	計				5			12	4
名古屋	正金						9		
	香上						2		
	渣打					0.2		1	
	インター					0.3		1	
	三井				14	1	5	0.2	34
	台湾				2		1	8	5
	住友							2	
	其他		19	8		1	0.3	14	92
計		19	8	16	2	17	26	130	
大阪	正金	448	74	61	84	50	116	302	65
	三井				96	17			10
	台湾				74	23	50	33	82
	住友							120	20
	其他	7	28	73		1			
	計	455	102	134	254	91	165	455	176
棉花部	正金				651	408	760	1,295	1,281
	三井				720	67	374	8	374
	台湾				94	51	39	117	106
	住友							72	593
	其他				118		116	216	254
	計				1,583	526	1,290	1,708	2,608

神戸	正金	102	332	231	11	55	44	51	80
	香上				14	42	55	154	63
	渣打					97	9	19	4
	ｲﾝﾀｰ				3	5		25	11
	三井				1	1		9	0.3
	台湾				2	10	7	19	88
	住友							39	10
	計	93	169	198		0.2	7		
船舶部	正金		13	14					
	其他		165	84					
	計		178	98					
門司	正金					1	1	2	13
	香上					0.3	5		
	ｲﾝﾀｰ							1	
	三井					0.2	2		36
	台湾				5	5	13	2	4
	住友								2
	其他		69	3		6	0.2		23
計		69	3	5	130	21	5	78	
長崎	正金	1	5	3		2	3	5	4
	三井								1
	台湾						0.1		0.4
	住友								1
	其他	1	3	3					
	計	2	8	6		2	3	5	7
三池	其他				1				
内地各店計	正金	736	550	385	959	547	1,105	1,940	1,732
	香上				14	74	84	196	74
	渣打					124	9	20	4
	ｲﾝﾀｰ				5	5		30	12
	三井				864	240	593	54	578
	台湾				292	197	143	667	719
	住友							344	805
	其他	214	663	686	257	112	154	264	686
計	950	1,213	1,071	2,391	1,301	2,088	3,516	4,608	

第 32 表 外地支店の外国為替手形支払承諾（大 3 / 下 ~ 7 / 上）

（単位：万円）

支店名	銀行名	大 3 / 下	4 / 上	下	5 / 上	下	6 / 上	下	7 / 上
台北	香上				1	22			
	台湾				8	24	44	3	6
	其他		4	13					
	計		4	13	9	47	44	3	6
台南出	台湾				1	1	8	20	34
	其他	9							
	計	9			1	1	8	20	34
京城出	其他	68	8	19	3	11	17	133	38
大連出	正金		270	400	300	361	307	459	470
	香上						2		
	其他	306					0.1		9
	計	306	270	400	300	361	309	459	479
天津	正金		19	31	21	20	4	25	47
	香上					4		69	72
	其他	46	3	8					
	計	46	22	39	21	24	4	94	119
上海	正金	263	74	113	62	48	70	225	323
	香上				27	37	32	82	28
	三井				42	21	26	24	46
	台湾				44	95	20	105	58
	住友								4
	其他	96	153	137			16		260
	計	359	227	250	175	200	164	436	719
漢口出	正金	45	25	18	9	37	7	21	1
	香上					8		2	6
	台湾				9	9	1		10
	住友							22	3
	其他		9	18			3	18	
	計	45	34	36	18	53	11	63	19
香港	正金		18	38	66	4	8	34	136
	香上				1	1	3	2	22
	台湾				38	10	15	160	296
	住友								
	其他	80	47	15			2		2
	計	80	65	53	105	15	28	195	464
馬尼刺出	正金								
	其他	2				2			
	計	2				2			
新嘉坡	正金					1	36	27	29
	香上				32	1	16		
	渣打							2	
	台湾				23	73	52	48	77
	其他	32	73	33		0	6		
	計	32	73	33	55	75	110	76	106
孟買	正金		12	22	17	11	72		5
	香上				24	2	82		
	渣打						6		
	三井				61	6	24	23	32
	台湾								303
	住友								11
	其他	44	110	295	12	48	77		7
	計	44	122	317	114	66	262	23	357

甲谷他	正金				30	68	66	3	180
	香上				81	138	168	29	33
	渣打				18	68	55	7	30
	ｲﾝﾀｰ								9
	三井				12	0.2	46	11	30
	其他				108	162	200	42	140
	計				249	436	535	91	417
漢堡出	其他	39						3	
倫敦	正金	174			315	276	378	361	277
	香上				38	94	111	64	64
	渣打					11	13	3	22
	ｲﾝﾀｰ					41	33		52
	三井				53	18	155	164	311
	台湾				136		129	211	354
	其他	2,135	1,830	2,321	1,316	1,162	1,036	1,231	1,710
	計	2,309	1,830	2,321	1,858	1,601	1,856	2,032	2,790
里昂	正金	300		139	65	212	60	21	56
	香上				4	102	33	18	35
	渣打								30
	ｲﾝﾀｰ						2		3
	三井				67	14	42	4	
	台湾							8	10
	其他	70	178	1		41	10	16	6
	計	370	178	140	136	369	147	67	140
紐育	正金		192	119	1,269	1,648	1,502	2,362	26
	香上				102	32	6	46	63
	渣打					21	18	68	6
	ｲﾝﾀｰ				83	8		41	21
	三井				250	234	437	519	341
	台湾				172	81	68	399	477
	其他	592	125	69			0.2		107
	計	592	317	188	1,876	2,024	2,032	3,434	1,040
桑港出	正金	15	38	17	49	10	90	76	1,935
	香上				60				41
	ｲﾝﾀｰ						17		6
	住友								213
	其他	8	21	12	24	19	24	230	835
	計	23	59	29	133	29	130	307	3,029
海外各店計	正金	797	648	897	2,203	2,695	2,600	3,612	3,486
	香上				370	441	452	311	363
	渣打				18	99	93	79	87
	ｲﾝﾀｰ				83	49	52	41	91
	三井				485	293	730	744	759
	台湾				431	293	338	955	1,624
	住友							22	231
	其他	3,527	2,561	2,941	1,463	1,444	1,392	1,673	3,109
	計	4,324	3,209	3,838	5,053	5,314	5,657	7,436	9,749
本支店合計	正金	1,533	1,198	1,282	3,162	3,243	3,704	5,552	5,217
	香上				384	516	537	507	437
	渣打				18	223	102	99	91
	ｲﾝﾀｰ				88	54	52	71	102
	三井				1,349	534	1,223	798	1,337
	台湾				723	490	481	1,622	2,343
	住友							366	1,036
	其他	3,741	3,224	3,627	1,720	1,557	1,545	1,937	3,794
	計	5,274	4,422	4,909	7,444	6,615	7,745	10,952	14,357

万円)、倫敦、紐育の順になっている。大連、上海、香港、甲谷他、孟買、里昂などが時には数百万円の残高を記録し、台北、台南、京城、天津、漢口、馬尼刺、新嘉坡、漢堡は臨時的であるか、毎期あっても残高は比較的少ない。正金依存が断然多く、台湾、朝鮮、馬尼刺を除く多数の外地店が正金に依存し、特に紐育、桑港が多額であり、大連、上海、倫敦も多い。三井は紐育、次いで倫敦がやや多く、上海、孟買、甲谷他、里昂も多少依存している。台銀は紐育、倫敦、孟買、香港で多い時があり、台北、台南、上海、漢口、新嘉坡も少額ながら依存している。香上、渣打、インターへの依存する支店はそれぞれ僅かな金額である。

ここでも3/下~4/下は正金と「其の他」だけで、5/上から登場する各行がそれまでの「其の他」に含まれている可能性がある。各店別に推移をみてもまちまちであり、増減に共通性は見出し得ない。

(6) 外国荷為替取組高

この時期の外国為替取組高は、第33表にみるように明治末期から引き続いて1億円前後を辿った後、6/上から7/上にかけて急増し、3億円を超える。銀行別には、正金が依然として大きな比重を占めているが、3/下期の54%から逐期低下し6/上には36%までなった後、4割前後に回復している。めざましいのは台銀と三井で、両者併せて10%から5/上には37%にまでなり、以後3割前後が続く。古くからの取引銀行では、香上だけが1,000万円台から2,000

第33表 外国荷為替取組高概要 (大3/下~7/上)

(単位:万円)

銀行名	大3/下	4/上	下	5/上	下	6/上	下	7/上
正金	5,654	3,886	5,099	3,385	4,613	6,387	12,960	12,850
香上	1,673	1,614	960	1,269	1,491	1,944	1,864	2,029
渣打	72	118	198	93	346	422	246	540
独亞	114							
宝通	143	92	58	82	93	366	314	433
台湾	520	1,111	1,361	1,871	2,287	2,397	4,621	6,497
和蘭	8	5						
露亞	15	3	11					
三井	520	224	1,269	1,405	1,402	2,895	3,588	2,758
朝鮮	15							1,121
住友								1,760
興業								560
クレジット	183	223	165					
其の他	360	93	201	677	837	1,593	3,344	2,419
社内	1,188	1,162	1,376	124	1,198	1,935	1,687	1,174
計	10,465	8,531	10,698	8,905	12,268	17,938	28,624	32,143

【備考】三井物産の各期「事業報告書」の「外国荷為替取組高銀行別店別表」より計算の上作成。第34、35表も同様。

万円へと増加しているものの、それ以外は僅かである。むしろ 7/上期に朝鮮、住友、興銀が揃って登場したことが注目され、「其の他」が 6/上以降増加しているのは、取組先が拡大したことを推測させる。社内為替は 1,000 万円台を続け、この時期でも利用の余地がなおあったわけである。クレジットハウスに依存することは最早なくなった。

それでは内地店部の取組を各店別にみよう。第 34 表によれば、内地店部全体として 3/下から 5/下まで 3,000 万円から 5,000 万円の間に増減を繰り返し、6/上の 6,400 万円から 6/下、7/上には 1 億 4000 万円強へと激増する。まさに貿易拡大を反映した大膨張である。それを可能にしたのは主として横浜、神戸、棉花部の取組増加である。すなわち、2,000 万円台からいったん 500 万円前後に落ちた後 6,000 万円前後に増加した横浜、1,000 万円台から 800 万円に落ちた後 3,000 万円前後に増加した神戸、6/上から増加して 2,000 万円弱に達した棉花部という具合である。それ以外の店部は、7/上に 1,363 万円となった営業部を除けば、みな少額である。

取組先銀行をみると、正金は総ての店部で利用されているが、やはり横浜(1,000~4,600 万円)、神戸(6/上以後の 1,000 万円台)、棉花部(6/下以降の 600 万円弱)が多額であり、大阪がそれに次ぎ、長崎、営業部が若干ある程度、三井は 11 店部で利用されているが、主に営業部、棉花部、横浜(特に 6/下と 7/上の 1,100 万円強)、神戸であった。台銀は神戸を筆頭に営業部、大阪、棉花部、横浜(特に 7/上 1,200 万円強)が多い方である。

次に、外地支店取組高を整理すれば第 35 表のようである。内地店部と同様に 3/下~5/上にはほぼ 5,000 万円台の取組高が続き、以後は内地店部より每期大きな増加で、7/上には 1 億 8000 万円弱に達している。外地支店を支店別にみると、5/上までは孟買、香港、上海が 1,000 万円を超え、倫敦がそれに次ぐものであったが、5/下以降には孟買、紐育(何れも 3,000 万円前後)を筆頭に上海、香港、大連、甲谷他、桑港などが 1,000 万円を超えるほどに増加した。新嘉坡、台北、漢口、泗水、倫敦、瓜哇が 500 万円前後の時もあるが、それ以外は僅かな取組である。

取組先銀行をみると、正金利用が最多であり、孟買、紐育、上海、大連に 1,000 万円超の期があり、香港、桑港、新嘉坡、甲谷他も 500 万円前後の期がある。23 店うち少額も含めて 14 店が利用している。取引の古い香上も 18 店が利用し、香港、上海がやや多額なほか、新嘉坡、泗水、孟買、甲谷他、倫敦、紐育など広い。渣打は 12 店、インターは 10 店と数は多いが、少額ばかりである。それに対して遅れて取組に進出した方では、三井の利用は主として紐育(最多 999 万円)、孟買(同 642 万円)で、少額を含めて 7 店、台銀の利用は紐育(最多 1,583 万円)、香港(同 796 万円)が大きく、上海、台北、泗水、新嘉坡、孟買(7/上のみ)もあって、少額を含めて 14 店で、住友は 7/上だけで、紐育(695 万円)、桑港(356 万円)、上海など 4 店であった。

第 34 表 内地店部の外国荷為替取組高 (大3/下~7/上)

(単位:万円)

店部名	銀行名	大3/下	4/上	下	5/上	下	6/上	下	7/上
営業部	正金	152	54	41	8	70	71	150	296
	香上	5	14	27	40	78	24	1	3
	独亞	8							
	台湾		108	99	41	122	36	83	335
	三井	64	156	437	437	204	415	387	677
	朝鮮								50
	その他				2	2	1		
	社内	2					29	145	2
計	231	332	604	528	476	575	766	1,363	
砂糖部	正金				8	13	43	22	108
	香上					2	95	1	
	台湾				37	157	97	0	6
	三井				170	23	175	2	7
	朝鮮								0
計				215	195	410	25	122	
機械部	正金				0		0	4	45
	台湾				3		2	1	35
	三井							0	32
	朝鮮								6
	社内								0
計				3		2	5	119	
石炭部	正金							16	
石炭支部	正金				35	134			
	香上						9		
小樽	正金	155	97	73					
	台湾								14
	三井							1	
	その他	10	13					69	267
	社内	124	6					3	0
計	289	116	73				74	282	
横浜	正金	1,756	1,366	2,295	148	243	168	4,624	2,882
	香上	96	85	37	354	88	135	66	7
	渣打	57				2	1	22	4
	独亞	59							
	宝通	112	31				16	52	49
	台湾					41	22	463	1,236
	朝鮮								101
	三井	448	68	178		10	21	1,197	1,126
	興銀								560
	その他			15		40	108	539	
	社内	135	456	110				4	
計	2,663	2,006	2,635	502	424	472	6,968	5,966	
名古屋	正金						10	12	4
	香上						1		
	渣打						1		
	台湾						0		
	三井				33		9	19	
	住友								64
	その他						14	108	194
	社内							1	
計				33		36	141	262	

大阪	正金	630	107	214	259	136	264	369	302
	香上						10		
	渣打						14		
	台湾	118	60	157	135	282	319	267	524
	朝鮮	15							5
	三井			28	5		156	88	17
	住友								110
	その他						44	86	6
	社内						79	166	19
	計	763	167	399	399	418	886	976	983
棉花部	正金				193	408	250	582	594
	香上				17	114	58	287	97
	台湾				48	129	137	235	755
	三井						31	616	5
	朝鮮								196
	住友								48
	その他					13	48	55	49
	社内				94	137	735	155	61
	計				351	801	1,259	1,929	1,805
神戸	正金	632	574	680	512	796	1,043	1,611	1,101
	香上	352	277	371	155	242	244	220	130
	渣打	6	1	1	0	3	17	0	1
	独亞	18							
	宝通	5		16	3	19	1		
	台湾	18	400	284	168	459	486	544	809
	露亞	11							
	三井			41	45	115	496	337	26
	朝鮮								308
	住友								242
	その他					55	35	338	86
	社内								4
	計	1,042	1,252	1,395	884	1,689	2,321	3,049	2,708
	穀肥部	正金							
香上									3
渣打									7
宝通									3
台湾									42
三井									176
朝鮮									5
住友									48
計									409
門司	正金	1	2	1		110	179	106	23
	香上					12			
	宝通	1							
	台湾		1	2					
	その他						6	13	
	社内	3	8	9					
計	5	11	12		122	185	119	23	
長崎	正金	239	112	101	108	139	238	204	223
	香上		8	6	20	23	27	10	13
	社内								
計	239	120	107	128	162	265	214	236	

三池	正金	29					7	4	
	香上	23							
	宝通							4	
	台湾							8	
	三井							2	
	其他							1	
	計	52					7	18	
内地店部計	正金	3,594	2,312	3,405	1,271	2,049	2,273	7,704	5,703
	香上	476	384	441	586	559	603	585	253
	渣打	63	1	1		5	33	22	12
	独亞	85							
	宝通	118	31	16	3	19	17	56	52
	台湾	136	569	542	432	1,190	1,099	1,595	3,756
	露亞	11							
	韓国	15							671
	三井	512	224	684	690	352	1,303	2,647	2,066
	住友								512
	興業								560
	其他	10	13	15	2	110	256	1,209	602
	社内	264	470	119	94	137	843	473	83
	計	5,284	4,004	5,225	3,043	4,287	6,418	14,284	14,278

第 35 表 外地支店の外国荷為替取組高（大 3 / 下 ~ 7 / 上）

（単位：万円）

支店名	銀行名	大3/下	4/上	下	5/上	下	6/上	下	7/上
台北	香上	1							
	台湾	45	112	209	74	124	27	180	60
	社内								514
	計	46	112	209	74	124	27	180	574
台南	台湾				109	87	240	227	158
安東県	其他				3				
牛荘	社内	161	136	99					
大連	正金	29	52	2	40	51	247	39	1,111
	香上	84	109	64	24	4	117	48	122
	朝鮮								303
	其他	239			343	115	151	154	1
	社内	221				361	741	508	1
	計	573	161	67	408	531	1,256	749	1,536
天津	正金	18	43	19	50	18	180	108	158
	香上	2	9			2		11	14
	渣打								2
	宝通								2
	独亞	1							
	露亞		3						
	其他		6	2		10	80	31	5
	計	21	61	21	50	31	260	150	181
青島出	正金				9	17			
	香上				6	106			
	計				15	123			
上海	正金	835	98	357	371	469	477	521	1,050
	香上	635	8	18	68	111	142	117	299
	渣打			5				19	28
	宝通							66	75
	台湾	100	136	109	185	200	77		114
	露亞			11					
	三井			8	80		32	36	116
	朝鮮								147
	住友								163
	其他				43	107	110	357	373
	社内	79		265					101
	計	1,649	242	773	747	887	838	1,116	2,466
	漢口	正金	150	139	189	223		136	237
香上		20	17	36	10		15	22	20
渣打		5		8	9		23	51	78
独亞		5							
宝通								11	5
台湾			23	215	112		69	152	33
露亞		4							
住友									35
其他			10		25		25	77	33
計		184	189	448	380		268	550	406

香港	正金	281	51	132	252	163	484	393	853
	香上	180	253	122	197	191	620	485	605
	渣打				22		8	15	10
	独亞	10							
	宝通	3	28	6	18				
	台湾	194	168	134	325	181	274	553	796
	和蘭	2							
	其他	15	15		0			2	1
	社内計	443	148	109					
	1,128	663	503	815	535	1,386	1,448	2,264	
廈門出	台湾	5	19	7	16	10			
	社内	8	23	22					
	計	13	42	29	16	10			
福州	台湾				3				
広東	正金	51							
	香上	13	154						
	宝通		22						
	社内	12	2						
	計	76	178						
馬尼刺出	香上	5	25			10	32	27	
	渣打	2	3	1	1	0			
	宝通	9		3	4	10	4		
	三井	8							
	其他			32	3	10	20	20	3
	社内		16	7		14			
	計	24	44	43	7	44	56	47	3
新嘉坡	正金					287	436	481	577
	香上	76	90	13	94		88	98	59
	渣打	2			3	3	11	14	4
	独亞	2							
	宝通	2					22		
	台湾	40	73	81	314	93	155	92	101
	和蘭	6	5						
	其他	8	7	5	20	11	33	71	51
	社内							25	
	計	136	175	99	431	395	745	782	792
泗水出	正金								1
	香上				193			2	164
	台湾				142		44	160	334
	其他				162		0	1	
	計				497		44	163	498
盤谷 孟買	香上				3				
	正金	13	778	553		986	1,236	1,320	1,198
	香上	2	483	180		89	154	65	89
	渣打		114	66		47	180	73	319
	宝通					63	234	70	78
	台湾								213
	三井			345		542	559	642	73
	其他	1	7	20		364	661	427	339
	社内		154	396		282	178	446	420
	計	16	1,536	1,560		2,372	3,201	3,044	2,728

甲谷他出	正金						59	370	523
	香上						87	286	366
	渣打						3	21	40
	宝通						90	110	221
	三井							125	42
	其他						22	482	491
	社内							31	16
計						261	1,423	1,699	
瓜哇出張員	香上					262			
	渣打					70			
	台湾					231			
	其他					3			
	計					566			
倫敦	正金	501	90	118	96	68	96	128	82
	香上	150	53	86	79	33	54	70	39
	渣打			117	59	43	45	30	46
	独亞	11							
	台湾		11	64	80	68	64	73	73
	三井				5				
	クレジット	183	223	165					
	其他	87	33	77	68	61	161	178	122
	社内		210	343		155	2	12	36
	計	932	620	970	387	429	420	492	398
紐育	正金	182	323	324	793	332	497	1,151	794
	香上	29	29		8	121	32	43	
	渣打					177	89	1	1
	宝通	11	11	33	56	2			
	台湾				79	103	348	1,583	853
	三井			232	616	507	999	135	461
	住友								695
	其他		2	49		1	28	71	131
	社内		3	16	30	250	171	190	
	計	222	368	654	1,582	1,494	2,164	3,175	2,935
桑港	正金				277	170	266	510	600
	香上					3		3	1
	台湾								4
	渣打						32		
	三井				13				
	住友								356
	其他				9	44	47	265	267
	社内				0				
計				298	218	344	778	1,228	
海外各店 小計	正金	2,060	1,574	1,694	2,111	2,561	4,114	5,258	7,148
	香上	1,197	1,230	519	682	932	1,341	1,277	1,778
	渣打	9	117	197	94	340	391	224	528
	独亞	29							
	宝通	25	61	42	78	75	350	257	381
	台湾	384	542	819	1,439	1,097	1,298	3,020	2,739
	和蘭	8	5						
	露亞	4	3	11					
	朝鮮								450
	三井	8		585	714	1,049	1,590	938	692
	住友								1,249
	クレジット	183	223	165					
	其他	350	80	185	676	726	1,338	2,136	1,817
	社内	924	692	1,257	30	1,062	1,092	1,212	1,088
	計	5,181	4,527	5,475	5,825	7,846	11,510	14,324	17,866

クレジットハウスの利用は倫敦だけで、5/上から利用しなくなった模様である。社内為替の利用は孟買、倫敦、紐育にみられるが、孟買を別とすれば臨時的、少額の利用であった。

6. むすび

以上、物産の支店金融について、限られた資料によって不十分ながらも実情を解明したが、ファクトファインディングの役目を果たした以上、わざわざ要約する必要はあるまい。残された問題や限界について最後に触れておきたい。

第1は、支店借入の規模についてである。鈴木邦夫氏は「従来の研究では、本部勘定と各店勘定を区分して借入金を分析したものはない」⁽¹⁾とするが、確かにその通りである。同氏は第36表の計数を示した上で、「1910～20年代前半の借入金の大半は支店(=営業各店)借入金であり、……本部借入金は一時的に発生しては消滅する経過的なものが多い」⁽²⁾とされている。本稿と重なる時期について、本部・支店別に鈴木論文で示された計数と本稿でのそれを対比してみたのが、実は第36表である。鈴木論文でも当該期については本稿と同じく「事業報告書」に依拠したはずであるが、なぜか欠落部分があり、本稿の計数と微妙な違いが見出される。その理由は問わないが、本稿は当該期を一貫した形で本部・支店借入金を解明したので、鈴木氏の

第36表 鈴木論文と拙稿における本部・支店借入比較

(単位:万円)

			明41/下	42/下	43/上	下	44/上	下	45/上	下	大2/上	下	3/上	
鈴木論文	本部借入	三井 他行	?	?	?	20	60		100	?	?	—	—	
	支店借入		?	?	?	65	20	105	145	?	?			
本稿	本部借入	三井 他行 計			180	20	60		100	60				
	支店借入	三井 他行 計			175	65	20	105	145	20	20			
		三井 他行 計			355	85	80	105	245	80	20			
	約束手形	本部 支店 計	95 846 941	255 467 724										
		三井 他行 計	105 105	124 124	110 916 1,026	89 1,215 1,304	199 936 1,135	34 547 581	130 994 1,124	23 935 958	73 564 637	37 844 881	78 1,224 1,302	

			大3/下	4/上	下	5/上	下	6/上	下	7/上
鈴木論文	本部借入	三井 他行	600	600	不明		100	不明	780	1,080
	支店借入		785	不明	不明	2,277	2,942	不明	5,618	9,729
本稿	本部借入	三井 他行 計	600 600 600	700 700 700			100 10 100	100 100 100	780 100 880	1,080 200 1,280
	支店借入	三井 他行 計	183 602 785	39 1,066 1,105	227 1,434 1,661	629 1,498 2,127	389 2,553 2,942	585 3,212 3,797	50 4,832 4,882	1,056 7,259 8,315
		三井 他行 計								

- 〔備考〕1. 鈴木論文の出所は、三井物産の各期「事業報告書」、「元帳」(三井文庫所蔵資料、物産1005～1157)とあり、本稿ではすべて「事業報告書」である。
2. 本稿の41/下、42/上の支店借入は当座借越であり、借入金の記載はなかった。約束手形に借入金が含まれている可能性があるのかも知れないので参考表示した。

提示したものをさらに深め、前進させたであろう。特に本稿において支店借入で三井銀行以外に大きく依存していたことが明らかであり、本稿本文でその銀行別まで説明しているわけである。もちろん物産の借入金についての鈴木コメントには異論はないが。

第2に、支店金融の特徴を総括しておこう。第37表は明治41/下～大3/上についてであるが、次のようである。

①内地支店にとって本店借が最大の調達源で、43年を除いて每期多額が続いている。借入金、次いで手形割引が調達手段であって、当座借越は僅少であった。借入、手形割引とも常に三井銀行よりもそれ以外の銀行(他行)に多額に依存していた。

②外地支店では本店借が内地支店よりやや少なく、むしろ他行借入にやや多く依存していた。また、外地支店では三井銀行への当座も借入もなく、手形割引自体がない。本店借と現地銀行からの調達が大きかったと推測される。

第一次大戦を含む大3/下～7/上を第38表でみると、次のように変貌する。

①内地支店では本店借への依存が著しく弱まり、相対的に借入金、割引手形への依存が高まり、特に大3/上の割引手形、6/下以降の借入金急増が目立つ。三井銀行依存が若干あるものの、他行依存が多いことは依然として変わらない。大戦後期での営業急拡大による資金需要を本店借よりも借入に頼ったのである。

②外地支店では本店借に多額に依存し続けるが、それにも増して他行借入が大戦後期に激増した。他行での割引も内地支店ほどではないが行っている。三井銀行からの支援は借入で多少あるものの、圧倒的に他行依存であって、現地調達が大きく進展したことが分かる。

第37表 内外各地店の金融関係(明41/下～大3/上)(総括)

		(単位:万円)											
店部名	科目	明41/下	42/下	43/上	下	44/上	下	45/上	下	大2/上	下	3/上	
内地店部計	本店貸借	△ 1,128	△ 790	△ 454	△ 212	△ 502	△ 1,183	△ 1,056	△ 1,031	△ 1,311	△ 1,608	△ 1,201	
	三井当座	4	20	37	18	53	36	64	27	18	32	34	
	他行当座	△ 101	△ 20	2	6	4	23	3	△ 1	3	12	△ 1	
	三井借入			△ 110	△ 89	△ 199	△ 34	△ 130	△ 23	△ 73	△ 37	△ 78	
	他行借入			△ 538	△ 879	△ 615	△ 232	△ 376	△ 261	△ 158	△ 107	△ 161	
	三井割引						△ 71	△ 201	△ 143	△ 152	△ 158	△ 308	
	他行割引						△ 455	△ 281	△ 480	△ 287	△ 585	△ 562	
	外為保証 外為取組						△ 723	△ 2,567	△ 1,047	△ 2,553	△ 1,266	△ 1,949	
					3,327	4,068	4,096	5,248	5,472	5,324	6,629	6,687	
外地店部計	本店貸借	△ 498	△ 715	△ 481	△ 904	△ 1,050	△ 624	△ 935	△ 754	△ 782	△ 568	△ 921	
	他行当座	91	84	202	50	99	110	23	87	71	66	200	
	他行借入			△ 378	△ 336	△ 321	△ 315	△ 618	△ 674	△ 406	△ 737	△ 1,063	
	外為保証						△ 2,490	△ 2,621	△ 2,966	△ 3,810	△ 4,560	△ 5,781	
	外為取組						2,869	6,484	4,338	7,062	4,548	4,800	
						3,147	4,908	2,869	6,484	4,338	7,062	4,548	4,800
内外地合計	本店貸借	△ 1,626	△ 1,505	△ 935	△ 1,116	△ 1,552	△ 1,807	△ 1,991	△ 1,785	△ 2,093	△ 2,176	△ 2,122	
	三井当座	4	20	37	18	53	36	64	27	18	32	34	
	他行当座	△ 10	64	204	56	103	133	26	86	74	78	199	
	三井借入	不明	不明	△ 110	△ 89	△ 199	△ 34	△ 130	△ 23	△ 73	△ 37	△ 78	
	他行借入			△ 916	△ 425	△ 520	△ 547	△ 994	△ 935	△ 564	△ 844	△ 1,224	
	三井割引						△ 71	△ 201	△ 143	△ 152	△ 158	△ 308	
	他行割引						△ 455	△ 281	△ 480	△ 287	△ 585	△ 562	
	外為保証 外為取組						△ 3,213	△ 5,188	△ 4,013	△ 6,363	△ 5,826	△ 7,930	
					6,477	8,976	6,965	11,732	9,810	12,386	11,177	11,487	

第 38 表 内外地支店の金融関係（大 3 / 下 ~ 7 / 上）（総括）

（単位：万円）

店部名	科目	大3/下	4/上	下	5/上	下	6/上	下	7/上
内地店部計	本支店貸借	△ 943	△ 820	△ 700	△ 232	△ 325	△ 1,175	△ 936	△ 414
	三井当座	53	65	49	35	49	30	75	7
	他行当座	24	24	38	10	46	53	81	△ 92
	三井借入	△ 183	△ 39	△ 170	△ 242	△ 184	△ 73	△ 50	△ 335
	他行借入	△ 88	△ 371	△ 615	△ 691	△ 373	△ 718	△ 1,885	△ 2,321
	三井割引	△ 53	△ 245	△ 162	△ 150	△ 38	△ 18	△ 79	△ 109
	他行割引	△ 1,202	△ 262	△ 598	△ 548	△ 390	△ 715	△ 543	△ 730
	外為保証	△ 950	△ 1,213	△ 1,071	△ 2,391	△ 1,301	△ 2,088	△ 3,516	△ 4,608
	外為取組	5,284	4,004	5,225	3,043	4,287	6,418	12,284	14,278
外地店部計	本支店貸借	△ 1,246	△ 1,075	△ 990	△ 1,154	△ 2,017	△ 1,777	△ 1,822	△ 2,965
	三井借入			△ 57	△ 387	△ 205	△ 512		△ 721
	他行借入	△ 514	△ 695	△ 819	△ 807	△ 2,180	△ 2,494	△ 2,947	△ 4,938
	三井割引				△ 2				
	他行割引	△ 54	△ 282	△ 172	△ 173	△ 355	△ 341	△ 127	△ 246
	外為保証	△ 4,324	△ 3,209	△ 3,838	△ 5,053	△ 5,314	△ 5,657	△ 7,436	△ 9,749
	外為取組	5,181	4,527	5,475	5,825	7,846	11,510	14,324	17,866
内外地支店 合計	本支店貸借	△ 2,189	△ 1,895	△ 1,690	△ 1,386	△ 2,342	△ 2,952	△ 2,758	△ 3,379
	三井当座	53	65	49	35	49	30	75	7
	他行当座	24	24	38	10	46	53	81	△ 92
	三井借入	△ 183	△ 39	△ 227	△ 629	△ 389	△ 585	△ 50	△ 1,056
	他行借入	△ 602	△ 1,066	△ 1,434	△ 1,498	△ 2,553	△ 3,212	△ 4,832	△ 7,259
	三井割引	△ 53	△ 245	△ 162	△ 152	△ 38	△ 18	△ 79	△ 109
	他行割引	△ 1,256	△ 544	△ 770	△ 721	△ 745	△ 1,056	△ 670	△ 976
	外為保証	△ 5,274	△ 4,422	△ 4,909	△ 7,444	△ 6,615	△ 7,745	△ 10,952	△ 14,357
	外為取組	10,465	8,531	10,700	8,868	12,133	17,928	26,608	32,144

第 3 に、期末残高分析の限界である。本論の明治 36、37 年の支店金融の考察で、内地支店は週毎の支店計数が報告され、外地支店は月毎であったが、期中において計数の動きは烈しいことが歴然としていた。本支店貸借にしても、銀行取引も、約束手形の振出高、所有高も毎週あるいは毎月の残高が激しく変動していたのである。考えるまでもなく物産のような貿易商社の場合、営業がめまぐるしく展開し、それにつれて日常の金繰りが忙しく変化するのは当然で、それを期末だけの計数で代表させることに疑問が生ずる。もちろん毎日の動きが分かれば積数計算によってより正確な変動ぶりを知りうるが、元帳がなければ不可能である。現実には期末残高しか知り得ぬ以上、期中の動きには目をつぶって、期末をつなぎ合わせて長期的の変化を考察する外はない。明治 36、37 年の週毎、月毎の計数は例外的に発見できた珍しい材料であるが、残高分析の限界を強く意識させるものであった。

第 4 に、支店金融の複雑さである。国内商品の売買・仲介だけの、いわば単純な商社ならば、その金繰りは商取引を反映して単純であろう。しかし物産のような総合商社の支店では取扱商品が多岐にわたり、多国間にまたがる取引が多いから、資金需要に外国為替の問題が絡んでくる。また、異国通貨の変動への対処(リスク回避)、現地での資金調達の困難のために、本支店間・支店相互間での送金(資金移動)も発生する。物産でも様々の資金需要が発生し、その資金

調達が計られるが、その対応関係まで踏み込んだ考察は極めて困難であろう。本稿のように期末残高で調達結果だけを問題とするのはもちろん不十分であろう。とすれば各支店毎に営業上の性格、取引内容まで踏みこんで、資金需要の内容と結びつけた資金調達の実態へと進む外はあるまい。

- (1) 鈴木邦夫「戦時経済統制下の三井物産(I)」『三井文庫論叢』17号、178頁。
- (2) 同上、179頁。

〔付記〕本稿が依拠した三井物産「事業報告」などの閲覧・複写では、三井文庫、特に永井、大塚両氏にお世話になった。厚くお礼を申し上げる。

〈編集後記〉

本年度もあと一ヶ月を残すだけとなりました。世界同時不況が起きてから学生の内定取り消しの話がそこここで聞かれるようになり、ゼミ生は大丈夫かしらと危惧しております。

さて、月報 11 月号は、麻島参与の「戦前期三井物産の支店金融」でした。いつもながらの麻島参与の三井物産へのこだわりを感じさせる論文でした。今回は戦前における三井物産の支店金融の実態を解明しようとするものです。特に、鈴木論文との対比でより深化させようとするところにご苦労が偲ばれます。それによって支店借入で三井物産以外に大きく依存していたことが解明され、その銀行別まで明らかにした点は、少ない資料の中で大変であったであろうと思います。

(K/M)

神奈川県川崎市多摩区東三田 2 丁目 1 番 1 号 電話 (044)911-1089

専修大学社会科学研究所

(発行者) 内田 弘

製作 佐藤印刷株式会社

東京都渋谷区神宮前 2-10-2 電話 (03)3404-2561
